

琵琶湖博物館業績目録

第 22 号

2017 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2018 年 6 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 22

From April 2017 to March 2018

Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: NAKAI, Katsuki)

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© Lake Biwa Museum, June 2018

All rights reserved

目 次

収録内容	3
館長		
篠原 徹	SHINOHARA, Toru	5
副館長		
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	8
環境史研究係		
山川 千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	12
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	15
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	19
北井 剛	KITAI, Takeshi	22
楊 平	YANG, Ping	24
林 竜馬	HAYASHI, Ryoma	27
渡部 圭一	WATANABE, Keiichi	30
大久保 実香	OKUBO, Mika	34
妹尾 裕介	SENOO, Yusuke	35
田畑 諒一	TABATA, Ryoichi	39
生態系研究係		
亀田 佳代子	KAMEDA, Kayoko O.	42
松田 征也	MATSUDA, Masanari	47
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	51
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	53
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	56
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	59
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	69
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James	72
下松 孝秀	KUDAMATSU, Takahide	74
片岡 佳孝	KATAOKA, Yoshitaka	77
山本 綾美	YAMAMOTO, Ayami	79
芦谷 美奈子	ASHIYA, Minako	81
鈴木 隆仁	SUZUKI, Takahito G.	83
博物館学研究係		
戸田 孝	TODA, Takashi	86
大塚 泰介	OHTSUKA, Taisuke	89
奥野 知之	OKUNO, Tomoyuki	93
金尾 滋史	KANAO, Shigefumi	96
小林 偉真	KOBAYASHI, Hidemasa	101

松岡 由子	MATSUOKA, Yuko	104
澤邊 久美子	SAWABE, Kumiko	106
大槻 達郎	OHTSUKI, Tatsuo	110
嘱託員		
岸 妙子	KISHI, Taeko	113
鈴木 真裕	SUZUKI, Masahiro	115
大喜 のぞみ	DAIKI, Nozomi	117
三桝 友梨香	MIMASU, Yurika	119
名誉学芸員		
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	121
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	124
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	127
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	128
用田 政晴	YODA, Masaharu	129
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark Joseph	130
特別研究員		
天野 一葉	AMANO, Hitoha	132
池田 勝	IKEDA, Masaru	133
岩木 真穂	IWAKI, Maho	135
柏尾 珠紀	KASHIO, Tamaki	136
川瀬 成吾	KAWASE, Seigo	137
北村 美香	KITAMURA, Mika	138
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	141
黒岩 啓子	KUROIWA, Keiko	142
朱 伟	ZHU, Wei	144
瀬口 眞司	SEGUCHI, Shinji	145
辻川 智代	TSUJIKAWA, Tomoyo	146
寺本 憲之	TERAMOTO, Noriyuki	147
中西 康介	NAKANISHI, Kosuke	150
中野 聡志	NAKANO, Satoshi	153
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	154
廣石 伸互	HIROISHI, Shingo	155
藤岡 康弘	FUJIOKA, Yasuhiro	156
矢田 直樹	YADA, Naoki	157
山本 充孝	YAMAMOTO, Michitaka	159
総合研究・共同研究による印刷物		160
2017年度の研究活動をふりかえって		162

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2017年4月から2018年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】（査読を経て掲載された論文）
- 【専門分野の著作】（査読を経ないが、専門的内容の高い著述）
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動
- 【展示活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【広報営業活動】

【新琵琶湖博物館創造室活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 篠原 徹（2017）湖岸より 288 内湖の水田と生物. *中日新聞*, 中日新聞社, 4月1日.
- 篠原 徹（2017）*自然を歩く*. 公益社団法人俳人協会, 東京都.
- 篠原 徹（2017）*民俗の記憶 俳諧・俳句からみる近江*. 社会評論社, 東京都: 239 p.
- 篠原 徹（2017）ごあいさつ. *琵琶湖博物館第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」展示解説書*, 琵琶湖博物館: 2.
- 篠原 徹（2017）酒食同源の不思議な世界—エチオピア・コンソ社会の食生活—. *vesta*, 106, 公益社団法人 味の素食の文化センター, 東京都: 24-25.
- 篠原 徹（2017）琵琶湖と芭蕉. *まほら*, 91, 旅の文化研究所, 東京都: 14-15.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- 国立民族学博物館「もうひとつのドメスティケーション」, 共同研究員.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 3件.
- 2017年4月19日, 特別研究セミナー, 中国科学院水生生物研究所 水生生物博物館張先鋒館長, 開会挨拶.
- 2017年7月15日, 琵琶湖博物館第25回企画展示「小さな水生生物の素敵な旅」, 琵琶湖博物館, 開会挨拶.
- 2017年8月23日, 2017年度博物館実習, 琵琶湖博物館, 挨拶.
- 2017年11月12日, 日本トンボ学会研究大会, 開会挨拶.
- 2017年11月18日, 遊学につぼんシンポジウム, ものがたり観光行動学会, パネリスト.
- 2017年12月10日, 淡海こどもエコクラブ活動交流会・表彰式, 琵琶湖博物館, オブザーバー・選考委員.
- 2017年12月17日, 琵琶湖地域の水田生物研究会, 開会挨拶.
- 2018年1月28日, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 開講挨拶.

他の博物館・機関等主催行事

- 2017年6月24日, 琵琶湖の自然と文化を詠む, 琵琶湖周航の歌100周年記念式典, 高島市民会館(滋賀県), 記念講演.
- 2017年8月17日, 京都の文化的景観研究会勉強会, 京都市文化財保護課, 職員会館かものがわ(京都市), 講師.
- 2017年8月27日, 生態学琵琶湖賞授賞式典, 琵琶湖博物館, 来賓祝辞.
- 2017年11月3日, 自然とつきあう技術—民俗学からみた自然と人間—, 北海道博物館文化の日講演会, 北海道博物館(札幌市), 講演.
- 2017年11月11日, 琵琶湖を詠む, 立命館びわこ講座, 立命館大学 BKC コーニングハウス(滋賀県草津市), 講演.

2017年11月19日、旅と博物館－博物館の楽しみ方－、滋賀県博物館協議会設立35周年記念講演会、野洲市歴史民俗博物館（滋賀県）、パネリスト。
2018年2月18日、ミシガン大学日本研究センターの活動と日本の人文学研究、日本関連在外資料調査研究会、国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）、パネリスト。
2018年2月23日、フィールドから生まれる俳諧・俳句－自然に生きる人々に潜む情感－、歴史民俗講座、小郡市埋蔵文化財調査センター（福岡県）、講演。
2018年2月24日、フィールドワークの愉悅－山野や村を歩く－、歴史民俗講座、小郡市埋蔵文化財調査センター（福岡県）、講演。

視察対応

2017年4月16日、挨拶、山本地方創生担当大臣。
2017年4月18日、挨拶、中国科学院水生生物博物館。
2017年6月2日、挨拶、中部圏知事会議。
2017年6月7日、挨拶、埼玉県議会。
2017年7月19日、挨拶、韓国国立洛東江生物資源館館長、職員。
2017年8月25日、挨拶、関西広域連合議会。
2017年9月9日、挨拶、ミシガン州知事。
2017年12月10日、挨拶、韓国NIE（National Institute of Ecology）。
2018年1月26日、挨拶、マケドニア共和国オフリド水生生物研究所所長。
2018年3月28日、挨拶、中国広西民俗博物館。

メディアへの協力

2017年9月、ミューゼ、「Journal Musee ミュージアムは今どこにいるのか」、インタビュー。
2017年2月9日、びわこ放送、滋賀創生ゼミナール、講師、（2018年1月30日取材対応）。
2018年3月、滋賀銀行「かけはし」、環境意識を刺激する琵琶湖博物館の伝える技術、館内案内、（2018年2月2日取材対応）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

韓国国立洛東江生物資源館と相互協力の合意書調印式、調印、2017年4月21日、韓国国立洛東江生物資源館。
琵琶湖の総合保全活動に対する寄付贈呈式・フォトコンテスト授賞式、フォトコンテスト作品展開会式ご挨拶、2017年4月27日、琵琶湖博物館。
琵琶湖の総合保全活動に対する寄付贈呈式・俳句フォトコンテスト授賞式、フォトコンテスト作品展開会式ご挨拶、2018年3月27日、琵琶湖博物館。

【広報営業活動】

感謝状贈呈式、5件。
2017年10月21日、企業の日、琵琶湖博物館、挨拶。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会、理事。

滋賀県ミュージアム活性化推進委員会，会長.

【海外渡航】

2017年4月20日～22日，韓国国立洛東江生物資源館，韓国国立洛東江生物資源館と相互協力の合意書調印式，調印.

【館外の活動】

高島市指定管理者候補者選定委員会，委員.
国立歴史民俗博物館，名誉教授.
総合研究大学院大学，名誉教授.
琵琶湖環境研究推進機構，顧問.
環境省環境研究企画委員会，委員.
公益信託四方記念 地球環境保全研究助成基金運営委員会，委員.
公益財団法人 尾瀬保護財団尾瀬賞運営委員会，委員.
財団法人 長尾自然環境財団，評議員.
公益財団法人 国際湖沼環境委員会，理事.
公益財団法人 日本博物館協会，参与.
滋賀県立大学教育研究評議会，委員.
京都の文化的景観研究会，検討委員.
滋賀県文化振興事業団，個人会員.
家畜資源研究会，個人会員.
生態人類学会，会員.

副館長

本年度からは、審議員 (琵琶湖博物館副館長) として新たなスタートを切ったが、活動内容は概ねこれまでと同様に博物館の運営を行った。リニューアルに伴う企業訪問は、今年度も継続し、これまで博物館とつながりが薄かった層に対して琵琶湖博物館の魅力やリニューアルの告知をするとともに、リニューアルの支援を呼びかけ、多くの企業から賛同を得ることができた。

研究面では、琵琶湖博物館の研究費を使用することなく、科学研究費基盤 (B) 「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生 (研究代表者: 高原 光) (2014~2017 年度) の研究分担者および科学研究費補助金 (新学術領域研究) 「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究—」 (研究代表者: 西秋良宏) (2016~2020 年度) の研究協力者、さらには国立歴史民俗博物館共同研究「直良コレクションを構成する更新統産動植物化石の分類学的検討と現代的評価」 (研究代表者: 甲能直樹) の共同研究者として、国内外の 5 万年以降の動物相の変遷と動植物相、人類活動との関係性について調査を行い、研究会において発表を行った。

印刷物

【学術論文】

- Takahashi, K. and Yasui, K. (2017) Taxonomic invalidity of Busk's elephant (*Elephas maximus buski* Matsumoto, 1927) demonstrated by AMS ¹⁴C dating. *Paleontological Research*, 21: 195-202.
- 高橋啓一 (2017) 古琵琶湖層群の陸上脊椎動物化石—日本の鮮新—更新世の動物相における意義—. *化石研究会会誌*, 50: 48-59.

【専門分野の著作】

- 高橋啓一 (2017) MIS 3 以降の日本の陸生動物の変遷ならびに北海道における動植物相と旧石器群の関係性. 門脇誠二 編, *ホモ・サピエンスのアジア定着期における行動様式の解明 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「パレオアジア文化史学」研究計画 A02 班 2016 年度研究報告*: 33-35.
- 高橋啓一・琵琶湖博物館はしかけ古琵琶湖発掘調査隊 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手より発見されたシカ化石. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書*, 多賀町教育委員会: 91-100.
- 高橋啓一・琵琶湖博物館はしかけ古琵琶湖発掘調査隊 (2017) 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (2012-2016) 成果のまとめ. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書*, 多賀町教育委員会: 101-104.
- 神谷英利・高橋啓一 (2017) 地学者列伝: 横山次郎—貝類学・ナウマンゾウ・京都大学地質学鉱物学教室. *地球科学*, 71: 185-198.
- 高橋啓一 (2017) 巻頭言 特集「琵琶湖とその生物相のおいたち」. *化石研究会会誌*, 50: 47.
- 高橋啓一 (2017) 第 146 回化石研究会例会 (滋賀県立琵琶湖博物館) の報告. *化石研究会会誌*, 50: 45.
- 半田直人・出穂雅実・高橋啓一・飯塚文枝・Batmunkh Tsogtbaatar・Byambaa Gunchinsuren・Davaakhuu Odsuren・Lochin Ishtsere (2017) モンゴル東部オンドルハーンより後期更新世サイ科化石の発見. *地質学雑誌*, 123 (12): 口絵 v-vi.
- 高橋啓一 (2018) 人が広げる博物館の理念. 稲村哲也・近藤智嗣 著, *博物館情報・メディア論*, 放送大学教育振興会: 262-265.
- 高橋啓一・谷下ワニ研究会 (2018) 浜名湖周辺のナウマンゾウとその意義について. *浜松市博物館報*: 21-40.
- 高橋啓一 (2018) ユーラシア北方における MIS 3 以降の哺乳動物相の変遷. 門脇誠二 編, *パレオアジア文化史学 計画研究 A02 班 2017 年度研究報告*: 33-37.

【一般向けの著作】

- 高橋啓一 (2018) 湖岸より 309 ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほitori. *中日新聞*, 中日新聞社, 1 月 13 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Takahashi, K., Baba, R., Yoneyama, A. and Kitagawa, H. (2017年9月18日) X-ray CT observation of the Middle Pleistocene Japanese mammoth (*Mammuthus protomammonteus*) molars. VII International Conference of Mammoths and Their Relatives, 台湾国立自然科学博物館 (台湾台中市), [ポスター発表].
- Kitagawa, H. and Takahashi, K. (2017年9月18日) Evolution and immigration of Lower-Middle Pleistocene elephants of Japan and Taiwan. VII International Conference of Mammoths and Their Relatives, 台湾国立自然博物館, 台湾国立自然科学博物館 (台湾台中市), [口頭発表].
- 高橋啓一 (2017年12月9~10日) 東アジアにおけるMIS 3以降の哺乳動物相の変遷 (その1. 北方の動物相). 文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究」第4回研究大会, 東京大学 (東京都), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」 (研究代表者: 高原 光), 研究分担者 (2014 年度~2017 年度).
- 科学研究費助成事業 (新学術領域研究) 「パレオアジア文化史学—アジア新人文化形成プロセスの総合的研究—」 (研究代表者: 西秋良宏), 研究協力者 (2016 年度~2020 年度).
- 国立歴史民俗博物館共同研究 「直良コレクションを構成する更新統産動植物化石の分類学的検討と現代的評価」 (研究代表者: 甲能直樹), 共同研究者 (2017 年度~2019 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 化石研究会, 運営委員, 2013 年 6 月~.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8 回.

はしかけ運営「ほねほねくらぶ」, 担当.

2018 年 1 月 28 日, ゾウがいた、ワニもいた琵琶湖のほとり, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2017 年 8 月 12 日, ナウマンゾウは語る, 市民協働展「三遠南信土の中のわくわく動物園」特別講座, 浜松市立博物館 (静岡県), 講師.

2017 年 12 月 3 日, 化石とあそんで 40 年, 近畿地学会, 第 265 回近畿地学会例会, ココプラザ (大阪市), 講演.

2018 年 1 月 12 日, 博物館展示論, 龍谷大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2018 年 3 月 10 日, 琵琶湖の周りにいたゾウたち, びわ湖の日 滋賀県提携龍谷講座 in 大阪, 龍谷大学大阪梅田キャンパス (大阪市), 講師.

視察対応

2017 年 4 月 16 日, 展示案内, 山本幸三地方創生担当大臣ほか.

2017 年 4 月 26 日, 展示案内, 企業連携感謝状贈呈式および意見交換会参加者.

2017 年 5 月 31 日, 博物館の概要説明および展示案内, 滋賀県琵琶湖環境部新任職員研修.

2017 年 6 月 2 日, 博物館の概要説明および展示案内, 第 107 回中部圏知事会議.

2017年6月29日, 展示案内, 日赤奉仕団視察団.
2017年7月18日, 展示案内, セトレマリーナ研修.
2017年7月19日, 展示案内, 韓国国立洛東江生物資源館.
2017年7月30日, 展示案内, 日本生命.
2017年8月15日, 展示案内, タイ国 WWF, Chavalei Vidthayanon 博士.
2017年8月25日, 展示案内, 関西広域連合議会視察.
2017年9月1日, 展示案内, 総務省自治財政局視察.
2017年9月9日, 展示案内, ミシガン州知事一行視察.
2017年10月9日, 展示案内, 企業の日「叶匠寿庵」.
2017年10月18日, 展示案内, 企業連携感謝状贈呈式および意見交換会参加者.
2017年10月21日, 展示案内, 企業の日「近江鍛工」.
2017年10月27日, ごあいさつ, 自然系調査研究機関連絡会議.
2017年11月17日, 展示案内, 三菱日立ルール視察, 展示案内.
2018年3月16日, 展示案内, SATOYAMA イニシアチブ推進ネットワーク.

メディアへの協力

2017年7月1日, びわ湖放送, 開局45周年特別番組「発進! びわ湖新時代」, 出演.
2017年11月16日, 放送大学(情報・メディア論), 出演録画.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石標本データベース公開, 担当.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

化石資料, 受入・貸出.

【企画調整活動】

JICA 研修「博物館とコミュニティ開発」, ごあいさつ, 2017年10月3日, 琵琶湖博物館.

【広報・営業活動】

企業訪問, 32件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2004年～, 図書選定委員.
2014年～, 研究審査委員.

【海外渡航】

2017年9月17日～9月23日, 台湾国立自然科学博物館(台湾台中市), VII International Conference of Mammoths and Their Relatives における研究発表.

【館外の活動】

2012年9月1日～, 西日本自然史系博物館ネットワーク, 標本救済ネットワーク.
2014年4月～, 琵琶湖環境研究推進機構, 幹事.

2017年4月1日～，平山郁夫シルクロード美術館，特別顧問.

2017年4月1日～，名古屋大学博物館，研究協力員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境を明らかにすることを目的にしている。今年度は、共同研究「古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明」を軸に、野外調査や試料採取およびその処理を行った。また、第3期展示リニューアルを見据えて、2015年度から行っていた共同研究「大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元」（研究代表者：林 竜馬）の中で、滋賀県長浜市西浅井町山門地先にある山門湿原のボーリングコア試料を用いた最終氷期の古植生復元の研究を行い、大型植物化石の洗い出しと選別・同定作業を行った。その成果発表を日本植生史学会で公表した。専門研究は、唯一古琵琶湖層群からネズミ類の化石が報告されている堅田層栗原火山灰層準に近い、高島市長尾の安曇川の河床に分布する堅田層相当層から得られたクルミ属堅果化石にある生痕に焦点を当て、「中期更新世小型動物の生息環境と古生態の解明」するため、共産する大型植物化石の組成を明らかにし、生痕を付けた小動物の生息環境を検討した。

印刷物

【学術論文】

Yabe, A. and Yamakawa, C. (2017) Revision of *Cunninghamia protokonishii* Tanai et Onoe (Pinopsida, Cupressaceae) from East Asia. *Paleontological Research*, 21(4): 309-328.

【専門分野の著作】

山川千代美・神谷悦子・布谷知夫（2017）滋賀県多賀町四手産の大型植物化石に基づく古植生. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」, 多賀町教育委員会: 27-37.

山川千代美（2017）植物相からみた古琵琶湖の動物たちが生きた環境. *化石研究会会報*, 50(2): 82-89.

【一般向けの著作】

山川千代美（2017）湖岸より 299 湖面に広がる水生植物ヒシ. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月26日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山川千代美（2017年 6月 16日）山門湿原ボーリングコアサンプルから得られた大型植物化石. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

山川千代美・林 竜馬・里口保文・藤本秀弘・橋本 勘（2017年 12月 3日）滋賀県北部山門湿原 AT 火山灰包含堆積物から産出した大型植物化石群集. 第 32 回日本植生史学会大会, 宮崎大学（宮崎市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「中期更新世小型動物の生息環境と古生態の解明」, (2017 年度).

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明」(研究代表者: 山川千代美), 研究代表者 (2017 年度~2019 年度).

琵琶湖博物館共同研究「大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元」(研究代表者: 林 竜馬), 副代表 (2015 年度~2017 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件。

はしかけ運営「古琵琶湖発掘調査隊」，担当。

2017年8月25日，研究活動について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2017年9月16日～9月30日，古代ゾウ発掘プロジェクト第5次発掘，多賀町立博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

古琵琶湖層群産化石標本，受け入れ対応、標本整備推進。

他の博物館主催の活動

甲賀市土山歴史民俗資料館，曳山材資料の樹種同定。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2018年度企画展示「化石林」準備，主担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

マネージメント会議。

琵琶湖博物館協議会。

JICA研修「博物館とコミュニティ開発」，琵琶湖博物館での研究活動，講師，2017年11月14日，琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル 展示交流空間ディスカバリールーム，グラフィック制作アドバイス。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館名誉学芸員，新規手続き。

琵琶湖博物館特別研究員（川那部浩哉・用田政晴），受入担当。

研究部代表者会議，運営。

学芸会議，運営。

文部科学省科学研究費補助金対応。

外部監査以後の議会対応。

県試験研究機関連絡会議，幹事。

琵琶湖環境研究推進機構，幹事。

韓国国立洛東江生物資源館との合同セミナー，協議・エクスカージョン，総括，2017年7月19日～22日，琵琶湖博物館。

オフリド水生生物研究所との合同セミナー，協議・エクスカージョン，総括，2018年1月25日～29日，琵琶湖博物館。

研究報告会，2017年6月21日・22日，対応，琵琶湖博物館。

研究審査会，2017年9月24日，記録，琵琶湖博物館。

地学研究発表会，2018年2月14日，滋賀大学サテライト（滋賀県大津市）.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

中日新聞掲載記事，添削.
衛生委員.

【館外の活動】

しが生物多様性大賞，審査委員.

地層から過去の地層ができる環境解析を行うことや、地層中の火山灰層から、地層の年代決定や、過去の火山活動の検討を行うことを中心に研究を行っており、これらの研究は、現在の琵琶湖がどのようにできてきたのか？を知る研究に結びついている。

今年度は、琵琶湖の成立および古琵琶湖の環境変遷について、既存研究のまとめを行った。その成果は、化石研究会会誌に掲載された。この検討から浮かび上がった環境変遷について、とくに水系変化の問題について、今後明らかにしていく必要がある。また、この内容での一般書として、琵琶湖博物館ブックレットの原稿を執筆した。出版の問題でまだ編集に取りかかれていないようだが、来年度にはとりかかっていただけと思われる。現在の琵琶湖の堆積物研究として、来年度から実施する南湖湖底堆積物を使った過去の環境変動、特に植生生産量変化の研究を琵琶湖博物館共同研究として提案を行った。この提案のために、共同研究者らと議論を進めた。

琵琶湖地域の研究の他、数年前から関わっている IODP による日本列島周辺の海底コア解析については、紀伊半島沖および日本海側について、それぞれ共同研究者による論文が投稿され、紀伊半島沖は出版済み、日本海側は受理済みとされている。火山灰研究については、いずれの地域も投稿準備中である。また、地質時代の新生代第四紀更新世前期・中期境界の模式地提案についての研究チームの一員として活動を行っていた件については、6月に提案書の提出をし、11月には日本側の提案が対象時代境界検討ワーキンググループによって採択され、第四紀層序小委員会への答申が行われることになった。時代境界模式地としての認定には、残り3つのステップが必要であるが、少なくとも第四紀の研究者には、地質時代境界の基準地として日本の地層が地球上でもっともよいと国際的に認められたといえる。

事業的には、環境省自然環境局生物多様性センターが事務局となっている NORNAC の今年度大会を滋賀県で行うため、琵琶湖環境科学研究センターと共同で琵琶湖博物館を会場として行い、その対応にあたった。滋賀県試験研究機関連絡会議の研究発表会を琵琶湖博物館で開催し、その対応にあたった。また、資料管理データ・ベースを SaaS 方式で行うための仕様の作成およびデータ移行の手続きを行った。この方式によって、新たな分野の資料データ・ベースの構築を推進し、いくつかの分類について構築を行った。

また、地域の人びとがフィールドのおもしろさを紹介する「地域の人びとによる展示コーナー」の展示替えを行った。展示をされた方による展示室での交流を多く実施していただき、その対応にあたった。その他、地域の方々と実施する地学研究発表会の運営などを、地学関係学芸職員と行った。

印刷物

【学術論文】

Kremer, K., Usman, M. O., Satoguchi, Y., Nagahashi, Y., Vadakkepuliymbatta, S., Panlen, G. and Strasser, M. (2017) Possible climate preconditioning on submarine landslides along a convergent margin, Nankai Trough (NE Pacific). *Progress in Earth and Planetary Science*, 4: 20. DOI 10.1186/s40645-017-0134-9.
里口保文 (2017) 古琵琶湖堆積盆周辺の古水系変化の検討. *化石研究会会誌*, 50 : 60-70.

【専門分野の著作】

里口保文 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手発掘地の層序および堆積環境. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」*, 多賀町教育委員会 : 19-26.
富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古代象発掘調査地点における珪藻化石群集 (予報). *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」*, 多賀町教育委員会 : 45-50.

【一般向けの著作】

- 日本地形学連合 編 (2017) *地形の辞典*. 「層序学」・「地質年代(学)」・「年代層序单元」・「地質年代单元」・「同時代面」・「大分層群」・「古琵琶湖層群」分担執筆, 朝倉書店: 1032p.
- 里口保文 (2017) 湖岸より 298 滋賀県の3種類の石. *中日新聞*, 中日新聞社, 8月12日.
- 里口保文 (2017) 琵琶湖の生い立ちを調べる. *硝友 (日本電気硝子創立記念特別号)*, no. 405, 日本電気硝子総務部: 7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 服部圭治・大塚泰介・堂満華子・里口保文 (2017年5月28日) 東海層群亀山層から産出した *Praestephnos suzuki* 類似種化石の形態観察. 日本珪藻学会第38回大会, 日本珪藻学会, 大森海苔のふるさと館 (東京都大田区), [口頭発表].
- 里口保文 (2017年7月3日) 下部・中部更新統境界模式地と広域テフラ. 地学団体研究会大阪支部例会, 地学団体研究会大阪支部, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [口頭発表].
- 中里裕臣・里口保文・竹下欣宏 (2017年8月26日) 房総半島養老川における上総層群中-下部国本層テフラの再検討. 日本第四紀学会2017年学術大会, 日本第四紀学会, 福岡大学 (福岡市), [口頭発表].
- 里口保文・芳賀裕樹 (2017年8月27日) 琵琶湖南湖の草津川河口沖湖底堆積物の堆積相と堆積速度. 日本第四紀学会2017年学術大会, 日本第四紀学会, 福岡大学 (福岡市), [ポスター発表].
- 里口保文・竹下欣宏・中里裕臣・風岡 修 (2017年9月16日) 下部・中部更新統境界に挟在する On-Byk テフラの房総半島における層相変化と堆積環境. 日本地質学会第124年学術大会, 日本地質学会, 愛媛大学 (松山市), [口頭発表].
- 佐川拓也・長橋良隆・里口保文・Holbourn, Ann・板木拓也・Gallagher, Steven J.・Saavedra-Pellitero, Mariem・池原 研・入野智久・多田隆治 (2017) 日本海南部と東シナ海における火山灰・酸素同位体統合層序の構築. 2017年地球環境史学会年会, 地球環境史学会, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「古琵琶湖層群中部付近の古流向」, (2017年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 副代表者 (2014年度~2018年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元」(研究代表者: 林 竜馬), 研究分担者 (2015年度~2017年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期における化石林に基づく水辺植生と古環境の解明」(研究代表者: 山川千代美), 研究分担者 (2017年度~2019年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者: 橋本道範), 研究分担者 (2015年度~2018年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「鈹質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」(研究代表者: 大塚泰介), 連携研究者 (2014年度~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 2009年9月~, 日本第四紀学会, 評議員.
- 2017年9月~, 日本第四紀学会, 編集委員会, 編集委員.
- 2012年4月~, 日本地質学会, 代議員 (地方区).
- 2016年5月~, 日本地質学会近畿支部, 幹事会, 幹事長.
- 東京地学協会, 地学雑誌, 査読, 1件.
- AGU-Publication, Geochemistry, Geophysics, Geosystems (G-Cubed), 査読, 1件.

Elsevier, Quaternary International, 査読, 1 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017 年度前半期集中講義, 滋賀県立大学学部学生, 「環境地球科学 II」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 10 件.

2017 年度, はしかけグループ「大津の岩石調査隊」, 担当.

他の博物館・機関等主催行事

2017 年 8 月 2 日, 琵琶湖がどうやってできたのか, 愛知県立明和高等学校, 明和高等学校 SSH, 琵琶湖博物館, 講演.

2017 年 9 月 9 日, 火山灰層からみた掛川層群の重要性, ふじのくに地球環境史ミュージアム, 企画展記念講演会, ふじのくに地球環境史ミュージアム (静岡市), 講演.

2017 年 10 月 19 日, 琵琶湖のおいたち, 全国精神保健福祉連絡協議会, 総会準備懇話会, 大津合同庁舎 (滋賀県大津市), 講演.

2018 年 2 月 8 日, 琵琶湖の誕生, 南草津歴史街道くらぶ, 琵琶湖勉強会, 琵琶湖博物館, 講演.

2018 年 3 月 3 日, 古琵琶湖が残した地層、移動してきた琵琶湖, 龍谷大学・滋賀県, びわ湖の日滋賀県提携龍谷講座 in 大阪, 龍谷大学大阪梅田キャンパス (大阪市), 講演.

視察対応

2017 年 10 月 19 日, 関西国際空港第二期工事のボーリングコア保管状況確認, 関西国際空港株式会社.

メディアへの協力

2017 年 12 月 9 日, NHK, ブラタモリ, 松原内湖の成因についての助言, (2017 年 11 月 11 日ほか数回).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

資料データベースの移行, 担当, 全データベース.

無脊椎動物標本データベース, 入力先構築.

微小生物標本データベース, 入力先構築.

岩石鉱物標本寄贈受入, 担当, 3 件.

堆積物標本寄贈受入, 担当.

岩石鉱物標本寄託受入, 担当.

堆積物標本特別観覧, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017 年 4 月 1 日～9 月 30 日, A 展示室コレクションギャラリー地域の人々による展示コーナー, 担当 (馬越仁志さんによる化石の展示).

2017 年 10 月 1 日～2018 年 1 月 31 日, A 展示室コレクションギャラリー地域の人々による展示コーナー, 担当 (谷脇俊之さんによる鉱物の展示).

2018 年 2 月 1 日～9 月 30 日, A 展示室コレクションギャラリー地域の人々による展示コーナー, 担当 (福井龍幸さ

んによる鉱物の展示).

2017年度, A展示室コレクションギャラリー地域の人々による展示コーナー交流, 受入担当, 11回.
モーニングレクチャー, 講義, 3回.

【研究部関連事業】

試験研究機関連絡会議, 幹事.

試験研究機関連絡会議発表会, 担当, 2017年11月19日, 琵琶湖博物館.

NORNAC, 副担当.

NORNAC20の開催, 副担当, 2017年10月26・27日, 琵琶湖博物館.

琵琶湖環境研究推進機構, 調査員.

I、総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」（研究代表者橋本道範、2014年度～2018年度）及び科学研究費補助金基盤研究（B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」（研究代表者橋本道範、2015年度～2018年度）については、第9回研究会（2017年11月4日～5日）、第10回研究会（2018年1月20日～21日）を開催し、とりまとめに向けた議論を重ねている。琵琶湖地域の環境の最大の特徴は、琵琶湖の存在であるが、その周囲に広大な水辺（エコトーン）が展開することが重要である。本研究ではこれを「湖と水辺」として扱うこととした。そして、地域のおよそ半分を占める森林を「森と林野」として扱う。水田や草地は、湿性のものは「水辺」に、乾性のものは「森と林野」に含めて考察した。その結果、現在のところ成果は次の3点に整理される。

第一に、滋賀県立琵琶湖博物館が依って立つ生活環境主義を批判的に継承している本研究では、生活者が形成する、現在の「大字」に相当する「ムラ」の歴史的意義が明確になりつつある。ムラの世界史的特質がその前史との比較によっても明らかになりつつあるとともに、掟、信仰、民俗儀礼などをSecondary nature（かくあるべき自然）と位置付けることによってムラの自然観の実態が明らかになりつつあり、更に、ムラがいかに維持されたのかその仕組みが解明されつつある。

第二に、首都京都を中心とした消費とムラを基盤とする生業との関係が明らかになりつつある。特に、消費については、材の消費と魚介類の消費実態について研究が進化した。材の消費における用材傾向や木材加工用具の組成が古墳時代から中世前期は一連の時代と捉えられるという結果は、人口の安定期が同一の自然観によって支えられるという仮説を導くものである。さらに滋賀県における出土木製品用材データベースの解析が進み、古代にはスギのみならずヒノキも卓越することが明らかになり、材の流通や人々の用材観にも関わる重要な変化であることが見出された。

第三に、ムラの自然観と生業との関わりを明らかにする基盤が構築された。特に、琵琶湖地域の古植生に関しては、大きな成果を得ることができた。琵琶湖博物館所蔵の「琵琶湖真景図」（1866年）と大津市歴史博物館所蔵の「琵琶湖眺望真景図」との比較によって両史料が当時の植生をかなりよく反映していることが明らかになった。また、遺跡の古生態学データの分析によって、過去1万年における通時的な森林植生の変化、すなわちコナラ亜属優位からアカガシ亜属優位への変化、イネ科・マツ属の出現から優位への変化、スギ花粉の減少等も明らかになっている。これにより、森や材の価値付けなどの自然観の変化、資源利用の変化と現実の自然との照合作業が可能な状態となった。

また、カワウをめぐる愛知県・鶴山と琵琶湖地域・竹生島等との比較が進んでいるが、寺院の「境内」という「かくあるべき自然」が設定された空間とカワウの価値付けとの関わりが明らかになりつつあり、カヤネズミに関して同様に草地の価値付けの変化についての議論が進んでいる。

最後に、漁撈をめぐる自然観についても大きな成果が見られた。水辺そのものの科学的あり方が解明され、高流速部と低流速部・滞流部の技術や領有のあり方の差異が明確になった。また、技術が自然認識とどう関わるのかについても解明されつつある。

なお、これらの成果の一部については、アメリカ合衆国のオハイオ州立大学における招待講演で報告し、トピック展示『近江水産図譜』の世界—明治期の琵琶湖漁撈—でも紹介した。

II、科学研究費補助金基盤研究（A）「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」（研究代表者青柳周一氏、2016年度～2021年度）において、菅浦文書の再翻刻に向けて、作業を分担した。

III、京都大学人文科学研究所研究班「生と創造の探究—環世界の人文学」については、次の報告（仮）「地域環境史と自然観」を準備中である。

IV、日本史研究会編集委員として、会誌『日本史研究』の編集を分担した。特に、『日本史研究』658号「特集 鎌倉後期～南北朝期における畿内武士社会の諸相」の編集を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

橋本道範 (2017) 網野善彦と「自然そのものの「論理」」. *歴史評論*, 805 : 56-68.

【一般向けの著作】

橋本道範 (2017) 湖岸より 300 琵琶湖地域の文化を世界へ. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月9日.

橋本道範 (2017) 「ふなずし」の歴史と未来を語る. *硝友* (日本電気硝子創立記念特別号), no. 405, 日本電気硝子 : 8.

橋本道範 (2018) 琵琶湖とフナと「ふなずし」と. *近江学*, 10 : 48-53.

橋本道範 (2018) 『近江水産図譜』の世界—明治期の琵琶湖漁撈—. 琵琶湖博物館 : 6p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Hashimoto, M. (2018年1月23日) The prohibitions on hunting and fishing in the area around Lake Biwa in the Middle Ages in Japan: Rulers' and commoners' evolving concepts of nature. *Water, Culture, and Society in Global Historical Perspective Conference II: Water and Culture & The Effluent Society*, The Merston Center, The Ohio State University, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「日本中世史は「種」を問題とすることができるか—地域環境史への挑戦—」, (2017年度).
琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
(研究代表者: 橋本道範), 研究代表者 (2014年度~2018年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」 (研究代表者: 橋本道範),
研究代表者 (2015年度~2018年度).

科学研究費助成事業 (基盤 A) 「「菅浦文書」の総合調査及び村落の持続と変容の通時代的研究」 (研究代表者: 青柳周一),
研究分担者 (2016年度~2021年度).

京都大学人文科学研究所研究班「生と創造の探究—環世界の人文学」 (班長: 藤原辰史・石井美保), 班員 (2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

2015年10月~2017年10月, 主査5本・副査2本・『日本史研究』658号「特集 鎌倉後期~南北朝期における畿内武士社会の諸相」の編集, 日本史研究会, 編集委員.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2018年1月4日, 滋賀県立大学博物館資料保存論, 「資料保存環境を維持するための実務—IPMを中心に—」.

【受賞など】

第30回地方出版文化功労賞・奨励賞, 橋本道範 編『再考 ふなずしの歴史』(サンライズ出版, 2016年)が評価されたため.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，6件。

2017年8月24日，IPMについて―地道にこつこつ―，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2017年7月8日，明治の地籍図から見る村の姿，浅井歴史民俗資料館・あざい歴史の会，浅井図書館（滋賀県長浜市），講師。

2017年10月21日，フナズシの謎に挑む―地域環境史の構築に向けて―，京都大学地球環境フォーラム，京都大学（京都市），講師。

2017年10月29日，「ふなずし」研究のこれまでとこれから，ブックインとっとり2017 第30回地方文化功労賞・奨励賞 表彰式・受賞記念講演会，鳥取県立図書館（鳥取市），講師。

2017年11月19日，琵琶湖とフナとフナズシと，湖上で学ぶ！琵琶湖体感・体験クルーズ，滋賀県琵琶湖保全再生課，琵琶湖汽船 megumi 船上，講師。

2018年2月20日，琵琶湖の民俗史，成安造形大学芸術学部芸術学科，琵琶湖博物館，講師。

2018年3月29日，琵琶湖のエリの世界的価値，「世界農業遺産」認定をめざして「(仮称)琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会」設立総会&講演会～世界に誇る“琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業”～，滋賀県・琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会，滋賀県庁（大津市），講師。

メディアへの協力

2017年10月30日，京都新聞，ふなずし文化、世界に発信，取材対応，（2017年10月29日）。

2017年10月30日，中日新聞，ふなずし文化を研究 滋賀の学芸員奨励賞，取材対応，（2017年10月29日）。

2017年10月30日，日本経済新聞，「ふなずし 世界に発信」琵琶湖博物館の学芸員 著者が受賞、講演，（2017年10月29日）。

2017年11月2日，産経新聞，ふなずし文化を世界に発信 うれしい，取材対応，（2017年10月29日）。

2017年11月15日，毎日新聞，ブックインとっとり，取材対応，（2017年10月29日）。

2017年11月28日，毎日新聞，「ふなずしの歴史」奨励賞，取材対応，（2017年10月29日）。

2017年12月7日，産経新聞，キーパーソン ふなずし通説に新たな息吹，取材対応，（2017年11月13日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

大掃除（B展示室・歴史研究室）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2018年3月19日～5月27日，トピック展示『近江水産図譜』の世界―明治期の琵琶湖漁撈―，担当。モーニングレクチャー，講義，4回。

【企画調整活動】

新任職員等研修，B展示室，講師，2017年4月13日，琵琶湖博物館。

事業活動としては、新琵琶湖博物館創造室に所属し、第2期リニューアル事業における樹冠トレイルの工事（土木一式工事および橋梁上部工事）を担当した。工事担当として、工事積算業務委託および資材単価調査委託を発注し、工事発注のための資料を作成した。これと並行して、工事实施の際に必要な関係法令許認可手続きに係る各行政機関との協議や、土地所有者との協議を行った。工事の発注にあたっては、総合評価方式の入札に係る審査委員会へ諮る資料の作成を行った。工事の監督にあたっては、現場技術業務委託を発注し、現場技術員と協力して工事立会や設計変更資料の作成にあたるなど、円滑な工事实施に努め、土木一式工事について検査課による中間検査を3月に受検した。また、両工事について、変更契約のための変更設計書を作成し、出来高払いのための出来形設計書を作成した。

事業部展示係においては、常設展示維持管理業務委託を監督し、展示造形物の補修等を随時行った。また、屋外展示維持管理業務委託を監督し、樹木剪定と除草を行った。

研究活動では、愛知川の土砂動態に関する研究を行った。愛知川では、河口部での砂浜侵食や、河道部での河床低下やアーマーコート化、河床材料の粗粒化などの問題が見られるが、これらの要因として、上流の永源寺ダムによる流出土砂量の減少などが指摘されている。こうした流砂環境の改善を図るため、土砂の掃流を促すための方策として、固定化した砂州の表層アーマーコートを破壊する河床耕耘の有効性に着目した。愛知川中流部の固定化した砂州における河床耕耘試験工事の実施について各関係機関との調整を行う傍ら、これまでデータが無かった砂州表層の粒径分布について、現地調査を行った。また、今年度の台風5号および21号による大規模洪水後の表層粒度分布変化をそれぞれ把握するため、各洪水後に現地調査を行った。12月には現地の砂州における河床耕耘試験工事が実施され、工事後の表層粒径分布を把握するための現地調査を行った。今後、出水後の変化等についてモニタリングを行う予定である。

印刷物

【一般向けの著作】

北井 剛 (2018) 湖岸より 310 「樹冠トレイル」完成に向けて. *中日新聞*, 中日新聞社, 1月27日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 東 善広・水野敏明・北井 剛 (2017年9月22日～25日) 空撮画像を用いた表層河床材料の平均粒径分布の推定. 応用生態工学会第21回大会, 応用生態工学会, 名古屋大学 (名古屋市), [ポスター発表].
- 北井 剛 (2017年10月20日) 愛知川における河床粒径調査と台風5号による出水後の状況について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 水野敏明・北井 剛・東 善広 (2017年10月28日～29日) 愛知川における土砂移動動態から考えるアユ・ビワマスの生息環境リスク. 第30回日本リスク研究学会年次大会, 一般社団法人日本リスク研究学会, 滋賀大学彦根キャンパス (滋賀県彦根市), [ポスター発表].
- 東 善広・水野敏明・北井 剛 (2018年3月21日～24日) 写真撮影法による表層河床材料の粒径分布の計測と応用. 日本地理学会2018年春季学術大会, 公益社団法人日本地理学会, 東京学芸大学 (東京都小金井市), [ポスター発表].
- 水野敏明・東 善広・北井 剛 (2018年3月27日～29日) 愛知川のアユの産卵期における遡上タイミングの水中撮

影調査による推定. 平成 30 年度日本水産学会春季大会, 公益社団法人日本水産学会, 東京海洋大学 (東京都港区), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「愛知川の土砂動態に関する研究」, (2017 年度).

琵琶湖環境研究推進機構「水系のつながりと在来魚介類の分布・移動との関係把握」, 河川解析班.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 4 件.

2018 年 2 月 3 日, フィールドレポーター調査勉強会, 学芸職員から見た橋の魅力, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2017 年 7 月 19 日, 葉山川のひみつ, 笠縫東学区まちづくり協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017 年度, 常設展示維持管理, 主担当.

常設展示維持管理委託, 主担当.

屋外展示維持管理委託, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4 回.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第 2 期リニューアル 交流空間リニューアルに関すること・樹冠トレイルの工事に関すること, 主担当.

第 2 期リニューアル 樹冠トレイル積算業務委託 (下部工), 主担当.

第 2 期リニューアル 樹冠トレイル積算業務委託 (上部工), 主担当.

第 2 期リニューアル 樹冠トレイル資材単価調査委託, 主担当.

第 2 期リニューアル 樹冠トレイル現場技術業務委託, 主担当.

第 2 期リニューアル 樹冠トレイル整備工事 (下部工), 主担当.

第 2 期リニューアル 樹冠トレイル整備工事 (上部工), 主担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017 年度, 滋賀県土木交通部流域政策局河川・港湾室河川環境係, 主査を兼務.

平成 29 年度（2017 年度）の事業活動においては、国立民族学博物館との共催事業である「博物館とコミュニティ開発」と題する研修事業及び全体の運営業務を担当したほか、全国科学博物館協議会、日本博物館協議会、日本動物園水族館協議会などの業務を担当した。また、博物館実習の担当として、博物館実習要項や具体的な講義内容、実習にかかわる全体の対応等を行うとともに、大学においても「琵琶湖と博物館研究調査活動」を講義内容に盛り込んで実施するなど、地域還元につなぐ博物館の活動に貢献した。

今年度の主な研究業績に関しては、地域活性化につなぐ博物館の対応についての論考を博物館学雑誌の『博物館研究 Museum studies』に掲載された。稲作研究については、学際的共同研究の枠組みの中で、琵琶湖博物館共同研究および科学研究費助成事業（日本学術振興会科学研究費補助金事業（新学術領域研究（研究領域提案型））の連携研究として、湖沼地域における稲作文明の追究を行うための基礎データの蓄積を進めた。また共同研究「地域活性化」関連の成果として、「名水「観光」にみる地域社会の活性化」と題した論考が掲載されたほか、水辺暮らしと環境の社会学について研究報告等を行い、研究成果の一般公表を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

- 楊 平 (2017) 名水「観光」にみる地域社会の活性化. *ものがたり観光行動学会誌* 7, *ものがたり観光学会*: 14-25.
楊 平 (2018) 博物館における多言語対応 (特集 博物館における多言語対応). *博物館研究 = Museum studies*, 53(1), 日本博物館協会: 11-14.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 楊 平 (2017 年 9 月 25 日) 水辺暮らしと環境の社会学. 環境社会学研究会, 立命館大学・東京キャンパス (東京都), [口頭発表].
楊 平 (2017 年 11 月 18 日) 名水「観光」にみる地域社会の活性化. *ものがたり観光学会*, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
楊 平 (2018 年 3 月 16 日) 水資源の共同利用をめぐるまちづくりの課題. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「池の利用と管理に関する社会学的研究」, (2017 年度).
琵琶湖博物館共同研究「水資源をめぐるまちづくりのありかたに関する社会学的研究」(研究代表者: 楊 平), 研究代表者 (2016 年度~2019 年度).
科学研究費助成事業 (新学術領域(研究領域提案型))「民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相」(研究代表者: 細谷 葵), 連携研究者 (2017 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- Biodiversity Science, 査読, 1 件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017 年度前期, 大阪産業大学人間環境学部, 「特別講義 A」, 非常勤講師.

2017 年度後期, 龍谷大学社会学部, 「びわ湖・滋賀学」(5 回分), 非常勤講師.

博物館事業に関する業績

【交流サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8 件.

質問対応, 琵琶湖博物館, 3 件.

他の博物館・機関等主催行事

2017 年 12 月 1 日, 水と暮らしについて, 草津市クラブ, 琵琶湖博物館, 講師.

2017 年 12 月 12 日, 「近江の暮らしと水に学ぶ」研究調査・カワト等に関する調査及び研究について, レイカディア大学びわこ環境学科, 琵琶湖博物館, 講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

問い合わせの回答, 3 件.

太湖関係資料, 整理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017 年度, 常設展示 C 展示室, 展示物の維持管理.

2017 年度, 常設展示 C 展示室, 生体展示の管理.

2017 年 12 月, C 展示室点検.

モーニングレクチャー, 講義, 4 回.

【企画調整活動】

新任職員研修, 主担当, 2017 年度.

JICA 研修「博物館とコミュニティ開発」, 主担当, 2017 年度.

国立民族学博物館, 博物館とコミュニティ開発, 研修事業委員, 2017 年度.

博物館実習, 主担当, 2017 年度.

全国博物館協議会・日本博物館協議会・近畿動水水族園協会の協賛, 主担当, 2017 年度.

琵琶湖博物館リニューアル展示ガイド、展示案内などの日中対訳の作成等.

新任職員等研修, C 展示室農村の暮らし、水と暮らし, 講師, 2017 年 4 月, 琵琶湖博物館.

来館 1000 万人達成記念式典, 対応, 2017 年 8 月 17 日.

JICA 研修に関する会議出席・対応, 2017 年 11 月 3 日, 国立民族学博物館.

大学博物館実習関連の対応, 講師, 2017 年 1 月 20 日, 琵琶湖博物館.

大学博物館実習関連の対応, 講師, 2017 年 1 月 21 日, 琵琶湖博物館.

国際花と緑の博覧会協会 自然と人間との共生フェスタ in 滋賀, 連絡調整・参加者連絡, 2018 年 2 月 27 日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度, ショップ・レストラン会議, メンバー.

琵琶湖の湖底堆積物を中心とした花粉分析に基づいて、東アジア地域における過去数十万年間の森林植生の変遷と気候変動、さらには人間活動との関連についての研究を進めている。

本年度は、これまで研究を進めてきた琵琶湖や周辺地域における花粉分析結果について、高時間分解能のデータベースの構築を進めてきた国際研究プロジェクト ACER の成果として、総説的な論文を国際誌上で共著者の一人として公表することができた。また、昨年度までの日本学術振興会の科学研究費助成事業として進めてきた、日本海堆積物の花粉分析と日本海環境変動指標との対比についての研究が進展し、北陸古海洋勉強会や札幌古環境研究会で発表を行い、共同研究者との議論を行った。さらに、琵琶湖博物館総合研究として、琵琶湖周辺における縄文時代以降の植生復元に向けた基礎的研究を行い、琵琶湖地域における古生態学データの収集、整理を継続して実施し、森林生態系の変化と人間活動の変化との対応関係について考古学、歴史学の研究者とともに議論を進めている。この成果の一部については、現代思想に総説として公表した。また、2013年から参加している多賀町でのアケボノウ発掘プロジェクトの調査地で採取した堆積物に含まれる花粉化石群集について、多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書に発表した。また、国際共同研究の枠組みの中で、琵琶湖博物館共同研究および科学研究費助成事業の共同研究者として、最終氷期最寒冷期における琵琶湖周辺地域での森林生態系の復元を行うための基礎データの蓄積を進めた。また、科学研究費助成事業の共同研究者として、ボルネオ島における環境変遷の解明を目的とした研究プロジェクトについて、共同研究者と共に議論を進めた。また、琵琶湖博物館専門研究の中で、古環境学的な時系列データ間の因果推論に関する研究について、本年度より新たに取り組み、その成果の一部について日本生態学会大会において発表を行った。これらの研究成果の一部については、琵琶湖博物館研究セミナーや新聞連載などをとおして、一般に向けた紹介にも努めた。

博物館事業に関しては、企画調整課の一員として主に情報システム担当として業務を実施した。情報システム担当としては、昨年度の9月に発生した外部からのサイバー攻撃を受けて、情報システムを根本的に改善するために、本年度の11月から滋賀県自治体情報セキュリティクラウドを利用する新システムの構築全般を担当した。この新情報システムの中で、博物館ホームページについても改善していくことを目指し、新たな枠組みでのホームページ構築を進めた。さらに、新琵琶湖博物館創造室の中では、第2期リニューアルにおける樹冠トレイルの主担当として、工事担当者と協力し、工事を進めることができた。

館外での活動としては、日本花粉学会および日本植生史学会の編集委員をつとめた。

印刷物

【学術論文】

Sánchez Goñi, M. F., Desprat, S., Daniau, A.-L., Bassinot, F. C., Polanco-Martínez, J. M., Harrison, S. P., Allen, J. R. M., Anderson, R. S., Behling, H., Bonnefille, R., Burjachs, F., Carrión, J. S., Cheddadi, R., Clark, J. S., Combourieu-Nebout, N., Mustaphi, Colin. J. Courtney, Debussk, G. H., Dupont, L. M., Finch, J. M., Fletcher, W. J., Giardini, M., González, C., Gosling, W. D., Grigg, L. D., Grimm, E. C., Hayashi, R., Helmens, K., Heusser, L. E., Hill, T., Hope, G., Huntley, B., Igarashi, Y., Irino, T., Jacobs, B., Jiménez-Moreno, G., Kawai, S., Kershaw, A. P., Kumon, F., Lawson, I. T., Ledru, M.-P., Lézine, A.-M., Liew, P. M., Magri, D., Marchant, R., Margari, V., Mayle, F. E., McKenzie, G. M., Moss, P., Müller, S., Müller, U. C., Naughton, F., Newnham, R. M., Oba, T., Pérez-Obiol, R., Pini, R., Ravazzi, C., Roucoux, K. H., Rucina, S. M., Scott, L., Takahara, H., Tzedakis, P. C., Urrego, D. H., van Geel, B., Valencia, B. G., Vandergoes, M. J., Vincens, A., Whitlock, C. L., Willard, D. A., and Yamamoto, M. (2017) The ACER pollen and charcoal database: a global resource to document vegetation and fire

response to abrupt climate changes during the last glacial period. *Earth System Science Data*, 9: 679–695, Copernicus Publications.

【専門分野の著作】

- 大崎亜見・林 竜馬・堂満華子 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古代ゾウ発掘調査地点における花粉分析に基づく古植生の復元. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書*, 多賀町教育委員会: 38–44.
- 林 竜馬 (2017) 変動する森から見つめる“人新世”. *現代思想*, 45 (22), 青土社: 88–98.

【一般向けの著作】

- 林 竜馬 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 6 本当のスギ花粉 知っていますか? 少し曲がったツノ 愛らしく. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 6月20日.
- 林 竜馬 (2017) 湖岸より 302 湖と森を感じる博物館へ. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月30日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 林 竜馬・佐々木尚子・高原 光・杉田真哉 (2017年8月18日) 花粉飛散シミュレーションモデルに基づく琵琶湖地域での地域的植生・遺跡周辺植生の定量的復元の検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 林 竜馬・佐々木尚子・村上由美子・瀬口眞司 (2017年8月26日) 滋賀県の遺跡における古生態学データベースに基づく森と人の関係史. 日本第四紀学会2017年大会, 福岡大学 (福岡市), [招待講演].
- 林 竜馬 (2017年9月16日) 大型湖沼の花粉分析から～ローカルスケールとグローバルスケールをつなぐ湖の記録～. 日本花粉学会第58回大会, アクトシティ浜松コンgresセンター (浜松市), [招待講演].
- 佐々木尚子・高原 光・杉田真哉・林 竜馬・兵藤不二夫・加 三千宣・占部城太郎 (2017年9月17日) 堆積物中の花粉組成から周辺植生を復元できるか?: REVEALS モデルを用いた北海道4湖沼における定量的な植生復元の試み. 日本花粉学会第58回大会, アクトシティ浜松コンgresセンター (浜松市), [口頭発表].
- 山川千代美・林 竜馬・里口保文・藤本秀弘・橋本 勘 (2017年12月3日) 滋賀県北部山門湿原AT火山灰包含堆積物から産出した大型植物化石群集. 第32回日本植生史学会大会, 宮崎大学 (宮崎市), [口頭発表].
- 林 竜馬 (2018年2月21日) 日本海堆積物の花粉分析からみる過去55万年間の陸上植生と海のリンケージ. 北陸古海洋勉強会, 金沢大学 (石川県金沢市), [招待講演].
- 林 竜馬 (2018年3月15日) 日本海堆積物の花粉分析からみる過去55万年間の陸上植生と海のリンケージ. 札幌古環境研究会, 北海道大学 (札幌市), [口頭発表].
- 林 竜馬・土居秀幸・潮 雅之 (2018年3月17日) 氷期間氷期変動にともなう気候と植生の因果関係を探る-Convergent cross mapping による花粉動態と古気候変動の因果解析から. 第65回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), [ポスター発表].
- 高原 光・柴崎大樹・佐々木尚子・林 竜馬・山川千代美 (2018年3月17日) 比良山系スギヤ池堆積物の花粉分析・大型遺体分析に基づく最終氷期最盛期以降の植生変遷. 第65回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「シミュレーションモデルを用いた琵琶湖地域での植生変遷復元の検討」, (2017年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元」(研究代表者: 林 竜馬), 研究代表者 (2015年度～2017年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究副代表者 (2014年度～2018年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」(研

究代表者：高原 光)，研究分担者（2014 年度～2017 年度）.
科学研究費助成事業（基盤 B）「ボルネオ島泥炭掘削：過去 4000 年間の熱帯大気対流活動の復元」（研究代表者：山本正伸），研究分担者（2015 年度～2017 年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

2015 年～，日本花粉学会，評議員.
2015 年～，日本花粉学会，編集委員会，副編集委員長.
2016 年～，日本植生史学会，編集委員.
2017 年～，日本植生史学会，行事副幹事.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8 件.
はしかけ運営「森人」・「湖をつなぐ会」，担当.
2017 年 5 月 21 日，「くつきの森ユリノキまつり」森の観察会，観察会，くつきの森・高島市，講師.
2017 年 9 月 9 日，葉っぱの形に注目しよう！，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師.
2017 年 11 月 11 日，秋の色さがしをしよう！，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師.

他の博物館・機関等主催行事

2018 年 2 月 24 日，西の湖ヨシ刈りボランティア バイオマス調査，ヨシでびわ湖を守るネットワーク，西ノ湖（近江八幡市），講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整備，収蔵庫維持管理，担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4 回.

【新琵琶湖博物館創造準備室活動】

第 2 期リニューアル 樹冠トレイル，主担当.
第 2 期リニューアル 展示評価（交流空間），副担当.

科学研究費補助金若手研究（B）「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明：物質文化研究の視点から」の最終年度にあたり、宮座文書のなかでも極めて古い様式を示す頭役差定文書について、県内調査を継続するとともに、データの整理と成果の公表を進めた。鎌倉期からの頭役祭祀で知られる多賀大社（多賀町多賀）の「馬頭人祭」の調査を引き続き実施したほか、近隣の胡宮神社（多賀町敏満寺）でも差定儀礼があることが判明したため、4月の春祭りと1月元日の差定式の調査を実施した。

これらの成果として、平成29年度には論文1編ほかが刊行された。あわせて2017年度は、中世惣村文書で有名な今堀日吉神社（東近江市今堀）の宮座行事の調査（12月～3月）を実施し、惣村宮座の体制内でも「頭指し」が儀礼的意味を持ち続ける様相を見出し、総合研究「自然観」研究会等で一部の成果を公表した。また初期の頭役祭祀文書は存在しないと思われていた関東地方で、共同研究者とともに進めていたオビシヤ文書の調査の成果は、共編著としてまもなく刊行される。

専門研究「旧津田内湖沿岸における村落・資源・祭礼のモノグラフ調査」では、かつての津田内湖沿岸に立地した南津田（近江八幡市南津田町）を対象として、村落の景観と社会構成、内湖・ヨシ地・山林の資源管理史に関する調査を行った。その成果の一部は研究セミナー等で公表しつつある。未整理の漁業組合文書・自治会共有文書が見出されたことから、その整理を重点的に進め、約1100点の目録作成がほぼ完了した。新出文書のなかには近代期の漁撈・内湖資源の管理に関するものが豊富に含まれており、平成30年度の専門研究ではその分析に重点をおく。

平成29年度は、館蔵の漁撈用具コレクションが国の登録有形民俗文化財として登録されることとなり（「琵琶湖の漁撈用具及び船大工用具」2437点、平成30年3月8日官報告示）、これにともなう現地調査・目録作成、関連するトピック展示、メディア対応、「おとなのディスカバリー」展示用の漁具制作映像の撮影等に従事した。漁撈用具を通して琵琶湖漁撈のユニークな歴史を浮き彫りにすることは、今後の館蔵コレクションの研究発信やB展示リニューアル「水辺に生きる」（仮称）ゾーンの設計にとって不可欠な作業となるものと考えている。

平成29年度は科学研究費補助金基盤研究（B）「東北型社会の特質に関する史的研究—地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」の第3年度でもあり、明治期の鉾山市場に向けた周辺山村の資材供給と資源管理について論考を公表した。あわせて平成29年度から、奈良県十津川村の村史編さん事業に参画し、広葉樹を中心に山間地域の資源管理に関する民俗誌調査を進めている。これらは後進的とみなされてきた「領主的林業地帯」を題材に、鉾山山麓に広がる里山的な広葉樹林の意味を再評価するもので、専門研究と相補しつつ、草山や「藪」の卓越する近江村落の森林資源管理や近畿地方の「百姓的林業」を列島規模の視野で位置づけるのに不可欠な知見となる。

総務部の活動として、新琵琶湖博物館創造室ではショップ・レストランの内装・展示等を担当し、12月の閉鎖・施工開始から3月末のオープンまでの過程に関与した。あわせて新商品・新メニュー開発とそれによるパブリシティ活動の一環として、カレーのレシピ考案、ご飯抜き型・ランチ旗の制作等に従事した。事業部の活動としては民俗収蔵庫1・同2・環境収蔵庫・映像収蔵庫・写場・図書室の各室を担当し、主として新規の図書資料データベースの業者選定とシステム移行、webOPACの公開、民俗収蔵庫の全点クリーニング業務、環境収蔵庫の時限保管資料の民具目録の作成等に従事した。

印刷物

【学術論文】

渡部圭一・芳賀和樹・加藤衛弘（2018）明治中期阿仁鉾山をめぐる山麓村の林産物請負生産—旧秋田藩領荒瀬村肝煎・湊家文書の解題と翻刻．筑波大学農林社会経済研究，33，筑波大学大学院生命環境科学研究科農林社会経済学領域：1-72.

渡部圭一（2018）万延元年上妙典村「異流ケ間敷法門」一件—妙好寺住職の江戸出訴日記『荒塵記』翻刻と解題（1）.

【専門分野の著作】

渡部圭一・相場 峻 (2017) 市川市の寺院明細帳 (下). *市川市史編さん民俗部会成果報告書*, 5, 市川市文化振興課: 1-85.

渡部圭一 (2018) コンテキストにおける文書の民族誌. 古家信平 編, *現代民俗学のフィールド*, 吉川弘文館: 68-84.

【一般向けの著作】

渡部圭一 (2017) 湖岸より 292 「生きている日本遺産」探して. *中日新聞*, 中日新聞社, 5月27日.

渡部圭一 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 12 あえて燃やさない 本物のヨシたいまつ 工夫凝らし 美しい姿で. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 10月31日.

渡部圭一 (2018) 琵琶湖と生きる人びと. *硝友 (日本電気硝子創立記念特別号)*, no. 405, 日本電気硝子総務部: 6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

渡部圭一 (2017年7月21日) 藪の発見ー近江村落における平地林の存在形態. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

渡部圭一 (2018年1月21日) 「惣村宮座」の現在ー今堀日吉神社の2018年正月調査から. 科学研究費補助金基盤研究 (B) 「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者・橋本道範) 第10回研究会, 草津市立市民交流プラザ (滋賀県), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「旧津田内湖沿岸における村落・資源・祭礼のモノグラフ調査」, (2017年度).

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 共同研究者 (2014年度~2018年度).

科学研究費助成事業 (若手 B) 「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明: 物質文化研究の視点から」(研究代表者: 渡部圭一), 研究代表者 (2015年度~2017年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「東北型社会の特質に関する史的研究: 地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」(研究代表者: 加藤衛弘), 研究分担者 (2015年度~2019年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者: 橋本道範), 研究分担者 (2015年度~2018年度).

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」(研究代表者: 石本敏也), 研究分担者 (2016年度~2018年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「声と文字をめぐる宗教実践の研究ー東南アジアと隣接地域の比較」(研究代表者: 村上忠良), 研究分担者 (2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本民俗学会第69回年会実行委員会, 委員.

現代民俗学会, 編集委員会, 運営委員.

京都民俗学会, 編集委員会, 理事.

京都民俗学会, 京都民俗, 査読, 4件.

現代民俗学会, 現代民俗学研究, 査読, 1件.

日本村落研究学会, 村落研究ジャーナル, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年6月18日，京都文教大学，「博物館資料保存論」.

2017年6月25日，京都造形芸術大学，「歴史遺産学総合演習Ⅰ・Ⅲ」.

2017年度後期，龍谷大学社会学部，「びわ湖・滋賀学」(5回分)，非常勤講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「近江はたおり探検隊」，担当.

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，1回.

2017年4月16日，お祭り見学会ーヨシ松明ができるまで，見学会，円山神社（滋賀県近江八幡市），運営.

2017年11月4日，立命館守山中学校ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，助言指導.

他の博物館・機関等主催行事

2017年5月14日，滋賀県立琵琶湖博物館の研究・展示・収蔵庫，大東市立歴史民俗資料館「だんじり整理隊」研修会，滋賀県立琵琶湖博物館の研究・展示・収蔵庫，講師.

2017年7月4日，滋賀県立琵琶湖博物館の研究・展示・収蔵庫，守山市社協登録団体回想法ボランティアいきいき研修会，滋賀県立琵琶湖博物館の研究・展示・収蔵庫，講師.

2017年7月6日，南彦根の歴史と民俗，彦根南地区公民館研修会，琵琶湖博物館，講師.

2017年10月26日，ユネスコ・アジア文化センター個別テーマ研修，Storeroom and Survey Activities of the Museum with the Theme of “Lake and Humans”，講師.

視察対応

2017年6月26～27日，民俗収蔵庫2、漁撈用具現地確認調査，文化庁石垣悟調査官.

2017年9月25～26日，民俗収蔵庫2、漁撈用具現地確認調査，文化庁石垣悟調査官.

メディアへの協力

2018年1月20日，NHK 天津放送局おうみ発630，琵琶湖の漁具、有形民俗文化財登録へ，インタビュー対応.

2018年1月20日，中日新聞，琵琶湖の漁労・船大工用具、漁具、有形民俗文化財登録へ，取材対応.

2018年1月20日，朝日新聞，輪島の海女漁、重要無形民俗文化財に、琵琶湖の漁・船大工用具は登録有形に，取材対応.

2018年1月20日，毎日新聞，琵琶湖の漁 伝統と変遷、漁業用具が国文化財に，取材対応.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗資料整備，収蔵庫維持管理，担当.

環境資料整備，収蔵庫維持管理，担当.

映像資料整備，収蔵庫維持管理，担当.

図書資料整備，収蔵庫維持管理，担当.

民俗資料寄贈受入，担当.

収蔵庫見学対応，9件.

民俗収蔵庫特別観覧対応，2件.

環境収蔵庫貸出し対応，3件.

映像収蔵庫観覧対応，24件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年9月27日，展示交流員フィールド研修「「区有文書」の整理体験！」，南津田公民館（滋賀県近江八幡市），運営。

2017年3月19日～5月27日，トピック展示『「近江水産図譜」の世界—明治期の琵琶湖漁撈』，一部担当。
モーニングレクチャー，講義，4回。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル ショップ・レストラン，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年4月～2018年3月，ショップ・レストラン会議，メンバー。

【館外の活動】

2014年4月～現在，奈良県御所市献灯行事・習俗に関する記録作成・調査事業，調査委員。

2014年4月～現在，奈良県天理市ちゃんちゃん祭り記録作成事業，調査委員。

2015年8月～現在，福井県小浜放生祭総合調査委員会，調査委員。

2015年8月～現在，東京都立川市史民俗部会，編集委員（副委員長）。

2016年4月～現在，滋賀県多賀大社祭礼調査委員会，委員（副委員長）。

2016年4月～現在，奈良県五條市文化遺産活用実行委員会，委員。

2017年5月～現在，奈良県十津川村史編さん委員会，専門調査員。

研究に関しては、博物館の調査研究における市民参加のあり方について、学術的な調査研究に多数の市民が参加してきた多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトを主な事例としながら、検討し報告した。

博物館事業に関しては、交流係として、フィールドレポーター事業の実施と新規情報誌の編集方針検討を行った。フィールドレポーターでは、フィールドレポータースタッフによる発案のもとカイツブリ調査を行ったほか、5月に行われたフィールドレポーター交流会に向けた準備を行った。

新琵琶湖博物館創造室でのリニューアル業務に関しては、第2期の交流空間リニューアルのミュージアムレストラン・ミュージアムショップについて担当した。

印刷物

【一般向けの著作】

大久保実香（2017）びわ博こだわり展示の裏話 3 変わりゆく「現在」を展示する工夫. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 5月9日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

大久保実香（2017年4月21日）博物館における「市民参加」ー多賀町古代ゾウ発掘プロジェクトの事例からー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 1件.

はしかけ運営「暮らしをつづる会」・「緑のくすり箱」, 担当.

フィールドレポーター, 担当.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル ミュージアムレストラン・ミュージアムショップ, 担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年5月2日～2018年3月31日, 産前産後休暇および育児休業取得.

琵琶湖周辺地域を中心とした原始・古代の人びとの暮らしについて、土器資料を対象に考古学的研究をすすめている。2017年度は、①縄文時代中期の遺跡における異系統土器のあり方と地域間関係、②弥生時代前期の農耕文化成立と米調理のはじまり、③古墳時代後期から奈良時代で普及した米蒸し調理という3つテーマについて研究をすすめた。

①は、粟津湖底遺跡を中心に縄文時代中期前葉の土器について分析、考察をした。同じく半截竹管状工具を使いながら、異なった文様をもつ近畿地方の土器（船元式）と北陸地方の土器（新保式）が粟津湖底遺跡で共伴することに着目し、両者の相関を探った。中間報告として、当館の研究セミナー、近江貝塚研究会で発表し、粟津湖底遺跡の船元式は円形刺突を多用して近畿のすること、その文様展開が多様であること、共伴する新保式が福井県出土のものと特徴が似ていること、石川県、富山県のものとは様相が異なることを整理した。引き続き研究をすすめる、船元式と新保式が共伴することによって生じたであろう相互影響の内容、そこから見出せる地域的な特徴を明らかにすることで縄文中期前葉の社会について考察していきたい。

②は、2017年度の専門研究課題「琵琶湖周辺地域における農耕文化成立の基礎研究」として、弥生文化の地域的展開を探ることを目的に研究をすすめた。北部九州より伝播する弥生文化は、滋賀県に入るのが地理的条件から大阪平野より遅れる。滋賀県内の弥生遺跡を分析した結果、大阪平野でみられる遺跡より、定型化がすすんだ弥生土器が出土していることが判明した。今後、水田、農耕具も同様により定型化、形式化していたと仮説を立て、琵琶湖周辺地域において、弥生時代にすすんでいく農村化へ向けた土地開発がどの程度のものであったのかを、当時の植生復元の研究をふまえて追究していく。また、弥生時代の米食の実態について、米品種と米調理方法の相関と実見考古学的知見から考察し、調理容器の容量分析をふまえて研究をすすめた。成果の一部は、弥生文化博物館の講座で公表した。引き続き、琵琶湖周辺地域の農耕文化の成立と米食の実態について考察をすすめていきたい。

③は、近畿地方を中心に西日本の長胴湯釜を分析し、さらに東日本の長胴湯釜と比較検討することで、古代の米蒸し調理の実態解明を目指した。使用痕跡の分析から当時の米蒸し調理は住居に備え付けられた竈に長胴化した湯釜をかける調理が普及していたことを突き止めて、長胴湯釜の法量分析をした結果、西日本と東日本の長胴湯釜に大きな法量差があることを見出した。合わせて発掘調査事例をふまえて検討した結果、西日本は長胴湯釜を竈に一個掛け、東日本は二個掛けという竈構造の違いが明瞭となった。東日本での分析結果は日本考古学協会にて公表している。引き続き、西日本での分析結果の公表をすすめていきたい。なお一連の研究は、科学研究費補助金基盤研究（B）「日本と韓半島の米調理方法の変化要因の解明：米品種の多様性の視点から」の成果である。

このほか2017年度は、京都文化博物館で保管されている鴨沂高校所蔵滋賀里遺跡出土資料の調査を実施した。結果、戦前の滋賀県をフィールドになされていた考古学調査の実態の解明が進んだ。当時の高校の考古クラブの学術的な活動には、周辺の大学教員が強く関与しており、かなり高度な調査をすすめていたことが明らかとなった。また、当時滋賀県は考古学の学術調査の中心地として、多くの研究者が出入りしていたことが判明した。このように近代の学校教育の内容は、実は多種多様であり、現在の教育に活かせる点が多いことを再認識できた。これらの成果は中間報告として、京都文化博物館の研究紀要に報文を掲載した。

さらに、総合研究「自然観」の一環として、「森と人の暮らしの歴史」を追究することを目的に、松原内湖遺跡をはじめとする滋賀県出土木製品の資料調査、余呉湖埋没林研究の調査、穴太遺跡出土資料の調査をすすめた。これらの調査成果は来年度の企画展「化石林―ねむる太古の森」の「人が暮らしてきた森」のコーナー展示として公表する。「森と人の暮らしの歴史」に関わる研究は、第3期B展示室リニューアルのなかの「森に生きる」（仮称）ゾーンの実施設計にかかわる重要な課題であり、来年度も引き続きすすめていきたい。

総務部の活動として、新琵琶湖博物館創造室では別館を担当し、施工開始から3月末のオープンまでの過程に関与した。あわせて、レストラン・ショップ副担当として、内装のリニューアル、新商品・新メニュー開発とそれによるパブリシティ活動の分担、ディスカバリールーム副担当として、3つのコーナーの実施設計に関わった。広報営業課では倶楽部LBMの会員増加を目指した看板製作、広報に関わるメディア対応に従事した。

印刷物

【専門分野の著作】

村野正景・妹尾裕介・大石雅興（2018）京都府立鴨沂高等学校所蔵の考古資料について—高校生による滋賀県滋賀里遺跡の調査成果—。朱雀, 30, 京都文化博物館：1-11.

【一般向けの著作】

妹尾裕介（2017）湖岸より 290 琵琶湖に眠る遺跡。中日新聞, 中日新聞社, 4月29日。

妹尾裕介（2017）名品手鑑 16 必見湖底遺跡の貝塚展示。毎日新聞, 毎日新聞社, 7月11日。

妹尾裕介（2017）ふんかのミカタ 博物館学芸員の仕事 上。毎日新聞, 毎日新聞社, 7月20日。

妹尾裕介（2017）湖岸より 303 琵琶湖で音楽と共に楽しむひととき。中日新聞, 中日新聞社, 10月14日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

妹尾裕介（2017年4月21日）縄文土器からみた文化交流—粟津貝塚を題材に—。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表]。

妹尾裕介・外山政子（2017年5月28日）東日本古代の竈の構造と湯釜・甑の形と大きさからみた米調理方法の移り変わり。日本考古学協会第83回（2017年度）総会, 日本考古学協会, 大正大学（東京都豊島区）, [ポスター発表]。

妹尾裕介（2017年6月21日）博物館のこれから—観光立国政策にどう対応するか—。千里文明史学協会例会, 千里文明史学協会, 大阪国際空港（伊丹市）, [口頭発表]。

妹尾裕介（2018年1月27日）船元式と新保式の出会い。第291回近江貝塚研究会例会, 近江貝塚研究会, 滋賀県埋蔵文化財センター（大津市）, [口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺地域における農耕文化成立の基礎研究」, (2017年度)。

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者：橋本道範), 研究協力者 (2014年度～2018年度)。

科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者：橋本道範), 研究分担者 (2015年度～2018年度)。

科学研究費助成事業（基盤 B）「日本と韓半島の米調理方法の変化要因の解明：米品種の多様性の視点から」(研究代表者：小林正史), 研究協力者 (2015年度～2017年度)。

科学研究費助成事業（若手 B）「学校所蔵資料の資料論構築のためのパブリック考古学的研究：京都府の事例から」(研究代表者：村野正景), 研究協力者 (2017年度～2020年度)。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件。

2017年度, はしかけ活動「はしかフェ」, 担当, 5回。

2017年5月20日, フィールドレポーター交流会, 担当補助。

他の博物館・機関等主催行事

- 2017年7月12日、学芸員の仕事、高等部対象のキャリアアップ講座、琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課・東山高等学校、東山中学校・高等学校（京都市左京区）、講師。
- 2017年9月12日、滋賀県立琵琶湖博物館について、学芸員課程実地研修、愛知淑徳大学、琵琶湖博物館、講師。
- 2017年9月16日、シリーズ①縄文土器ファンコースー つくってみる、京都大学総合博物館・信濃川火焰街道連携協議会・新潟県立歴史博物館、ワークショップ「考古学者の弟子」講座、京都大学総合博物館（京都市左京区）、講師。
- 2017年10月26日、Introducing Lake Biwa Museum, Shiga Prefecture, 文化遺産の保護に資する研修2017（個別テーマ研修）－博物館等における文化財の記録と保存活用－, ユネスコ・アジア文化センター、琵琶湖博物館、講師。
- 2017年12月9日、調理容器からみた弥生前期文化、2017年度弥生時代講座「聞いてなっとく弥生の世界」、大阪府立弥生文化博物館・近畿弥生の会、大阪府立弥生文化博物館（和泉市）、講師。

メディアへの協力

- 2017年7月28日、テレビ大阪、金曜報道スペシャル、湖底遺跡の調査と解説、出演、（2018年7月18日・7月28日取材）。
- 2017年11月27日、関西テレビ、よーいドン！となりの人間国宝さん、余呉湖、琵琶湖の紹介、出演、（2017年11月15日取材）。
- 2018年3月22日、読売テレビ、朝生ワイド す・またん！ZIP！『関西の〇〇ランキング1位特集』、博物館紹介、出演、（2018年3月7日取材）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 考古資料整備、収蔵庫維持管理、担当。
- 考古資料貸出対応、3件。
- 考古収蔵庫特別観覧対応、5件。
- 大掃除（B展示室）、実施。
- 防虫トラップ調査、2回。

他博物館・機関の活動

- 京都文化博物館、保管考古資料の整理・協力。
- 京都大学総合博物館、平成29年度特別展、協力。
- 弥生文化博物館、弥生時代講座、協力。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2017年9月16日～10月1日、トピック展示「松原内湖出土土器の特別公開」、担当。
- 2018年1月27日～3月18日、トピック展示「収蔵庫をのぞいてみよう－近江の信仰－」、分担。
- 2018年3月19日～5月27日、トピック展示「『近江水産図譜』の世界－明治期の琵琶湖漁撈」、展示補助。
- モーニングレクチャー、講義、4回。
- 展示交流員と話そう、内容指導、2件。

【広報営業活動】

- フェイスブック「滋賀県立琵琶湖博物館ホーム」、運営。
- 資料提供、7件。
- 夏の広報イベント、2017年8月21日・8月22日、大阪駅。
- 夏の広報イベント、8月28日、ララポート甲子園。

アトリウムコンサート，運営補助.

年間観覧券「倶楽部LBM」，担当.

倶楽部LBM会員イベント「エリ漁体験」，2017年6月4日・6月25日，守山市地先・琵琶湖博物館（金尾滋史と共同）.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル UNEP改修に関すること，主担当.

第2期リニューアル レストラン/ショップに関すること，副担当.

第2期リニューアル わくわく体験スペース/受付アトリウムに関すること，副担当.

第2期リニューアル 展示評価(交流空間)に関すること，主担当.

第2期リニューアル ディスカバリールーム，副担当.

第2期リニューアル ユニバーサルデザインに関すること，副担当.

第2期リニューアル 館内調整，主担当.

【研究部関連事業】

研究セミナー，担当，2017年度.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年4月～2018年3月，ショップ・レストラン会議，メンバー.

【館外の活動】

2015年10月～現在，京都大学総合博物館，研究協力者.

2017年12月～現在，近畿弥生の会，滋賀県世話人.

分子遺伝解析を用いて、琵琶湖の魚類の起源、歴史、進化に関する研究を進めている。本年度は、専門研究「新しい遺伝分析手法による琵琶湖固有魚類の集団の歴史推定」として、近年開発された次世代シーケンシング法を用いて琵琶湖の魚類の過去数十万年から数万年にいたる集団の動態を推定し、日本魚類学会年会にて口頭発表を行った。さらに、藤原ナチュラルヒストリー振興財団の助成を受けて、「外部および骨格形態の3次元計測に基づく琵琶湖固有魚類の湖沼適応についての定量的考察」というテーマで、固有種を中心とした琵琶湖の魚類の3次元形態計測、その情報に基づく適応進化に関する考察を行った。また、これまでに研究成果として公表している分子遺伝解析に基づく固有種を中心とした琵琶湖の魚類の起源や進化史については、琵琶湖博物館研究セミナーや地域連携の講義、情報誌への掲載を通じて、一般に向けて紹介するように努めた。さらに、2018年に出版される魚類学百科事典の日本の淡水魚の分布に関する章を担当し、原稿の執筆を行った。

博物館事業に関しては、資料活用係として、IPMの推進、資料の活用の推進に努めた。特に本年度は、文化財害虫の発生などが確認されたが、他の職員と協力して、迅速に対応することができたため、大きな被害が出ることなく、事態を収束することができた。水族展示についても、水族展示の維持管理、水族資料収集、飼育技術の習得にも努め、トンネル水槽などの修繕工事の手配、バイカルアザラシ水槽の水質改善などを行った。また、2018年4月から開催される滋賀県立近代美術館との共催展の担当として、展示キャプションや配布物の原稿作成なども行った。

印刷物

【学術論文】

Kano, Y., Tabata, R., Nakajima, J., Takada-Endo, M., Zhang, C., Zhao, Y., Yamashita, T. and Watanabe, K. (2018) Genetic characteristics and possible introduced origin of the paradise fish *Macropodus opercularis* in the Ryukyu Archipelago, Japan. *Ichthyological Research*, 65 (1): 134-141.

【一般向けの著作】

田畑諒一 (2017) 琵琶湖固有種の魚たちはいつ誕生したのか. *硝友* (日本電気硝子創立記念特別号), no. 405, 日本電気硝子総務部: 11.
田畑諒一 (2017) 湖岸より 306 琵琶湖に固有な魚たちの歴史. *中日新聞*, 中日新聞社, 11月25日.
田畑諒一 (2018) 研究最前線 琵琶湖固有種のイサザやホンモロコたちは、いつ誕生したのか. *びわはく*, 創刊号, 琵琶湖博物館: 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

田畑諒一 (2017年6月6日) MIG-seq法を用いた魚類の集団遺伝データの取得. 日本動物園水族館協会第83回近畿ブロック水族館飼育係研修会, 神戸市立須磨海浜水族園, 神戸飯店 (兵庫県), [口頭発表].
Ito, R., Mishina, T., Harada, S., Tabata, R. and Watanabe, K. (2017年8月20日~25日) Molecular evolutionary patterns of the rhodopsin gene in the goby *Gymnogobius*, with special reference to convergence and introgression. Congress of the European Society for Evolutionary Biology 2017, MartiniPlaza (Groningen, Netherlands), [ポスター発表].
Tabata, R. (2017年9月14日) Estimation of the history and strain preservation of fishes in Lake Biwa based on molecular genetic approach. The Third International Symposium of Freshwater Biodiversity and Human

Life, 韓国国立洛東江生物資源館 (サンジュ市), [口頭発表].

三品達平・武島弘彦・高田未来美・井口恵一朗・川原玲香・橋口康之・田畑諒一・佐々木 剛・西田 睦・渡辺勝敏 (2017年9月16・17日) “稀な性”と倍数性を越えた遺伝子流動がもたらす3倍体フナの進化と多様性. 2017年日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス (北海道函館市), [ポスター発表].

田畑諒一・渡辺勝敏 (2017年9月17日) MIG-seq法による縮約的ゲノムデータに基づく琵琶湖産魚類の人口学的歴史. 2017年日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス (北海道函館市), [口頭発表].

田畑諒一 (2017年10月26日) NGSを用いた琵琶湖産魚類の集団遺伝データの取得とその応用. 第20回NORNAC, 自然系調査研究機関連絡会議, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

田畑諒一 (2018年1月19日) 現在の琵琶湖における魚類の起源と歴史の推定. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「新しい遺伝分析手法による琵琶湖固有魚類の集団の歴史推定」, (2017年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「古代湖・琵琶湖における湖沼適応の起源と集団ゲノミクス」 (研究代表者: 渡辺勝敏), 研究協力者 (2017年度~2019年度).

公益財団法人 藤原ナチュラルヒストリー振興財団 第25回学術研究助成 (動物学) 「外部および骨格形態の3次元計測に基づく琵琶湖固有魚類の湖沼適応についての定量的考察」 (研究代表者: 田畑諒一), 研究代表者 (2017年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 6件.

他の博物館・機関等主催行事

2017年7月8日, 琵琶湖のおいたち, 日立建機ティエラ, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年7月17日, フィールドへでかけよう! 瀬田川と琵琶湖の魚についてのお話, アクア琵琶, 第10回水辺の匠, ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年7月18日, 琵琶湖産魚類の起源, 歴史とミトゲノム進化, 滋賀県立大学環境科学部生物資源管理学科, 特別研究セミナー, 滋賀県立大学 (滋賀県彦根市), 講師.

2018年1月18日, 固有種の歴史と現状, レイカディア大学同窓会, 琵琶湖博物館訪問, 琵琶湖博物館, 講師.

2018年2月15日, 固有種を中心とした琵琶湖産魚類の歴史とミトゲノム進化, 国立環境研究所琵琶湖分室, 琵琶湖分室セミナー, 国立環境研究所琵琶湖分室 (滋賀県大津市), 講師.

メディアへの協力

2017年7月28日, テレビ大阪, 金曜報道スペシャル, 水中ドローンによる琵琶湖湖底の撮影と琵琶湖の魚の解説 (2017年7月17日取材).

2018年1月2日, テレビ朝日, 天才キッズ全員集合3時間SP, 琵琶湖の固有種の解説, (2017年10月13日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応, 魚類に関する質問への対応, 7件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，担当.
水族資料維持管理，担当.
画像資料，貸出.

他博物館・機関の活動

北海道大学，魚類液浸資料特別観覧.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル おとなのディスカバリー「魚類コーナー」，主担当.

【研究部関連事業】

研究セミナー，副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

近代美術館との共催展，担当.

【海外渡航】

2017年9月12日～9月15日，韓国，国際シンポジウムでの講演および共同研究協議.

【館外の活動】

2018年1月30日，園城寺に生息する亀の保全，アドバイザー.

2017年度の研究業績としては、数年来投稿とリジェクトを繰り返してきた共著論文がようやく12月に公表された。また、以前の共同研究の成果として、愛知県鶉の山のカワウ営巣林の変遷と人による森林管理の効果についての論文を投稿した。前年のC展示室リニューアルについては、全国博物館学会大会や生き物文化誌学会大会などで発表し、C展示室全体の内容について博物館学雑誌に報告を投稿した。このように、第1期リニューアルで滞っていた論文執筆が、少しずつではあるが進められるようになりつつある。

一方、今年度は国際交流の推進にたずさわった年でもあった。4月には、前年度訪問した韓国国立洛東江生物資源館を再訪問し、当館とのMOU（協力協定）の調印式に同席すると共に、合同セミナーでは自分自身の研究について発表を行った。さらに7月には、生物資源館の館長と研究員が当館に来館し、今後の共同研究や合同セミナーについての打合せを行った際に、対応を行った。これに合わせて、次年度の合同セミナーの予算確保のため、日本学術振興会の二国間交流事業（セミナー）に研究代表として申請し、2月に採用が決まった。この他に、1月のオフリド水生生物研究所の来館と今後の具体的な協力内容の協議についても準備や対応の一部を担当するなど、博物館の国際交流に貢献した。

事業に関しては、新たな分野とのコラボレーションがあった。交流事業では、近代美術館の学芸員とボランティア、当館はしかけグループのびわたんと共催で、展示室の標本を見た後に様々な材料を使って鳥を作るイベントを行った。参加人数が少なかったのが残念だったが、美術の視点や企画に接することができ、視野が広がった。また、第2期リニューアルでは、ミュージアムショップのオリジナル商品開発に関わり、以前から学会等で生物デザインのグッズを製作、販売していたデザイナーと協力して、当館オリジナルのくるみボタンアクセサリ商品を開発することができた。

館外の活動としては、今年度はサギまたはカワウのコロニーにおける森林衰退や文化財被害、生活環境被害等に対する個別地域からの相談や助言依頼が複数あり、特にサギコロニー対策については枠組みや体制がないことから、カワウのコロニー対策をもとに、県や市町の担当部署や土地所有者に、基礎知識や基本的な方向性、具体的対応の提案などを行った。

印刷物

【学術論文】

Kadowaki, K., Nishijima, S., Kéfi, S., Kameda, K. O. and Sasaki, T. (2017) Merging community assembly into the regime-shift approach for informing ecological restoration. *Ecological Indicators*, 85: 991-998. <https://doi.org/10.1016/j.ecolind.2017.11.035>

【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 8 五感で体験 リアルな“におい” かぐと危険? カワウのすむ森. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 8月1日.

亀田佳代子 (2018) 鳥類. 内藤正明 監修, *琵琶湖ハンドブック三訂版*, 滋賀県: 182-183.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

亀田佳代子 (2017年4月21日) カワウ (*Phalacrocorax carbo*) の生態系機能と生態系サービス・ディスプレイサービス. 日韓合同セミナー「情報交換と共同研究の促進のために」(Korea-Japan Joint Seminar "For Promotion of

Information Exchange and Joint Research”), 韓国国立洛東江生物資源館，韓国国立洛東江生物資源館，[口頭発表].

亀田佳代子（2017年6月16日）水鳥のすみ森の生態学—カワウの生態系機能と生態系サービス・ディスプレイサービス—. 琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表].

亀田佳代子（2017年6月18日）カワウと森と人の関係史に関する成果の統合と発信およびデータベース構築. 平成29年度（2017年度）琵琶湖博物館研究報告会，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表].

亀田佳代子（2017年6月24日～25日）カワウと人と森との関わりを展示する～琵琶湖博物館常設展示リニューアルでの試み～. 生き物文化誌学会第15回学術大会・大阪大会，生き物文化誌学会第15回学術大会・大阪大会実行委員会，国立民族学博物館（大阪府吹田市），[ポスター発表].

亀田佳代子・里口保文（2017年7月2日）琵琶湖博物館常設展示C展示室のリニューアル. 全日本博物館学会第43回研究大会，全日本博物館学会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

亀田佳代子（2017年10月27日）カワウの物質輸送機能. 第20回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC20），環境省自然環境局生物多様性センター，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「鳥の巣内に生息する昆虫類の食性解明」，（2017年度）.

琵琶湖博物館共同研究「カワウの影響を受けた森林生態系の長期変遷」(研究代表者：亀田佳代子)，研究代表者(2017年度～2019年度).

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者：橋本道範)，研究分担者（2014年度～2018年度）.

科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」(研究代表者：橋本道範)，研究分担者（2015年度～2018年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会，評議員，2006年1月～2019年12月.

日本鳥学会，和文誌編集委員，2014年1月～2019年12月.

日本鳥学会，基金運営委員，2016年1月～2019年12月.

日本鳥学会員近畿地区懇談会，世話人，2000年1月～.

日本鳥学会黒田賞選考小委員会，委員，2017年4月5日～2017年12月31日.

日本鳥学会 IOC 参加助成金選考小委員会，委員長，2018年1月29日～2018年12月31日.

日本生態学会生態学教育専門委員会，委員，2010年4月～2018年3月.

日本生態学会近畿地区会，自然保護専門委員，2008年1月～2018年12月.

日本生態学会，Ecological Research，査読，1件.

国立民族学博物館，国立民族学博物館研究報告，査読，1件.

生き物文化誌学会，BIOSTORY，査読，1件.

【受賞など】

平成29年度日本博物館協会顕彰，2017年11月29日，永年勤続.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，7件.

質問対応，琵琶湖博物館，3件.

フィールドレポーター2017年度第1回調査「カイツブリに会いに行こう」，担当.

2017年7月30日、びわこ×アート びっくりバードランド、博物館で楽しもう！、琵琶湖博物館、担当。

2017年8月23日、C展示室概要説明、博物館実習、琵琶湖博物館、講師。

他の博物館・機関等主催行事

2017年6月18日、プロから学べる！野鳥写真家 叶内拓哉氏の楽しい野鳥講座、日本野鳥の会滋賀、公開講座、琵琶湖博物館、運営。

2017年8月27日、第19回生態学琵琶湖賞記念講演、一般社団法人日本生態学会、琵琶湖博物館、運営。

2017年10月29日、滋賀県の鳥類の現状と課題、滋賀県生きもの総合調査委員会、生きもの総合調査20周年記念フォーラム 滋賀の生物多様性の現状と課題ー滋賀県レッドデータブック2015年版よりー、琵琶湖博物館、講師。

2017年12月1日、琵琶湖のカワウー森と湖と人との多様な関係ー、滋賀県高等学校理科教育研究会、滋賀県高等学校理科教育研究会生物部会（動物研究部門）教員研修、琵琶湖博物館、講師。

2018年2月10日、全国繁殖分布調査 分布図作成ワークショップ、全国繁殖分布調査会（事務局バードリサーチ）、琵琶湖博物館、運営。

2018年3月6日、安曇川（滋賀県高島地域）カワウ対策検討会、関西広域連合環境保全局、カワウ対策検証事業の広域展開、高島市今津東コミュニティセンター（滋賀県）、講師。

2018年3月25日、琵琶湖や各地の海を泳ぐイノシシ〜広がる農作物などへの被害〜、公益社団法人滋賀県獣医師会、野生動物研修会一般市民講座、琵琶湖博物館、運営。

視察対応

2017年11月21日、市民参加型活動に関する意見交換対応、台湾芝山文化生態緑園。

2017年12月10日、琵琶湖の水鳥観察および展示室見学対応、韓国国立生態研究院、京大大学生態学研究センター調査船および琵琶湖博物館。

2018年2月12日、展示室見学対応、マラウイ知事来館対応。

2018年3月29日、研究成果を展示する方法に関する意見交換および展示室・収蔵庫見学対応、韓国国立海洋生物資源館。

メディアへの協力

2017年6月18日、京都新聞、野洲市の兵主神社のサギコロニー被害について、取材対応、(2017年6月13・15日)。

2017年8月25日、アム・プロモーション 雑誌「ミュゼ」118号、C展示室リニューアルに関する撮影・取材対応、(2017年7月19日)。

2018年3月25日、読売新聞、ミュージアムショップ新装オープンに伴うオリジナル商品について、取材対応、(2018年3月24日)。

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

滋賀県教育委員会、びわ湖フローティングスクールのタブレット学習ソフト動画（デジタル図鑑）製作、琵琶湖の水鳥の解説、1件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類資料の受入、1件。

第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、鳥類資料の貸出、7件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

研究部との調整に関すること，主担当。

博物館等との協力に関すること，主担当。

新任職員等研修，企画調整課業務概要説明，講師，2017年4月13日，琵琶湖博物館。

新任職員等研修，C展示室概要説明，講師，2017年4月13日，琵琶湖博物館。

ICOM-NATHIST4 館会議，会議出席，2017年9月28日，兵庫県立人と自然の博物館。

移動博物館，もってみるカワウ貸出，2017年10月14日，「山を活かす 山を守る 山に暮らす交流会（竹生島タブノキ林保全・再生事業推進協議会ブース）」。

JICA 研修「博物館とコミュニティ開発コース」，C展示室解説，講師，2017年11月14日，琵琶湖博物館。

事業セミナー，第65回全国博物館大会報告，2017年12月15日，琵琶湖博物館。

ICOM-NATHIST4 館会議，会議出席・対応，2018年2月1日，琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル おとなのディスカバリー「鳥類」コーナー，展示製作。

第2期リニューアル ディスカバリールーム「おおきくしてみよう」コーナー，羽展示の製作。

第2期リニューアル ディスカバリールーム「みつけてみよう」コーナー，鳥類展示の製作。

第2期リニューアル ミュージアムショップオリジナル商品開発，鳥類関連のオリジナル商品監修。

【研究部関連事業】

生態系研究領域の研究推進に関すること，主担当。

研究評価体制、研究審査委員会に関すること，主担当。

研究交流の総括に関すること，主担当。

韓国洛東江生物資源館との連携に関すること，担当。

ICOM 京都大会国内委員会との連携に関すること，担当。

韓国国立洛東江生物資源館，施設見学および共同研究うち合わせ対応，2017年7月19日～21日，琵琶湖博物館。

マケドニア共和国オフリド水生生物研究所，施設見学および共同研究うち合わせ対応，2018年1月25日～28日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2017年4月20日～22日，韓国国立洛東江生物資源館，協力協定締結および日韓合同セミナー発表。

【館外の活動】

1997年4月1日～2018年3月31日，京都大学生態学研究センター，協力研究員。

2006年8月1日～2021年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員。

2003年5月1日～2018年3月31日，滋賀県野生動植物との共生に関する検討会，外来種問題検討委員。

2006年7月12日～2020年3月31日，農林水産省滋賀森林管理署伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ，委員。

2010年7月21日～2018年3月31日，滋賀県カワウ総合対策協議会，委員。

2014年1月6日～2020年3月31日，関西地域カワウ広域保護管理計画の推進に関する検討委員会，委員。

2014年8月18日～2020年3月31日，関西広域環境保全計画に関する有識者会議，委員。

2015年9月1日～2018年3月27日，環境省特定鳥獣（鳥類）に係る保護管理検討調査業務に関する検討会，検討委員。

2016年2月1日～2019年3月31日，岐阜市長良川鵜飼習俗総合調査専門委員会，委員。

2016年2月1日～2019年3月31日，関市小瀬鵜飼習俗総合調査委員会専門部会，委員。

2016年8月1日～2018年7月31日，兵庫県コウノトリ野生化対策懇話会，構成員.

2016年10月18日～2018年3月31日，琵琶湖竹生島タブノキ林の保全・再生事業計画検討会，検討委員.

2017年3月30日～2018年3月29日，滋賀県カワウ第二種特定鳥獣管理計画検討会，委員.

2017年5月17日～2020年12月31日，WI-IUCN SSC Cormorant Specialist Group, Commission Member 2017-2020.

2017年7月13日～，兵主神社庭園保存活用計画策定準備委員会，委員.

2017年7月7日・2018年2月9日，苗村神社サギ対策，助言.

2018年1月23日，木の岡茶臼山古墳サギ対策，助言.

平成 29 年度 (2017 年度) は、これまで常設での展示が難しかったタナゴ亜科魚類の仔魚を、繁殖期の異なる複数の種を組み合わせることで、マイクロアクアリウムにおいて周年展示することができた。また、カイダニなど小さな生き物たちの生体展示を微小な生物を研究対象とする学芸員とともに実施した。環境学習センターの活動では、滋賀大学環境学習支援士を受け入れ「環境・ほっと・カフェ」の運営方法を指導した。また、企業が所有するビオトープにおいて、企業、地域、小学校、博物館が協働した環境学習や、メダカをテーマとした遺伝子攪乱、新たに特定外来生物に指定されるガーパークをテーマとした「環境・ほっと・カフェ」を開催した。この他、企業の環境学習に関する CSR 活動担当者を対象とした活動者交流会や、環境学習活動を実践している県内大学の学生の横の繋がりをつくる「びわ博ミーティング」などを環境学習推進員とともに開催した。

研究では、飼育下繁殖における性比の偏りに関する実証実験を実施したほか、希少種繁殖を行うにあたっての課題であった遺伝的多様性の低下を改善する方法としての精子の凍結保存技術開発を、近畿大学の太田先生と共同で、アユモドキを用いて実施した。

印刷物

【専門分野の著作】

酒井陽一郎・琵琶湖博物館うおの会・中尾博行・中川 光・金尾滋史・松田征也・宮永健太郎 (2018) 生物多様性の保全と持続可能な利用の促進に向けた研究. 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター報告書, 13 : 61-63.

【一般向けの著作】

松田征也 (2017) 湖岸より 294 生息数激減のアユモドキ展示. 中日新聞, 中日新聞社, 6月24日.

松田征也 (2017) そよかぜ「きまぐれ通信」. 滋賀の環境学習メールマガジン, 4月21日・5月20日・6月16日・7月21日・9月15日・10月20日・11月17日・12月15日.

松田征也 (2018) そよかぜ「きまぐれ通信」. 滋賀の環境学習メールマガジン, 1月20日・2月17日・3月17日.

松田征也 (2017) こだわり展示の裏話 11 神出鬼没 不思議なマミズクラゲ 研究重ね、長期連続展示. 毎日新聞, 毎日新聞社, 9月26日.

松田征也 (2018) びわ博こだわり展示の裏話 18 地味だけドスゴイ! 淡水の貝 指先で触れる 貴重な質感. 毎日新聞, 毎日新聞社, 2月27日.

松田征也 (2018) 湖岸より 313 “エリ漁”と漁師の知恵. 中日新聞, 中日新聞社, 3月10日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松田征也 (2017年5月21日) 守ろう! イチモンジタナゴ -イチモンジタナゴの生息域外保全-。イチモンジタナゴの復元放流, ぼてじゃこトラスト, 滋賀県水産試験場 (彦根市), [口頭発表].

酒井陽一郎・うおの会・中尾博行・中川 光・金尾滋史・松田征也・宮永健太郎 (2017年10月26日) 市民調査データを用いた生物多様性解析とその有用性 -滋賀県における淡水魚類の多様性評価と保全にむけて-。第20回自然系調査研究機関連絡会議, 環境省自然環境局生物多様性センター, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

松田征也 (2017年10月29日) 滋賀県の魚貝類の現状と課題. 生きもの総合調査20周年記念フォーラム, 滋賀県生きもの総合調査委員会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

上野浩太郎・木下直樹・柿岡 諒・永野 惇・松田征也・渡辺勝敏・小北智之 (2017年9月17日) 琵琶湖産ヒガイ

類における色彩多型の進化遺伝基盤. 2017年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 北海道大学函館キャンパス(北海道函館市), [ポスター発表].

鈴木隆仁・松田征也・楠岡 泰 (2017年12月11日) 琵琶湖博物館における小さな生き物たちの常設展示 水族館の展示と研究その相互作用を探る. 東京大学大気海洋研究所(千葉県柏市), [口頭発表].

村地登紀子・中野正俊・松田征也 (2018年2月7日) 企業ビオトープにおける小学校6年生の理科学習について. 平成29年度滋賀ビオトープ研究会発表会, 彦根勤労福祉会館(滋賀県彦根市), [口頭発表].

高松真也・松田征也・柴山弘史・太田博巳 (2018年3月11日) アユモドキの生息域外保存～精子凍結保存技術の開発～. 第66回魚類自然史研究会, 近畿大学農学部(奈良市), [口頭発表].

高松真也・松田征也・柴山弘史・太田博巳 (2018年3月29日) アユモドキ精子の凍結保存. 平成30年度公益社団法人日本水産学会春季大会, 東京海洋大学品川キャンパス(東京都), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「希少淡水魚における性決定について」, (2017年度).

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物の飼育技術開発および展示技法」(研究代表者:松田征也), 研究代表者(2016年度～2018年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年度後期, 龍谷大学社会学部, 「びわ湖・滋賀学」(3回), 非常勤講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 9件.

2017年7月8・9日, びわ博フェス 2017, 担当.

2017年7月29日, 初心者のためのふなずし作り体験, 博物館で楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年8月3日, みんなでメダカを考える会, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年8月24日, 魚類貝類資料整理, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年8月26日, 環境学習センターについて, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年11月4日, びわ博 学生ミーティング 活動者交流会, 琵琶湖博物館環境学習センター, 企画運営.

2017年11月29日, 企業ビオトープを活用した環境学習プログラムに関する交流会, 活動者交流会, 琵琶湖博物館環境学習センター, 企画運営.

2017年12月7日, オムロン野洲事業所における野洲市立北野小学校の理科学習, 環境ほっとカフェ, オムロン野洲事業所(滋賀県野洲市), 講師.

2017年12月10日, こどもエコクラブ活動交流会, 琵琶湖博物館, 企画運営.

2018年3月24日, 琵琶湖の魚と貝をめぐる現状, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

2018年3月25日, 琵琶湖周辺の外来生物の現状と法令, 環境ほっとカフェ, 琵琶湖博物館, 企画運営.

他の博物館・機関等主催行事

2017年6月13日, エコ・スクール支援委員会, 大津市立逢坂小学校, 助言.

2017年6月20日, 水族の展示について, 独立行政法人国際協力機構横浜国際センター, ミャンマー国別研修「内水面漁業コミュニティー開発(准高級)コース」, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年6月25日, 琵琶湖博物館の仕事 琵琶湖固有種 滋賀県の外来種, 近畿大学農学部水産学科, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年8月2日, 琵琶湖にすむ生物の生息状況の観察と学習, 南津田環境保全協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年8月4日, エコ・スクール発表会, 琵琶湖保全再生課, 琵琶湖博物館, 担当.

2017年8月7日, 琵琶湖の魚介類, 守山市教育委員会, 下之郷遺跡資料館観察会, 下之郷遺跡資料館(滋賀県守山市), 講師.

2017年8月10日, 琵琶湖の生態系や生物相の変遷について, 東海大学海洋学部水産学科, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年8月30日, 琵琶湖博物館の展示と環境学習, 独立行政法人 国際協力機構, ベトナム国・グリーン成長促進・環境学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年9月13日, 琵琶湖博物館の展示と環境学習, インドネシア教員訪問団, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年9月29日, 日本環境アセスメント協会中部支部・野外センター, 日本環境アセスメント協会, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年10月26日, 守山の川に棲む貝からみる水辺環境, NPO 法人びわこ豊穰の郷, 水辺探訪講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年11月11日, QC大会, 株式会社寺嶋製作所, 社員研修会, 株式会社寺嶋製作所(滋賀県東近江市), 講師.

2018年1月17日, 琵琶湖博物館の展示と環境学習, インドネシア高校生訪問団, 琵琶湖博物館, 講師.

2018年1月27日, 草津市子ども環境会議, 草津市環境課, 草津市役所(滋賀県), 講師.

2018年2月15日, エコ・スクール支援委員会, 大津市立逢坂小学校, 助言.

2018年3月31日, 琵琶湖疏水とイチモンジタナゴ, 京都市動物園, 琵琶湖博物館, 講師.

【視察対応】

2017年5月12日, 魚類の展示と繁殖について, 相模川ふれあい科学館.

2017年11月7日, 学校教員のESD実践を応援する拠点機能に係るヒアリング, 近畿環境パートナーシップオフィス.

2018年3月7日, 淡水貝類の展示について, 熊本県博物館ネットワーク.

2018年3月7日, ネコギギの飼育状況について, いなべ市教育委員会.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

滋賀県水産試験場 イトヨ(琵琶湖捕獲個体)2個体, 受贈.
いなべ市教育委員会 ネコギギ飼育増殖業務委託 12個体, 借受.

他博物館・機関の活動

岡山理科大学生物地球学部, 魚類咽頭歯標本, 貸出.
びわ湖フローティングスクール, タブレットPC学習ソフト動画撮影, 協力.
アクアトト・ぎふ, ビワコオオナマズ2個体, 貸出.
国立環境研究所琵琶湖分室, イシガイ科貝類, 17点, 特別観覧.
国立研究開発法人 水産研究・教育機構水産大学校, カワシンジュガイ科貝類 151点, 貸出.
米原市立双葉中学校, ハリヨ 15尾, 分譲.
名古屋市立東山動物園, ニッポンバラタナゴ 20尾, 分譲.
京都市動物園, イチモンジタナゴ 50尾, 分譲.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年4月1日～, アカヒレタビラ仔魚 マイクロアクアリウム展示.
2017年5月16日～, ニッポンバラタナゴ仔魚 マイクロアクアリウム展示.
2017年8月13日～, ミヤコタナゴ仔魚 マイクロアクアリウム展示.
2017年9月25日～, ゼニタナゴ仔魚 マイクロアクアリウム展示.
2018年3月24日～, カイダニ マイクロアクアリウム展示.

【研究部関連事業】

第 20 回自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC 20) 開催, 主担当者.
調査船「うみんど」管理, 副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

動物取扱責任者.

【館外の活動】

1999 年～, 守山湖岸再生部会, 委員.

2000 年～, 木浜内湖再生部会, 委員.

2004 年～, 淀川水系アユモドキ連絡協議会(環境省).

2011 年～, (公社) 日本動物園水族館協会 生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, ニッポンバラタナゴ種別計画管理者.

2011 年～, (公社) 日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, アユモドキ種別計画管理者.

2011 年～, (公社) 日本動物園水族館協会生物多様性委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会, イチモンジタナゴ種別計画管理者.

2012 年～, 大津市立逢坂小学校エコスクール支援委員会, 委員.

2013 年～, (公社) 日本動物園水族館協会 生物多様性委員会・保全戦略部, 部員.

2013 年～, 亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)に係る環境保全専門家会議, 委員.

2013 年～, 亀岡市アユモドキ緊急調査検討委員会, 委員.

2014 年～, 環境省近畿地方環境事務所 淀川水系アユモドキ生息域外保全検討委員会, 委員.

2014 年～, 関西広域連合広域環境保全局生物多様性検討委員会, 委員.

2014 年～, 亀岡中部土地改良事業検討会, 委員.

2015 年～, 滋賀県生き物調査生きもの総合調査委員会, 魚貝類部会長.

2015 年～, 滋賀大学環境学習支援士養成プログラム企画運営委員会, 委員.

2017 年～, 草津市こども環境会議実行委員会, 委員.

2017 年～, 野洲市環境審議会, 委員.

2017 年～, 滋賀のオオサンショウウオを守る会, 理事.

2017年度については、申請専門研究にかかるサンプリングを西浅井漁協組合員の方々のご協力を得て行うとともに、現在そのサンプル処理を行っているところである。また、4月には韓国国立洛東江生物資源館で開催された合同セミナーに於いて口頭発表を行ったほか、11月には台湾国立博物館で開催されたタイワンマス発見100周年記念国際シンポジウムに参加し、口頭発表を行った。加えて、同11月に琵琶湖博物館に於いて日本動物学会主催で開催された2017年日本動物学会近畿支部 秋の講演会において、口頭発表を行った。

長年の懸案となっている学位の取得に向けては、リニューアルの開始に伴って書きかけて止まっていた投稿論文を作成し、予定より遅れたものの2018年2月7日にIchthyological Researchに投稿することができた。ただ、その査読結果が同3月7日に戻ってきたことから、現在それに基づき改訂を進めているところである。学位については、三重大学生物資源学部の河村教授の下で2018年9月の論文博士の取得に向けて学位論文の作成を進めているところである。

事業については、新しいシステムへの資料データベースおよび図書データベースの移行について、資料グループを補佐しながら進めることができた。加えて、水族関係ではリニューアルで塗り替えたトンネル水槽をはじめとするいくつかの水槽について、塗装の不具合があったことからその修正を進めた。また、2017年度については水族の循環ポンプ等に大きな不具合が続発したことから、これらへの対応も進める必要があった。年度末近くになって、貯水槽に水漏れのあることが判明したことから、来年度これの対応を検討し進める必要がある。

5月にバックヤードで繁殖が確認されたバイカルヨコエビの1種 *Acanthogammarus victorii* の育成がある程度うまく行き、2018年3月には展示に耐える大きさにまで成長したことから、3月20日から5月6日までの期間で、水族トピック展示として展示を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

桑原雅之 (2017) 湖岸より 291 東アジアで新たな交流目指す. *中日新聞*, 中日新聞社, 5月13日.

桑原雅之 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 7 琵琶湖に流れ込む川の魚たち 下流域の営み 水槽で再現. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 7月11日.

桑原雅之 (2017) 湖と人との良好な関係性とは. *環境会議*, 秋号, 事業構想大学院大学: 162-167.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

桑原雅之 (2017年4月21日) 琵琶湖内で漁獲されるビワマスとサツキマスの交雑の状況. 日韓合同セミナー「情報交換と共同研究の促進のために」, 韓国国立洛東江生物資源館, 韓国国立洛東江生物資源館, [口頭発表].

桑原雅之 (2017年5月19日) 小糸網漁と引き縄釣り漁獲されたビワマスの生物学的特性の比較研究を行うにあたって. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

Kuwahara, M. (2017年11月12日) The seasonal change of the feeding habit based on stomach contents of Biwa Salmon in Lake Biwa. International Symposium on the Discovery of Formosa Landlocked Salmon's 100th Anniversary, 国立台湾海洋大学・国立台湾博物館・台湾環境保護連盟, 国立台湾博物館, [口頭発表].

桑原雅之 (2017年11月18日) 琵琶湖水系に生息するビワマスとアマゴの関係. 2017年日本動物学会近畿支部秋の講演会, 日本動物学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「小糸網漁と引き縄釣りで漁獲されたビワマスの生物学的特性の比較」, (2017年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 4件.

他の博物館・機関等主催行事

2017年7月25日・8月3日, 淡水魚の生態と分類, シニア自然大学, 淡水魚①, 大阪環境情報プラザ・ワキタ天満橋ビル(大阪市), 講師.

2017年8月15日, 琵琶湖に流れる川に棲むサカナについて, 伊川を愛する会, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年9月6・7日, 淡水魚の採集と同定, シニア自然大学, 淡水魚②, 大戸川(滋賀県大津市), 講師.

2017年3月6日, ビワマスの生態について, 米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト, 息長小学校(滋賀県米原市), 講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

水族トピック展示「世界初 バイカルヨコエビの赤ちゃん誕生!!」, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

【企画調整活動】

新任職員等研修, 琵琶湖博物館設立の理念と経緯, 講師, 2017年4月13日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2017年4月20日～4月22日, 韓国国立洛東江生物資源館, 日韓合同セミナー発表.

【館外の活動】

日本動物園水族館協会設備会議, 幹事.

野洲市環境審議会, 委員.

米原市ビワマスプロジェクト, 生態アドバイザー.

大津市科学館運営協議会, 委員.

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化および生物地理を明らかにすることを研究目標としている。また、地域の人たちとともに滋賀県の昆虫相を解明することを目指している。

研究活動では、2012年度から2014年度まで実施した共同研究「2010年代の滋賀県のトンボ類の分布状況に関する研究」の成果が琵琶湖博物館の研究調査報告書として出版された。滋賀県のトンボ類の1990年代の調査から約20年後の追跡調査を実施し、分布状況の変化を明らかにしたものであり、滋賀県におけるトンボ類の保全対策にとって重要な意義がある。また、古琵琶湖層群の甲賀層から産出したカタビロオサムシ属化石についての論文を学術雑誌に投稿した。滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会が中心となって、滋賀県昆虫目録を作成し、滋賀県自然環境保全課が管理しているインターネットホームページに公開する予定である。昆虫類部会長として全体の推進を行うほか、甲虫類の種のリストの作成を担当した。この目録は、滋賀県の昆虫相解明の基礎資料として今後活用が期待される。滋賀県生きもの総合調査20周年記念フォーラムが開催され、「滋賀県の昆虫類の現状と課題」というタイトルで講演した。2017年度日本トンボ学会大会(滋賀大会)の実行委員会のメンバーとして運営に携わるほか、シンポジウム「2010年代の滋賀県のトンボ～1990年代からの変遷と未来～」のパネルディスカッションにパネラーとして参加した。

事業活動では、企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」の副担当として企画運営に携わった。寄贈されたコレクションの一部を展示するトピック展示「布藤美之寄贈コレクション」を開催した。企業連携活動の一環として、企業連携によるトンボの保全活動の展示の運営を行った。滋賀県教育委員会から刊行された滋賀県道徳教材「近江の心」のトンボの記述の監修を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

- 中西康介・牛島稔広・宮武頼夫・八尋克郎・村上大介(2018) 犬上川河口におけるカワムラナベブタムシ調査の報告. *Came 虫*, 192 : 6-7.
- 河瀬直幹・牛島稔広・八尋克郎 編(2018) *滋賀県のトンボ(2010年代) 琵琶湖博物館研究調査報告書*. 30 : 181p.
- 八尋克郎(2018) 大津市伊香立のアカカネ. 河瀬直幹・牛島稔広・八尋克郎 編, *滋賀県のトンボ(2010年代) 琵琶湖博物館研究調査報告書*, 30 : 91.
- 林 成多・八尋克郎・北林栄一(2018) 昆虫化石. *大山層足跡化石発掘調査報告書* : 53.
- 八尋克郎・林 成多(2017) 滋賀県犬上郡四手から産出した昆虫化石. *多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書*, 多賀町教育委員会 : 51-58.

【一般向けの著作】

- 八尋克郎(2017) びわ博こだわりの展示の裏話 10 生き物コレクション 迫力と美しさを追求. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 9月5日.
- 八尋克郎(2017) 琵琶湖地域はトンボの宝庫. *硝友(日本電気硝子創立記念特別号)*, no. 405, 日本電気硝子総務部 : 10.
- 八尋克郎(2018) 昆虫類. *琵琶湖ハンドブック三訂版*, 滋賀県 : 190-191.
- 八尋克郎(2018) トンボ 100種類. *琵琶湖ハンドブック概要版*, 滋賀県 : 5.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 八尋克郎・杉山國雄・林 成多(2017年6月16日) 古琵琶湖層群甲賀層から産出したカタビロオサムシ属化石.

琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表].
八尋克郎（2017年10月29日）滋賀県の昆虫類の多様性の現状と課題，生きもの総合調査20周年記念フォーラム
滋賀県の生物多様性の現状と課題－滋賀県レッドデータブック2015年版より－，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖とその集水域の昆虫相の変遷」，(2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本環境動物昆虫学会第13期環境アセスメント動物調査手法研究部会，運営委員，2010年2月～.
滋賀オサムシ研究会，事務局，1997年度～.
地表性甲虫談話会会報，編集幹事，2004年度～，

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年6月25日，関西大学博物館，「琵琶湖博物館の概要」.
2018年1月4日，滋賀県立大学学芸員資格講義，「博物館資料保存論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件.
2017年7月16日，里山体験教室，大篠原（野洲市），講師.
2017年8月1日，昆虫班，自然調査ゼミナール，滋賀県中学校理科部会，琵琶湖博物館，講師.
2017年8月10日，フィールドレポーターアカトンボマーキング調査，琵琶湖バレイ・大津市，講師.
2017年8月24日，昆虫乾燥標本の整理と製作，博物館実習，琵琶湖博物館，講師.
2017年10月7日，フィールドレポーターアカトンボマーキング調査，融神社・大津市，講師，
2018年3月31日，昆虫化石，はしかけ「古琵琶湖発掘調査隊」勉強会，琵琶湖博物館，講師.

他の博物館・機関等主催行事

2017年6月23日，生物多様性と企業活動，旭化成住工RC大会，ハーティーセンター秦荘（滋賀県），講師.
2018年2月28日，生物多様性と企業，積水化成品工業(株)滋賀（甲賀市），講師.
2018年3月3日，滋賀県の昆虫類の分布と変遷，いまづ自然観察クラブ，琵琶湖博物館，講師.

メディアへの協力

2017年6月2日，滋賀彦根新聞，布藤コレクションの寄贈について，取材対応，(2017年6月1日).
2017年6月7日，滋賀報知新聞，布藤コレクションの寄贈について，取材対応，(2017年6月6日).
2017年6月9日，朝日新聞，布藤コレクションの寄贈について，取材対応，(2017年6月7日).
2017年6月19日，京都新聞，布藤コレクションの寄贈について，取材対応，(2017年6月9日).
2017年7月26日，滋賀彦根新聞，トピック展示「布藤コレクション」について，取材対応，(2017年7月25日).
2017年7月27日，滋賀民報，ヒアリについて，取材対応，(2017年7月25日).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリーの質問対応，昆虫に関する質問への回答，3件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫乾燥標本，貸出し，1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年7月29日～9月3日，トピック展示「布藤美之寄贈コレクション」，展示担当.
モーニングレクチャー，講義，4回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2011年4月1日～，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，部会長.

2012年4月1日～，野生動植物との共生に関する検討会，委員.

琵琶湖環境科学研究センター・滋賀県立大学とともに共同研究「琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件の探索」を開始した。本研究は1930年代後半の沈水植物の生息状況を適正状態と仮定し、その状態を達成するのに必要な光条件・栄養条件・除去圧力（およびその組み合わせ）をシミュレートするものである。私は沈水植物の現存量と分布似関する情報収集を担当している。2017年は沈水植物の現存量と底質の栄養塩の関係を明らかにするために、南湖の52地点で定量調査を行った。この定量調査は2002年から開始したもので2017年で5回目となる。また昨年に引き続き、魚群探知機による平均群落高の経月変化の観測を行った。

研究成果の発表としては、Lake Biwa Book (Springer) および琵琶湖ハンドブック（滋賀県）において南湖の沈水植物の稿の執筆を担当した（いずれも改定）。

研究部の活動としては相互協力関係にある中国科学院水生生物博物館・韓国洛東江生物資源館、マケドニア共和国オフリド水生生物研究所との訪問を受け入れ、今後の協力関係についての協議を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

芳賀裕樹（2018）びわ博こだわり展示の裏話 16 触って感じる琵琶湖の水温 実体験から着想 感動共有。毎日新聞 毎日新聞社，1月16日。

芳賀裕樹（2018）湖岸より 312 オフリド水生生物研究所との連携。中日新聞 中日新聞社，2月24日。

芳賀裕樹（2018）第7章 トピック 南湖の沈水植物繁茂。琵琶湖ハンドブック三訂版，滋賀県：162-163。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

里口保文・芳賀裕樹（2017年8月27日）琵琶湖南湖の草津川河口沖湖底堆積物の堆積相と堆積速度。日本第四紀学会2017年学術大会，日本第四紀学会，福岡大学（福岡市），[ポスター発表]。

石川可奈子・井上栄壮・芳賀裕樹・伴 修平（2017年9月30日）水草の刈り取り・除去による生物群集への影響評価。第82回日本陸水学会，駒ヶ岳グランドホテル（秋田県仙北市），[ポスター発表]。

芳賀裕樹（2017年10月17日）南湖の沈水植物はどうしてこんなに多いのか？。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「南湖の沈水植物の群落高の季節変化の解明」，（2017年度）。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件の探索」（研究代表者：芳賀裕樹），研究代表者（2017年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，9件。

2016年8月25日, ユニバーサルデザインと博物館, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2017年10月17日, 琵琶湖の生き物と水質について, 吹田市人権啓発推進協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2018年3月6日, 琵琶湖の生き物と水質について, 吹田市人権啓発推進協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2018年3月13日, 琵琶湖の生き物と水質について, 吹田市人権啓発推進協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2017年5月23日, 協力により作成した展示の説明・展示案内, 国交省近畿地方整備局.

2017年5月19日, 琵琶湖博物館の展示および図書について・展示案内, 中国湖南省図書館団.

2017年5月24日, リニューアルした展示について・展示案内, 草津市観光ボランティアガイド協会.

2017年6月2日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内補助, 中部圏知事会議.

2017年6月7日, 滋賀県の水田の生物多様性について, 埼玉県議会.

2017年7月6日, 琵琶湖博物館の展示手法について, 札幌市議会.

2017年8月25日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内, 関西広域連合.

2017年9月9日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内案内, ミシガン州知事.

2017年10月6日, 琵琶湖博物館の展示手法について, 松本歴史の郷.

2017年10月13日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内補助, ベトナム大使館.

2017年10月17日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内, ブラジルリオグランデドスール州政府派遣団.

2017年10月18日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内, 湖南省貿易促進委員会.

2017年10月28日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内, 自治大学同窓会.

2017年11月1日, 琵琶湖の水質保全について, 中国無錫市恵山区視察団.

2017年11月24日, 琵琶湖の水質保全について・展示案内, 中国江蘇省環境保護庁視察団.

2017年12月1日, 琵琶湖博物館の紹介, 湖南省友好協会芸術家代表团.

2017年12月7日, 琵琶湖博物館の展示・資料保管について・展示案内, 釜山海洋自然史博物館.

2017年12月8日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内, 西日本国際環境協力機関連絡会.

2018年2月2日, 琵琶湖および滋賀県の紹介・展示案内, 川越町教育委員会文化財調査委員.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年4月27日～5月21日, ギャラリー展示「お茶で琵琶湖を美しく 伊藤園フォトコンテスト写真展2017」, 主担当.

2017年5月28日～6月11日, 日本遺産パネル展, 主担当.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【企画調整活動】

1000万人来館記念式典, 2017年8月17日, 全体調整.

韓国国立洛東江生物資源館招聘, 2017年7月19日～21日, 全体調整・当日対応.

マケドニア共和国オフリド水生生物研究所招聘, 2018年1月25日～30日, 全体調整・当日対応.

地域発見!参加型移動博物館事業, 主担当.

2017年6月24日, 琵琶湖周航の歌100周年記念式典, 滋賀県文化振興課, 高島市今津(ビアンカ), 出展.

2017年8月27日, 生まれ!エコっ子フェスティバル, エコっ子フェスティバル実行委員会, ビバシティ彦根(彦根市), 出展.

2017年8月31日～9月1日, JSTイノベーションジャパン, 科学技術振興機構, 東京ビッグサイト(東京都江東区), 龍谷大学REC出展のための製作協力およびキット貸し出し.

2017年11月26日, 遊びの宝島へGO, 滋賀県子ども会連合会, G-netしが大ホール(近江八幡市), 出展.

2017年12月3日, 琵琶湖ヨシ刈り体験活動, 伊藤園・淡海環境保全財団・琵琶湖政策課, やわらぎホール(東近

江市), 出展.

琵琶湖博物館広報営業課による出展, 3 件.

他機関等への貸し出し, 14 件.

他機関等との共催事業, 企画調整, 主担当.

2017 年 6 月 25 日, コスモアースコンシャスアクトクリーンキャンペーン in 草津, FM 滋賀, 全体調整・会場運営.

2017 年 7 月 24・25 日, エコキッズ博士になろう, 滋賀県温暖化対策課, 全体調整・会場運営.

2017 年 8 月 27 日, 第 19 回生態学琵琶湖賞授賞式および受賞記念講演, 日本生態学会, 全体調整・会場運営.

2018 年 1 月 28 日, ILEC30 周年記念シンポジウム, 国際湖沼環境委員会, 全体調整・会場運営.

2018 年 2 月 27 日, 自然と人間との共生フェスタ in 滋賀, 国際花と緑の博覧会協会, 全体調整・参加者募集・会場運営.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2017 年度, 滋賀県水草対策チーム.

琵琶湖ハンドブック, 三訂版改定検討チーム.

2017年度は、2014年度から始まった滋賀県庁自然環境保全課生物多様性戦略推進室の兼務が4年目を迎えた。これまでの3年間と同様に、県庁には週4日の勤務が割り当てられ、本務の博物館での勤務は残る週1日となった。

自然環境保全課では、侵略的外来水生植物のオオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウを対象とした防除事業を戦略的に実施することが主要な業務であった。この事業は、兼務初年度の2014年度から「琵琶湖外来水生植物対策協議会」を主な実施主体として本格的に実施され、機械力を導入してオオバナミズキンバイ等の純群落の大部分を除去することで、急増した生育面積を抑え込むことに一旦は成功しながら、翌2015年度には他の植物との混生箇所等からの大規模な再生により生育面積が大きく「リバウンド」したことを教訓に、2016年度からは、機械駆除を行う際には人力駆除を併用した「取り残しのない丁寧な駆除」に心がけるとともに、駆除した箇所を対象に巡回・監視を徹底して「群落の再生への早期対応」を行うことを基本方針とし、分散・拡大等のリスクの高い箇所から優先的に駆除事業を実施した。しかし、当初予算の事業規模では駆除作業による面積縮減量を植物の成長による面積増加量が上回り「制御不能」となる状況が予測されたため、年度後半には補正予算を確保し事業規模を大きく上げ、3名の職員を追加して「オオバナミズキンバイ対策チーム」が編成され、年度末には生育面積を縮減させることに成功した。このような状況で迎えた2017年度は、対策チームの担当者がすべて交代して新たな陣容でのスタートとなり、新メンバーの育成を心がけながら、前年度後半から続く巨大な予算規模の事業に取り組んだ。

2017年度の特徴としては、前年度後半に確認されたナガエツルノゲイトウの一部農地への侵入に対し、地元市と地域の農業農村振興事務所や土地改良区との連携による初期対応の実施、南湖東岸を対象に地元漁業協同組合にも巡回・監視業務への協力依頼、環境省生物多様性保全回復施設整備交付金の支援による琵琶湖国定公園域外の内湖・河川等の内陸水域における駆除事業の開始、琵琶湖下流域における分布拡大の確認、中学校科学部による研究活動の指導、県の水草等対策技術開発支援事業等への協力などが、新たな展開となった。また、地元市やNPO、漁協をはじめ多様な主体が実施する侵略的外来水生植物駆除のための活動に、場合によっては計画段階から積極的に参加し、技術指導や知識伝達を中心とした普及に努め、後述する県主催の研修会等でも県職員への啓発の機会を得ることができた。さらに、滋賀県以外でも千葉県印旛沼周辺のナガエツルノゲイトウの水田地帯への侵入状況や、千葉県手賀沼や鹿児島県東串良町でのオオバナミズキンバイの生育状況を現地確認し、情報収集意見交換に努めた。

侵略的外来水生植物以外にも、2017年度に国内への侵入が確認された特定外来生物ヒアリへの県内での体制整備や同定等問い合わせ対応、同じく特定外来生物オオキンケイギクへの県森林政策課による研修、2014年度末に策定された「生物多様性しが戦略」を推進するための制度として、2017年度で最後となった「しが生物多様性大賞」の選定作業や、2018年度から実施予定の生物多様性認証制度の設計作業を支援した。

オオクチバス等外来魚に関する研究は、兼務の最初の3カ年が実施期間と重なった環境省推進費「外来動物の根絶を目指した総合的防除手法の開発」(研究代表者：五箇公一)の分担者として研究を進めた吊り下げ式人工産卵装置とフェロモントラップを利用した技術開発を専門研究で継続し、前者については琵琶湖内湖と岡山県苫田ダムでの活動を2018年度に更新予定の「研究スタジアム」の素材とした。博物館リニューアルに関しては、大人のディスプレイで分担する両生・爬虫類と陸生貝類の展示コーナーの設計や標本採取、展示物の製作等を行った。

博物館資料に関しては、2014年に笹川日仏助成財団助成金の研究協力者としてフランス国立自然史博物館所蔵の19世紀後半にフランス人ステナケルが採集した琵琶湖産水生生物の標本調査の機会を得たのをきっかけに始まった、古い時代に採集された標本調査として、2017年度も同じく香川大学・滝川祐子氏の文部省科学研究費補助金の研究協力者としてスウェーデン国立自然史博物館に所蔵された19世紀後半に調査船ヴェガ号が採集した琵琶湖産を含む日本産の貝類標本の調査を行った。さらに、年度後半には、東京大学・山室真澄氏との共同で「中海干拓・淡水化事業に伴う魚類生態調査(1959～1962年度)」で得られ、京都大学理学部から琵琶湖博物館へ提供された魚類等の液浸標本を対象に、保存液を採集当時のホルマリン溶液からエタノール溶液へと置換し、劣化した容器を交換し、標本個体の同定と計数を行った。

印刷物

【専門分野の著作】

- 中井克樹 (2017) 琵琶湖の外来魚問題をふり返って：その背景と経緯. *海洋と生物*, (228) : 3-9.
- 中井克樹 (2017) 侵略的外来魚オオクチバスに対する対策—特に影響軽減のための新しい手法について. *生物の科学遺産*, 71 (1) : 34-40.
- 野村俊夫・中井克樹 (2018) 関西広域連合による生物多様性施策の動向. *季刊 政策・経営研究*, 2018 Vol. 1, 三菱UFJリサーチ&コンサルティング : 9-19.

【一般向けの著作】

- 中井克樹 (2017) 湖岸より 308 アメリカザリガニ再び登場. *中日新聞*, 中日新聞社, 12月23日.
- 中井克樹 (2018) びわ博こだわり展示の裏話 20 カタツムリ 移り変わる殻の色柄～多様な地域性 独特な魅力. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 3月27日.
- 中井克樹 (2018) 外来種問題. 内藤正明 監修, *琵琶湖ハンドブック三訂版*, 滋賀県 : 170.
- 中井克樹 (2018) 外来魚. 内藤正明 監修, *琵琶湖ハンドブック三訂版*, 滋賀県 : 172-173.
- 自然環境保全課 (中井克樹・中島潤一) (2018) 希少な野生生物の現状と保護. 内藤正明 監修, *琵琶湖ハンドブック三訂版*, 滋賀県 : 154.
- 自然環境保全課 (中井克樹) (2018) 侵略的外来水生植物への対策. 内藤正明 監修, *琵琶湖ハンドブック三訂版*, 滋賀県 : 171.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 中井克樹 (2014) ナカセコカワニナ ; ナナツガミジンツボ ; ナナツガマホラアナミジンニナ ; キザキコミズシタダミ ; ハマダモノアラガイ ; カワネジガイ ; ヒダリマキモノアラガイ ; マルタニシ ; クロカワニナ ; コバヤシミジンツボ ; アキヨシミジンツボ ; ホラアナミジンニナ ; ニホンミズシタダミ ; オウミガイ ; ミズコハクガイ ; クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ) ; マシジミ ; セタシジミ ; タイワンヒルギシジミ ; ヤエヤマヒルギシジミ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編, *レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—6 貝類*, ぎょうせい : 43; 54; 55; 78; 82; 83; 84; 275; 277; 281; 281; 282; 306; 309; 310; 310; 399; 400; 401; 401.
- 中井克樹 (2014) 外来生物法、外来種の定義：水域を中心に. 小倉紀雄・竹村公太郎・谷田一三・松田芳夫 編, *水辺と人の環境学 (中) —人々の生活と水辺—*, 朝倉書店 : 66-69.
- 中井克樹 (2014) ブラックバス・ブルーギルの生態と生息抑制. 小倉紀雄・竹村公太郎・谷田一三・松田芳夫 編, *水辺と人の環境学 (中) —人々の生活と水辺—*, 朝倉書店 : 69-71.
- 中井克樹 (2014) 淡水魚の放流による国内外来種と遺伝的攪乱の問題. 小倉紀雄・竹村公太郎・谷田一三・松田芳夫 編, *水辺と人の環境学 (中) —人々の生活と水辺—*, 朝倉書店 : 71-74.
- 中井克樹 (2014) ダム湖における外来魚問題とその対策. 谷田一三・江崎保男・一柳英隆 編, *ダムと環境の科学III エコトーンと環境創出*. 京都大学学術出版会 : 195-211.
- Nakai, K. (2014) Ancient lakes. International Lake Environment Committee Foundation (ed.) *Lake Biwa Guidebook*. Environmental Policy Division of Shiga Prefectural Government: 36.
- Nakai, K. (2014) Invasive alien species. International Lake Environment Committee Foundation (ed.) *Lake Biwa Guidebook*. Environmental Policy Division of Shiga Prefectural Government, Otsu: 56-57.
- 稲村 修・不破光大・草間 啓・中井克樹 (2014) 早月川河川敷の水溜りにおける人工産卵装置導入によるオオクチバスの繁殖抑制について. *魚津水族館年報*, 23 : 18-20.
- 江川昂弘・山本智子・鹿児島市松元土地改良区・高山真由美・中井克樹 (2014) 松元ダムにおけるオオクチバスとブルーギルの駆除—人工産卵装置と捕獲装置を用いて—. *鹿児島の自然*, 46 : 95-99.
- 中井克樹 (2015) 特定外来魚の生息抑制装置の開発. (独) 水産総合研究センター 編 *外来魚抑制管理技術高度化事業報告書～水産庁事業による外来魚駆除マニュアルおよび研究報告～*, 水産庁 : 68-76.

- 中井克樹 (2015) 陸産貝類 [概説および 43 種の解説]. 京都府企画環境部環境企画課 編, *京都府レッドデータブック上巻*, 京都府企画環境部環境企画課, 京都: 439-462.
- 中井克樹 (2015) 陸産貝類 [8 種の解説]. 京都府自然環境保全課 編, *京都府レッドデータブック [普及版]*. サンライズ出版: 102-105.
- Azami, K., Higuchi, T., Konishi, C., Hashimoto, H., Osugi, T., Asaeda, T. and Nakai, K. (2015) An inundated *Salix* stand provides spawning and nursery habitat for native fish in a periodically flooded reservoir zone. *River Systems*, 21: 229-240.
- 中井克樹 (2016) 陸産貝類 [概説および 60 種の解説 (石田未基・大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史・宮井卓人と共著)]. 滋賀県 編, *滋賀県において大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015 年版*. サンライズ出版: 535-559.
- 中井克樹 (2016) ナガタニシ; マルタニシ; オオタニシ; カワムラマメシジミ; ビワコドブシジミ. 滋賀県 編, *滋賀県において大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015 年版*, サンライズ出版: 583; 583; 587; 594; 594.
- 中井克樹 (2016) 湖岸より 279 子育ては口の中. *中日新聞*, 中日新聞社, 11 月 26 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 平野尚浩・齊藤 匠・中井克樹・綱本良啓・陶山佳久・千葉 聡 (2017 年 4 月 15 日) MIG-seq 法によって明らかになった琵琶湖での劇的な形態の変化: タニシ科貝類を例にして. 日本貝類学会平成 29 年度大会, ホテルシーモア (和歌山県白浜町), [口頭発表].
- 中井克樹・滝川祐子 (2017 年 7 月 16 日) 19 世紀に海を渡った琵琶湖の貝. 阪神貝類談話 2017 年 7 月例会, 西宮市西宮浜公民館 (兵庫県), [口頭発表].
- 中井克樹 (2017 年 8 月 21 日) 滋賀県・琵琶湖における侵略的外来種対策の経緯・現状と課題. 国立環境研究所琵琶湖分室セミナー第 4 回, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター (大津市), [依頼発表].
- 中井克樹 (2017 年 8 月 24 日) 琵琶湖における侵略的外来水生植物問題の経緯と現状: 対策協議会及び滋賀県の取組. 水陸両生の侵略的外来水生植物の管理に関するワークショップ, 滋賀県立大学環境科学部水陸両生外来植物管理研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中井克樹 (2017 年 9 月 17 日) 公的規制による外来魚対策の経緯・現状・課題. 2017 年度日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス (北海道函館市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2017 年 9 月 17 日) 口頭第 1 会場「生態・行動セッション」講演 26-29. 2017 年度日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス (北海道函館市), [座長].
- 坂本正吾・浅見和弘・大杉奉功・中井克樹・菊地裕光・三浦博之 (2017 年 9 月 24 日) 三春ダムにおけるリフレッシュ放流を活用したブルーギルの繁殖抑制の試験的取組み. 日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会 3 学会合同大会, 名古屋大学 (名古屋市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2017 年 10 月 19 日) 琵琶湖における外来動植物種対策の現状と課題. びわ湖環境ビジネスメッセ 2017 セミナー「環境保全へのグローバルな問題の解決に向けて」, 滋賀バイオ推進機構, 長浜バイオ大学ドーム (滋賀県長浜市), [依頼発表].
- 中井克樹 (2017 年 10 月 27 日) 古代湖・琵琶湖を擁する滋賀県の自然環境保全: 共生条例と侵略的外来水生植物対策. 第 20 回自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC20), 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中井克樹 (2017 年 12 月 20 日) 厄介な外来植物オオバナミズキンバイ: 西日本から全国へ?. 応用生態工学会大阪勉強会 2017, 八千代エンジニアリング (株) 大阪支店 (大阪市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2018 年 1 月 27 日) 琵琶湖における水陸両生の外来植物による新たな脅威~他の水域でも魚に続く侵略的外来種に要注意! ~. 第 13 回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 草津まちづくりセンター (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2018 年 2 月 16 日) 琵琶湖の侵略的外来水生植物対策の経緯・現状・課題. 琵琶湖博物館研究セミナー,

琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中井克樹 (2018年2月17日) 新たな侵略者・水陸両生の外来植物にもご注意を!. 2018年ノーバスネット総会・ワークショップ, 全国ブラックバス防除市民連合, 東京環境工科専門学校 (東京都葛飾区), [口頭発表].

中井克樹 (2018年2月22日) 地方自治体における外来種対策: 国と地元とのはざままで. 平成29年度中部地方外来種対策連絡会議, 中部地方環境事務所 (名古屋市), [依頼講義].

中井克樹 (2018年3月11日) 琵琶湖博物館に眠っていた約60年前の魚類標本. 第66回魚類自然史研究会, 近畿大学農学部奈良キャンパス (奈良市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「淡水生物等の保全に関する研究」, (2017年度).

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「スウェーデンの Vega 号資料に基づく明治初期の日本研究と琵琶湖環境の復元」 (研究代表者: 滝川祐子), 研究協力者 (2015年度~2017年度).

環境省生物多様性保全回復施設整備交付金による滋賀県生物多様性保全回復整備事業, 実施担当者 (2017年度~).

環境省生物多様性保全推進交付金および滋賀県侵略的外来水生植物戦略的防除事業費による琵琶湖外来水生植物対策協議会事業, 事務局担当者 (2014年度~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会自然保護専門委員会, 外来種問題検討作業部会, 委員, 2001年3月~.

日本生態学会自然保護専門委員会, 近畿地区選出委員, 2013年1月~.

日本生態学会近畿地区会自然保護専門委員会, 委員, 1998年~.

日本魚類学会, 評議員, 2004年1月~2017年9月.

日本魚類学会自然保護委員会, 委員, 2001年2月~.

日本魚類学会自然保護委員会外来魚部会, 部会長, 2014年1月~.

日本貝類学会, 評議員, 2011年1月~.

応用生態工学会普及・関係委員会, 委員, 2009年10月~.

滋賀自然環境研究会, 事務局および会誌編集委員, 2016年7月~.

阪神貝類同好会, 理事, 2000年1月~.

生物多様性ネットワーク新潟, 顧問, 2004年10月~.

全国ブラックバス防除市民ネットワーク, 理事, 2005年11月~.

ばてじゃこトラスト イチモンジタナゴ復元放流検討委員会, 委員, 2017年1月~.

水資源・環境学会, 水資源・環境研究, 査読, 1件.

日本陸水学会, Limnology, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年5月26日, 滋賀県立大学大学院環境科学研究科, 「近江の生態的特性」地域デザイン論, 講義.

2017年10月12日, 立命館大学大学院理工学研究科, 「琵琶湖の環境政策 (1) 歴史的経緯と水環境, (2) 生物多様性」SPD 2017 後期 課題: 環境インフラとしてのランドスケープ~非建設手法によって都市の基盤構造を再構成する~, 講義.

趙 子笑 (滋賀県立大学環境政策研究科環境計画学専攻地域環境経営部門大学院修士課程 (環境科学)), 「外来水生植物焼却処分と炭化処分の経済性の分析-琵琶湖を事例として-」, 助言・データ提供.

東邦大学理学部生物学科地理生態学研究室4回生, オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウの生育状況の調査, 琵琶湖南湖, 現地案内.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の活動

2018年3月25日、外来種対応の考え方～厄介な生きものはルールも厄介？～、環境ほっとカフェ、琵琶湖博物館、講師。

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月13日、狼川における生物調査の指導と結果総括、第29回調査会、湖南企業いきもの応援団、狼川および草津市南笠東公民館（滋賀県草津市）、講師。

2017年4月26日、話題提供「外来魚のリリース禁止の考え方」、琵琶湖レジャー利用監視員会議、滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課、滋賀県大津合同庁舎（大津市）、情報提供者。

2017年4月28日、侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイとその防除対策に関する現場解説、平成29年度滋賀県土木技術職員現場研修、滋賀県建設技術センター、矢橋中間水路（滋賀県草津市）、講師。

2017年5月10日、生物多様性・外来生物・希少野生動植物に関する解説、自然環境行政に関する研修会、滋賀県自然環境保全課、滋賀県大津合同庁舎（大津市）、情報提供者。

2017年5月13日、オオバナミズキンバイ等侵略的外来水生植物の駆除手法に関する指導・実演、第1回瀬田川流域クリーン作戦、瀬田町漁業協同組合等、瀬田川（滋賀県大津市）、解説者（自然環境保全課職員と共同）。

2017年5月21日、希少淡水魚の保全放流に関する助言・指導、学習会および野生復帰作業、ぼてじゃこトラスト、琵琶湖内湖（滋賀県内）、解説者（松田征也と共同）。

2017年5月23日、講演「湖国の生きものにぎわい（生物多様性）」、平成29年度滋賀県職員退職者会中部支部教養懇話会、近江八幡グリーンホテル（滋賀県近江八幡市）、講師。

2017年5月27日、オオバナミズキンバイ等侵略的外来水生植物の駆除手法に関する指導・実演、第2回瀬田川流域クリーン作戦、瀬田町漁業協同組合等、瀬田川（滋賀県大津市）、解説者（自然環境保全課職員と共同）。

2017年5月27日、講義「琵琶湖と生物多様性とオオバナミズキンバイ」およびオオバナミズキンバイの駆除作業の指導・実演、龍谷大学ボランティア入門講座、大津市生涯学習センターおよび膳所城跡公園湖岸（滋賀県大津市）、解説者（自然環境保全課職員と共同）。

2017年5月31日、侵略的外来水生植物対策に関する講義と現地見学案内、平成29年度滋賀県琵琶湖環境部新任職員研修、滋賀県琵琶湖環境部、琵琶湖博物館および琵琶湖岸、講師。

2017年6月8日、情報提供「彦根市神上沼地域における農地や水路への侵入状況について」、特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」農地侵入対策会議、彦根市・滋賀県湖東農産普及課、滋賀県湖東合同庁舎（彦根市）、情報提供者。

2017年6月11日、開会挨拶およびジェットポンプを用いたオオバナミズキンバイの効果的な駆除手法の指導・実演、第3回瀬田川流域クリーン作戦、瀬田町漁業協同組合他、瀬田川（滋賀県大津市）、解説者（自然環境保全課職員と共同）。

2017年6月13日、講義「特定外来生物オオキンケイギクの防除：その考え方と対応の手法」および現場での防除活動の指導・実演、特定外来生物「オオキンケイギク」の生態と防除方法に関する勉強会、滋賀県森林政策課、滋賀日産リーフの森（滋賀県栗東市）、講師。

2017年6月14日、琵琶湖の外来魚問題に関する解説、開智未来中学校琵琶湖学習旅行、琵琶湖博物館、指導者。

2017年6月19日、水田のナガエツルノゲイトウ対策に関する助言、特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」防除研修会ならびに駆除作業、滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課・彦根市産業部農林水産課、水田地帯（滋賀県彦根市）、解説者（自然環境保全課職員と共同）。

2017年6月24日、ジェットポンプを用いたオオバナミズキンバイの効果的な駆除手法の指導・実演、西村副知事・安田自然環境保全課長への説明、第3回瀬田川流域クリーン作戦、瀬田町漁業協同組合他、瀬田川（滋賀県大津市）、解説者（自然環境保全課職員と共同）。

2017年6月26日、授業「狼川の生きもの」および「狼川水族館」の維持管理に関する助言、環境学習、南笠東小

学校（滋賀県草津市），講師。

- 2017年7月6日，侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイの防除体験の指導，滋賀県職員びわ湖の日環境美化活動「オオバナミズキンバイ駆除作業」，滋賀県，膳所城跡公園湖岸（滋賀県大津市），講師（滋賀県自然環境保全課職員と共同）。
- 2017年7月11日，ナガエツルノゲイトウに関する情報提供，特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」対策会議。滋賀県湖北農業農村振興事務所，入江干拓土地改良区（滋賀県米原市），情報提供者。
- 2017年7月15日，オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウの解説と駆除実演，観察会「オオバナミズキンバイの駆除と草木染体験」，滋賀県いきものふれあい室，橋爪樋門および馬原樋門（滋賀県高島市），講師。
- 2017年7月15日，ナガエツルノゲイトウの解説と駆除実演，オオバナミズキンバイ駆除作業，高島市，代官川等（滋賀県高島市），講師。
- 2017年7月22日，講義「松元ダムの外来魚」および外来魚釣りの指導，外来魚の学習@駆除 in 松元，鹿児島市松元土地改良区，松元ダム（鹿児島市），講師。
- 2017年7月25日，狼川における生物調査の指導と結果総括，第30回調査会，湖南企業いきもの応援団，狼川および南笠東公民館（滋賀県草津市），講師。
- 2017年7月26日，狼川の生きもの観察会，南笠東小学校地域公開講座「狼川の生き物と水質調査」，草津市立南笠東小学校，狼川（滋賀県草津市），講師（湖南企業生きもの応援団団員と共同）。
- 2017年7月27日，オオバナミズキンバイの研究に関する指導・助言，科学部中間成果報告会，守山私立守山中学校（滋賀県），指導者。
- 2017年7月27日，水路に生育するナガエツルノゲイトウの駆除に関する指導，ナガエツルノゲイトウ共同駆除作業，入江干拓土地改良区，入江内湖承水溝（滋賀県米原市），講師。
- 2017年7月29日，講演「なぜ外来種問題に取り組むのか、その考え方」環境セミナー，環境市民会議おかや・岡谷市，カノラホール（長野県岡谷市），招待講演。
- 2017年8月1日，ナガエツルノゲイトウに関する情報提供，特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」対策会議。長浜市農政課，長浜市役所（滋賀県），情報提供者。
- 2017年8月2日，オオバナミズキンバイ・ナガエツルノゲイトウの種判別・除去方法等の解説，三日月知事の案内，地域貢献活動，立命館大学体育会，琵琶湖サンシャインビーチ（滋賀県大津市），解説者（国際ボランティア学生協会，滋賀県自然環境保全課職員と共同）。
- 2017年8月3日，講義「琵琶湖をめぐる地方環境行政」，JICA エルサルバドル国ホロメガ湖・ホコタル湖総合的湿地管理プロジェクト研修，日本工営（株）・インテムコンサルティング（株），琵琶湖博物館，講師（滋賀県自然環境保全課尾上 怜と共同）。
- 2017年8月4日，情報提供「特定外来生物『ヒアリ』への対応の考え方（案）」，平成29年度第2回環境事務所連絡会，滋賀県琵琶湖環境部，滋賀県東近江合同庁舎（滋賀県東近江市），講師。
- 2017年8月20日，基調講演「よそ者だから悪いのか？ 厄介な外来種問題」，平成29年度第1回生物多様性シンポジウム「外来種問題ってなに？」，岐阜市，みんなの森ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ（岐阜市），講師。
- 2017年8月20日，おさらいクイズ「外来種問題ってなに？」進行，平成29年度第1回生物多様性シンポジウム「外来種問題ってなに？」，岐阜市，みんなの森ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ（岐阜市），解説者（金華山サポーターズ野尻智周氏と共同）。
- 2017年8月23日，博物館展示解説および湖魚料理づくり支援，びわっ子大使世代間交流会，滋賀県自然環境保全課，国際湖沼環境委員会および琵琶湖博物館，講師。
- 2017年8月25日，水田のナガエツルノゲイトウ対策に関する助言および駆除作業，ナガエツルノゲイトウ共同駆除作業，滋賀県湖北農業農村振興事務所・彦根市環境保全係・農村整備係等，水田地帯（滋賀県彦根市），解説者。
- 2017年8月26日，琵琶湖の外来魚をめぐるディスカッションの進行，第7回マザーレイクフォーラムびわコミ会議（第2部）テーブルディスカッション「外来種と生きられるか？」，マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県，コラボしが 21（滋賀県大津市），進行役および連絡調整担当者（国際ボランティア学生協会岡本佳奈氏と共同）。

- 2017年9月2日, 講義「琵琶湖のいま: 増えすぎた生きものと減りすぎた生きもの (オオバナミズキンバイのおはなし)」および現地観察会解説, 2017年度びわ湖の日学習会「オオバナミズキンバイを見て学ぼう」, コープしが, 琵琶湖博物館および琵琶湖岸, 講師.
- 2017年9月3日, 講義「外来種問題の考え方」, 第6回井の頭かいぼり隊講習会, 井の頭恩公園100年実行委員会, 東京都西部公園緑地事務所 (武蔵野市), 講師.
- 2017年9月8日~10日, イベント開催の事前準備と当日の支援, 琵琶湖外来水生植物除去大作戦2017, 国際ボランティア学生協会, 烏丸半島・大津なぎさ公園・湖岸緑地公園・瀬田川など (滋賀県草津市・大津市・守山市), 解説者・支援.
- 2017年9月9日, 開会式における滋賀県挨拶, 第5回瀬田川流域クリーン作戦, 瀬田町漁業協同組合他, 瀬田川 (滋賀県大津市), 解説者 (滋賀県自然環境保全課職員と共同).
- 2017年9月23日, パネルディスカッションの進行, フォーラム「自然の恵みを受け継ぐために: 『関西の活かしたい自然エリア』の活用を考える」, 関西広域連合自然環境局, 川西市みつなかホール (兵庫県), 企画およびコーディネーター.
- 2017年9月24日, ツアーの企画・準備および随行, 自然エリア16「北摂・南丹」エコツアー, 関西広域連合自然環境局, 一庫公園・黒川・銀寄栽培・妙見山 (兵庫県川西市・大阪府能勢町), 企画および随行.
- 2017年9月26日, オオバナミズキンバイの生態・影響・除去手法に関する解説, オオバナミズキンバイ駆除作業, (独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所, 新浜ビオトープ (滋賀県草津市), 講師.
- 2017年10月13日, 基調講演「水辺の環境保全と外来種対策: 琵琶湖の事例を中心に」, 緊急集会!! いま転換期、洞爺湖のウチダザリガニ! - 今後のウチダザリガニ対策に向けて -, UWクリーンレイク洞爺湖, 洞爺湖ビジターセンター (北海道洞爺湖町), 講師.
- 2017年10月14日, 基調講演「『外来種だらけ』の状況にどう対処するか?」, シンポジウム「外来種だらけ? 一道南地域の生物多様性と外来種問題」, 大沼ラムサール協議会・北海道渡島総合振興局・北海道新聞野生生物基金・北海道ラムサールネットワーク・酪農学園大学, 函館市国際水産・海洋総合研究センター (北海道), 講師.
- 2017年10月20日, 狼川における生物調査の指導と結果総括, 第31回調査会, 湖南企業いきもの応援団, 狼川および南笠東公民館 (滋賀県草津市), 講師.
- 2017年10月21日, 狼川の生きもの水槽展示および解説板作成, 南笠東秋フェスタ, 南笠東学区まちづくり協議会, 南笠東まちづくりセンター (滋賀県草津市), 講師.
- 2017年10月29日, 生きもの総合調査20周年記念フォーラム「滋賀の生物多様性の現状と課題~滋賀県レッドデータブック2015年版より~」, 滋賀県生きもの総合調査委員会・滋賀県, 企画・運営.
- 2017年11月3日, 講義「Biodiversity and Invasive Species Control in Lake Biwa」, 東南アジア・南アジア諸国農林業関係専攻研究者・学生訪日団研修, 京都大学東南アジア地域研究所, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2017年11月4日, 狼川の生き物の採集と解説. 観察会「都市部を流れる川の生き物」, 滋賀県いきものふれあい室, 狼川 (滋賀県草津市), 講師.
- 2017年11月15日, 基調講演「琵琶湖で猛威を振るう外来水生植物: 対策の経費も労力も膨大」, 緊急勉強会「手賀沼緊急事態! 考えよう! 外来水生植物対策」, 美しい手賀沼を愛する市民の連合会・手賀沼流域フォーラム実行委員会, 手賀沼親水広場 水の館 (千葉県我孫子市), 講師.
- 2017年11月17日, 生物多様性の保全と持続的利用のための法令と戦略~自然共生社会づくりをめざして~, 平成29年度第4回環境担当職員実務研修 (環境関係法令研修), 滋賀県高島環境事務所, 高島市環境センター (滋賀県), 講師.
- 2017年12月3日, 湖岸に生育する侵略的外来植物に関する解説と駆除実演, 侵略的外来水生植物共同駆除作業, 美しい湖国をつくる会高島支部, 針江浜園地ほか (滋賀県高島市), 講師.
- 2017年12月12日, 授業「身の回りの環境を守るために (みんなのアカミミガメをどうするか?)」, 4年1組環境学習, 仰木の里小学校, 大津市立仰木の里小学校 (滋賀県), 講師.
- 2018年1月27日, オオバナミズキンバイの研究に関する指導・助言, 科学部成果報告会, 守山市立守山中学校 (滋賀県), 指導者.
- 2018年1月30日, 狼川における生物調査の指導と結果総括, 第32回調査会, 湖南企業いきもの応援団, 狼川およ

び南笠東公民館（滋賀県草津市），講師。

- 2018年2月10日，講義「瀬田川沿いにも増えてきた水陸両生の外来植物」，瀬田川ヨシ刈り&勉強会，NPO法人リバプレ隊，橋本自治会館（滋賀県大津市），講師。
- 2018年3月14日，オオバナミズキンバイの生態と駆除実演の解説，オオバナミズキンバイ等駆除作業見学会，滋賀県自然環境保全課，（独）水資源機構新浜ビオトープ（滋賀県草津市），講師。
- 2018年3月24日，オオバナミズキンバイの生態と駆除実演の解説．浮舟水質保全施設における外来水生植物駆除作業見学会．滋賀県自然環境保全課，浮舟水質保全施設（滋賀県草津市），講師。

視察対応

- 2017年6月22日，琵琶湖の外来魚問題等に関する現状解説，国立環境研究所琵琶湖分室視察，滋賀県庁（大津市），（安田自然環境保全課長と共同）。
- 2017年7月26日，オオバナミズキンバイ生育状況の現地案内，滋賀県議会環境農政常任委員会視察，矢橋中間水路（滋賀県草津市）。
- 2017年9月1日，オオバナミズキンバイの生育状況の現地案内，総務省交付税査察官視察，矢橋中間水路（滋賀県草津市）。
- 2018年2月12日，滋賀県内視察，カリフォルニア大学バークレー校一行，琵琶湖博物館および仰木棚田（滋賀県大津市）。
- 2018年2月19日，琵琶湖の外来魚問題に関する視察，中間市長・NPO法人抱樸代表，滋賀県自然環境保全課（大津市）。

メディアへの協力

- 2017年5月13日，中日新聞滋賀版，バリの教訓 世界湖沼会議から半年 3：企業不参加 発展に壁，前年にインドネシア・バリ島で開催された世界湖沼会議の評価，コメント。
- 2017年5月13日，滋賀報知新聞，白い形くっきり／珍しいバッタの抜け殻，ショウリョウバッタの脱皮殻の解説，コメント。
- 2017年6月12日，NHK総合テレビ大津局，おはよう関西・地域と世界：びわ湖に迫る新たな外来魚，チャンネルキャットフィッシュに関する情報提供（6月13日「おうみ発630」でも放送）。
- 2017年6月22日，NHK総合テレビ大津局，おうみ発630・びわ湖の外来種水草 瀬田川・京都の川で初確認，概要説明および写真資料提供。
- 2017年6月24日，BBCびわ湖放送，BBCニュース・侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイを駆除，瀬田川のオオバナミズキンバイの駆除に関する解説，出演。
- 2017年6月25日，テレビ東京，緊急SOS 池の水ぜんぶ抜く大作戦 第3弾：池の水ぜんぶ抜く&駆除の達人 緊急SOS！ヤバイ現場に行ってみた！，千葉県習志野市の溜池で確認された魚貝類の同定。
- 2017年7月1日，BBCびわ湖放送，開局45周年記念特別番組：発信！琵琶湖新時代・人の英知どこまで…ブルーギル対策最前線，琵琶湖のブルーギルの現状と新規手法の開発の必要性に関するコメント，出演（6月28日取材対応）。
- 2017年7月15日，日本経済新聞，もっと関西（とことんサーチ）：コース内側の全面的なぜ池？／湿地帯の名残／淀の競馬彩る，淀競馬場にメンカラスガイが生息することの意義に関する解説，コメント。
- 2017年7月16日，毎日新聞滋賀版，有害外来植物 水際で駆除を／親子ら水路で体験会／高島 県主催，オオバナミズキンバイの影響に関する解説，コメント。
- 2017年7月30日，TBSテレビ，世界遺産：バイカル湖，バイカル湖における撮影に関する助言。
- 2017年9月3日（9月9日再放送），NHK総合テレビ，小さな旅：山の歌・夏「花立ち 燃ゆる～伊吹山～」，伊吹山に生息する陸生貝類に関する現地解説，（7月12日取材対応）。
- 2017年9月3日，テレビ東京，緊急SOS！超巨大怪物が出た！出た！池の水ぜんぶ抜く大作戦4，千葉県千葉市の公園で大型ドブガイが確認されたことの意味について解説。
- 2017年10月，小学館，BE-PALL 2017年11月号・どこが危ない？なにがモンダイ？外来種，琵琶湖湖岸における外来種解説およびQ&A記事協力，コメントおよび記事，（9月11日取材対応）。

- 2017年11月17日,産経新聞千葉版,手賀沼を外来植物から守ろう／水陸両生のオオバナミズキンバイ拡大／千葉,オオバナミズキンバイへの対策に関する解説,コメント.
- 2017年11月18日,東京新聞千葉版,特定外来生物を駆逐せよ／手賀沼で繁殖確認／オオバナミズキンバイ,オオバナミズキンバイへの早期対応の必要性に関する解説,コメント.
- 2017年12月4日,京都新聞滋賀版,外来植物 大量に駆除／高島の琵琶湖岸,研究者ら,外来植物の駆除に関する注意事項に関する解説,コメント.
- 2017年12月4日,毎日新聞滋賀版,外来水生植物 繁殖防げ／拡大懸念,ボランティアら駆除／高島,外来水生植物の問題点に関する解説,コメント.
- 2018年3月11日,テレビ東京,緊急 SOS! 池の水ぜんぶ抜く大作戦 7～巨大怪物も絶滅危惧種も出た! 出た!～,岐阜県笠松トンボ公園で確認されたドブガイ類の同定.
- 2018年3月16日,中日新聞滋賀版,琵琶湖の外来種オオバナミズキンバイ／重機で根ごと駆除,機械駆除の実演の意義に関する解説,コメント.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

「中海干拓・淡水化事業に伴う魚類生態調査（1959～1962年：宍道湖・中海・美保海）」で得られた魚類等の標本（整理前155ロット）の整理,（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授・山室真澄氏：国土交通省出雲河川事務所委託研究「人と相互作用によって持続する汽水湖生態系の構築に関する研究」との共同）.

他の博物館・機関の活動

スウェーデン国立自然史博物館,探検船 Vega 号が採取した日本産貝類標本の種同定および写真撮影.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

研究スタジアム分担コーナー,映像撮影（岡山県苫田ダム）.

【企画調整活動】

新任職員等研修,C展示室生き物コレクション「陸生貝類」「両生・爬虫類」コーナー,解説,2017年4月20日,琵琶湖博物館.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル おとなのディスカバリー「両生・爬虫類」「陸生貝類」コーナー,製作担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2014年4月～2018年3月,滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課生物多様性戦略推進室主幹,兼務.

【海外渡航】

2017年5月1日～6日,スウェーデン王立自然史博物館（スウェーデン王国ストックホルム市）,探検船 Vega 号が採取した日本産貝類標本の観覧.

【館外の活動】

2016年11月（第19回）～,生態学琵琶湖賞,選考委員・運営委員.

1997年～,滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会,専門委員.

2016～2018年,京都府外来種実態調査専門委員会,陸淡水産貝類担当委員.

2003年5月～，滋賀県外来種問題検討委員会検討委員会，委員及び水生生態系部会員。
1997年～，環境省希少野生動植物種保存推進員。
2004年～，環境省特定外来生物分類群専門家グループ（無脊椎動物），委員。
2014年1月～，環境省特定外来生物分類群専門家グループ（魚類），委員。
2015年～，環境省アカミミガメ対策検討ワーキンググループ，委員。
2015年～，環境省中国四国環境事務所備前地域における外来魚等防除検討会，委員。
2014年～，農林水産省農業水利施設生息環境向上及び特定外来生物被害対策技術部会，委員。
2014年～，農林水産省東海農政局外来貝類被害防止対策検討調査連絡会，座長。
2004年8月～，国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所河川保全利用委員会，委員。
2012年1月～，国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所三春ダム外来魚研究会，座長。
1999年2月～，（公財）リバーフロント研究所「河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，貝類担当委員。
1999年10月～，（一財）水源地環境センター「河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，貝類担当委員。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、世界の中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

今年度は、ニュージーランドの固有属 *Scorpiurus* について記載論文を印刷した。本属は、いままで *S. aenescens* Parent, 1933 の 1 種のみが知られていた。そこで、本属について分布調査した結果、既知種の *S. aenescens* のほかに、未記載種 1 種を確認した。それぞれについて再記載と新種記載を行い、あわせて検索表を作成した。また、本属についてはオーストラリアのタスマニア島における分布が文献上見られるが、このことについてはその誤りを指摘し、ニュージーランドの固有属であること提唱した。このほか、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集したもののについて、標本作製や DNA の解析を行っている。

印刷物

【学術論文】

Masunaga, K. (2017) Saltmarsh flies of the genus *Scorpiurus* Parent from New Zealand (Insecta: Diptera: Dolichopodidae), *Zootaxa*, 4324: 581-591.

【一般向けの著作】

梶永一宏 (2017) びわ博 こだわり展示の裏話 14 学芸員の仕事紹介 研究スタジアム 来館者と交流、参加の場。 *毎日新聞*, 毎日新聞社, 11月28日。

梶永一宏 (2018) リレーコラム No. 23 世界の果てまで行って昆虫採集 in インド洋。 *昆虫DNA研究会ニュースレター*, 28: 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

梶永一宏 (2017年12月15日) インド洋における海浜性アシナガバエの調査報告。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究」, (2017年度).

【学会等の役職・運営, 論文の査読など】

日本昆虫学会、電子化推進委員。

Zoological Journal of the Linnean Society, 査読, 1件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，12件。

2017年5月14日，はしかフェ，第2期リニューアル（交流空間）について，琵琶湖博物館，講師。

2017年5月20日，フィールドレポーター交流会，ミノムシ調査の報告へのコメント，琵琶湖博物館，講師。

2017年8月23日，博物館での展示について，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

2018年1月2日，新春！びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2018年1月3日，新春！びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2018年1月6日，新春！びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2018年1月7日，新春！びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

2018年1月8日，新春！びわ博カルタ大会，琵琶湖博物館，担当。

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月15日，天神川の水の中の生き物調査，観察会，TANAKAMI こども環境クラブ，天神川（滋賀県大津市），講師。

2017年6月3日，ホタルの生態について，環境講座「ホタルの鑑賞会」，栗東市生涯学習課，林公民館（滋賀県栗東市），講師。

視察対応

2017年11月9日，展示室案内，県南部土木事務所。

2018年3月27日，第2期リニューアルの進捗状況の視察，知事。

2018年3月27日，第2期リニューアルの進捗状況の視察，副知事。

メディアへの協力

事業（常設展示）に関する写真提供，2件。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース，維持管理。

クエリーの質問対応，昆虫に関する質問への回答。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），500件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年度，C展示室「これからの琵琶湖」コーナー，展示更新と維持管理。

2017年度，研究最前線更新。

【企画調整活動】

新任職員研修，展示事業について，講師，2017年4月13日，琵琶湖博物館。

新任職員研修，C展示室これからの琵琶湖，講師，2017年4月20日，琵琶湖博物館。

JICA研修「博物館とコミュニティ開発コース」，展示について，講師，2017年11月14日，琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル 交流空間, 総括.

第2期リニューアル おとなのディスカバリー, 主担当.

第2期リニューアル わくわく体験スペース/受付アトリウム, 主担当.

【広報営業活動】

資料提供, 2件.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2017年4月～2018年3月, 滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 専門委員.

2014年8月～, International Congresses of Dipterology, Members of the Council.

以下の研究を行った。アメリカと日本の研究者で行った、アメリカザリガニについていた日本で見つかった外来種のカイミジンコについての研究は完成し、出版された。タイ、中国、日本の研究者と行った田んぼのカイミジンコのレビューと、田んぼのカイミジンコのチェックリストは完成し、学術誌に提出した。ベルギーとルクセンブルクの研究者と行っている非海洋性カイミジンコのグローバルチェックリストは現在執筆中。田んぼのカイミジンコの分類学的レビューは現在中国と日本の研究者と準備を行っている。日本のカイミジンコの精子についての論文を日本の研究者と現在準備中である。

印刷物

【学術論文】

- Ohtaka, A., Gelder, S. R. and Smith, R. J. (2017) Long-anticipated new records of an ectosymbiotic branchiobdellidan and an ostracod on the North American red swamp crayfish, *Procambarus clarkii* (Girard, 1852) from an urban stream in Tokyo, Japan. *Plankton and Benthos Research*, 12: 123-128.
- Smith, R. J., Kamiya, T., Choi, Y-G., Lee, J. and Chang, C. Y. (2017) A new species of *Cavernocypris* Hartmann, 1964 (Crustacea: Ostracoda) from caves in South Korea. *Zootaxa*, 4268: 360-376.
- Zhai, D., Smith, R. J., Peng, P., Yu, N., Ma, S. and Li, X. (2017) Cluster analyses of Ostracoda based on dimensions of body structures: implications for taxonomic classification. *Crustaceana*, 90: 471-502.

【一般向けの著作】

- ロビン J・スミス (2017) 湖岸より 295 小さな淡水生物の素敵な旅. *中日新聞*, 中日新聞社, 7月15日.
- ロビン J・スミス 編 (2017) 滋賀県立琵琶湖博物館第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅 *Dispersal: The fantastic journeys of aquatic micro-fauna*]. 琵琶湖博物館: 72p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Smith, R. J., Matzke-Karasz, R. and Kamiya, T. (2017年8月29日) Sexual reproduction and sperm variation in cypridoidean non-marine ostracods. 18th International Symposium on Ostracoda, University of California, Santa Barbara, USA, [口頭発表].
- Kamiya, T., Nishida, S. and Smith, R. J. (2017年8月29日) Sperm metamorphosis and fertilization in cytheroidean ostracods; an example of *Xestoleberis hanaii*. 18th International Symposium on Ostracoda, University of California, Santa Barbara, USA, [口頭発表].
- スミス, ロビン ジェームス (2018年1月19日) 田んぼのカイミジンコについて: レビューと世界の種のチェックリスト. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「カイミジンコの剛毛と爪の長さの変動についての分析」, (2017年度).
- 科学研究費助成事業 (基盤 B) 「新たな生物進化モデルの展開: 日本海多様化工場説とその世界的インパクト」 (研究代表者: 神谷隆弘), 共同研究者 (2014年度~2017年度)

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zootaxa, 編集者.

Palaeontology, 査読, 1件.

Zootaxa, 査読, 1件.

Journal of Paleontology, 査読, 1件.

Invertebrate Reproduction and Development, 査読, 1件.

琵琶湖博物館学芸員の書いた論文等の英文, 添削.

カイミジンコの国際リサーチグループのコミュニケーションオフィスに選ばれた, 2017年8月28日～.

アジアカイミジンコ会議, ホームページのデザインと作成, 2018年8月開催.

アジアカイミジンコ会議, 運営, 2018年8月開催.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

2017年7月16日, 展示室にて来館者の対応.

他の博物館・機関等主催行事

2017年9月12日, Environments of Lake Biwa, JICA 統合的流域管理研修, ILEC, 琵琶湖博物館, 講義.

視察対応

2017年6月30日, 講義, 高校生.

2017年9月9日, 展示案内, ミシガン州知事.

2018年1月26日, 展示案内, 研究者.

2018年1月27日, 展示案内, 研究者.

2018年1月30日, 展示案内, ミシガン州立大学連合日本センター学生.

2018年3月27日, 展示案内, 研究者.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英語版ホームページの更新, 多数.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年度, 第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」, 主担当.

マイクロアクアリウム の展示コーナー, 清掃・管理.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【研究部関連事業】

マケドニアオフリド水生生物研究所, 施設見学・共同研究打合せ来館, 対応, 2018年1月25日～30日, 琵琶湖博物館.

滋賀県の農業用水の内、琵琶湖水を利用する灌漑が約4割を占め、今や必要不可欠な施設となっているが、大正以前にはごくわずかであった湖水利用の灌漑がなぜ、現在のような大きなシステムとなったのか、その歴史的な必然性を明らかにするとともに、電気料金の値上がり傾向にある現状にあって、営農面やエネルギー利用の面から、逆水灌漑システムの持続可能性について調査し検討した。

まず、水資源賦存量と森林率その他の統計データから、全国と滋賀県との比較検討を行い、滋賀県が全国的にみて最も農業用水の不足する地域の一つであることを示した。

次に、文献調査や統計資料を基に、水田の流域面積比、河川形状、地形分類、水田開発の歴史等から滋賀県が農業用水に不足する地域となった要因についての分析を行った。この結果、水資源の乏しい地理的条件にあることを示すと共に、水田開発のし易い自然条件と、都に近く食料庫としての役割から早くから開発が進んだことで、近世以前には隔々まで水資源開発が行われたことを示した。

さらに、資料収集や聞き取り調査により、明治期までの初期の湖水利用、琵琶湖総合開発前と後における逆水灌漑の導入の変遷、導入動機等を整理し、琵琶湖逆水灌漑の発展過程について明らかにした。この結果、琵琶湖逆水の導入は、明治期の南郷洗堰設置以降の段階的な琵琶湖水位の低下と深く関係し、特に大正11、13年、昭和14年の大渇水を直接的な契機としていること、また、琵琶湖総合開発事業の前と後では、社会的、政治的な背景が異なり、その導入動機に大きな差異があることを示した。

また、整備された逆水灌漑システムの持続可能性について、資料収集や聞き取り調査を実施し、現在も調査検討を継続している。主に、再生可能エネルギーの導入、畑作への転換、更なる節水の取り組み等について、その可能性を検討し、行政施策へ反映できる研究となるよう進めている。

事業活動では交流担当として、生活実験工房を中心に田んぼ体験教室を10回企画し、延べ218名の参加者に水稲作と暮らしに関する体験、田んぼの生きものに触れる機会を提供し、参加者との交流を深めることができた。地域連携では、館内外において、5件の講演・講師等を行った。また、一般向けの情報誌「びわはく」を編集し発行した。新琵琶湖博物館創造室では、主にリニューアル展示工事の積算業務を担当した。

印刷物

【一般向けの著作】

下松孝秀 (2017) 湖岸より 304 博物館田んぼ行事と近江米. *中日新聞*, 中日新聞社, 10月28日.

下松孝秀・野田公夫・畑中隆行・中尾重則・横田健一・小松宏隆 編 (2018) *滋賀の農業水利変遷史*. 滋賀県農政水産部耕地課: 94p.

下松孝秀 (2018) 本当にあった面白い質問: 質問コーナーにて. *びわはく*, 創刊号, 琵琶湖博物館: 12.

下松孝秀・田畑諒一・ロビン・ジェームス・スミス・鈴木隆仁・山川千代美・前田雅子・金尾滋史・中川 優・亀田佳代子・鈴木真裕・吉岡美佐子 編 (2018) *びわはく*. 創刊号, 琵琶湖博物館: 12p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

下松孝秀 (2018年2月2日) 滋賀県を含む農業用水不足県の対応について. 平成29年度滋賀県農業農村整備事業研究発表会, 滋賀県農政水産部耕地課, 水土里ネット滋賀 (滋賀県東近江市), [口頭発表].

下松孝秀 (2018年2月14日) 琵琶湖水の農業用水利用の成り立ちについて. 農畜水産ゼミ, 滋賀県農政水産部,

滋賀県庁（大津市），[口頭発表]。

下松孝秀（2018年3月16日）琵琶湖逆水灌漑の成立過程と持続的可能性について。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

【研究プロジェクトへの参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖逆水かんがいの歴史的変遷と持続可能性に関する調査」，（2017年度）。

琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖南湖において沈水植物の量を適正化するための条件探索」（研究代表者：芳賀裕樹），共同研究者（2017年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件。

2017年4月～2018年3月，体験教室 田んぼ体験，琵琶湖博物館，担当，10件，（中川 優と共同）。

2017年7月8日・9日，びわ博フェス2017，琵琶湖博物館，担当。

はしかけ・フィールドレポーター制度名簿管理，琵琶湖博物館，担当。

他の博物館・機関等主催行事

2017年5月25日，内湖干拓の歴史，レイカ大学OB会「みどりの会」，琵琶湖博物館，講師。

2017年7月30日，田んぼの生き物観察会，米原市世継「七夕の里」よつぎ，滋賀県米原市，講師。

2017年8月5日，滋賀の農業環境と琵琶湖のかかわり，三上環境保全会，琵琶湖博物館，講師。

2017年9月29日・10月6日，滋賀県の農業・農政について，龍谷大学農学部学生，琵琶湖博物館，講師。

2017年11月16日，琵琶湖水の農業利用について，高豊土地改良区，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2017年4月26日，滋賀県の農業について，世界農業遺産基金代表等。

2017年6月7日，滋賀県の水田の生物多様性について，埼玉県議会議員。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

生活実験工房，田畑の維持管理。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル レストラン/ショップに関すること，副担当。

第2期リニューアル 展示委託業務積算作成，担当。

【研究部関連事業】

韓国国立洛東江生物資源館との合同セミナー，エクスカージョン，案内，2017年7月19日～22日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度，びわはく，編集委員。

2017 年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，副主幹を兼務.

【館外の活動】

2017 年度，滋賀県農政水産部耕地課 滋賀の農業水利変遷史，編集員.

2017 年度，大津南部農業農振振興事務所 大津・南部地域みずすまし推進協議会，委員.

専門研究は、琵琶湖のアユの初期成長とその間の琵琶湖環境の関係をテーマとして行っている。アプローチとしては、耳石を用いた成長解析から日間成長量や成長パターンを算出し、それらをプランクトン量や水理状況、気象状況などと対比させることから両者の関係を見出す手法をとっている。

耳石情報から魚類の成長解析を行う場合、耳石径と体長の関係式が必要である。しかし、アユについては耳石径と体長の関係式やその精度、耳石径の計測部位などについて十分に検討されていない。

そのため、今年度は、耳石径から体長を逆算するための最適な関係式を決定することを第一の目的としてデータの解析を行った。

事業では、展示係として新空間、アトリウムの利用管理を行った。また、ディスカバリールームの副担当として運営に参画した。

交流サービス事業として、琵琶湖の水産業についての講師を務めた。

水族展示業務として展示魚類等の手配、運搬を行った。また、水族展示に係る飼養許可や動物採集許可の手続き等を行った。

印刷物

【一般向けの著作】

片岡佳孝 (2017) 湖岸より 307 琵琶湖のあるべき姿を伝える, *中日新聞*, 中日新聞社, 12月9日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

片岡佳孝 (2017年10月20日) アマゴ放流試験から溪流魚の増殖を考える. 琵琶湖博物館セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「耳石を用いた魚類の生態解析」, (2017年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年後期, 龍谷大学社会学部, 「びわ湖・滋賀学」(滋賀の水産)(2回分), 非常勤講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 8件.

2017年7月29日, 初心者のためのふなずし作り体験, 博物館で楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年11月4日, みんなで湖魚料理を作ろう!, 博物館で楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2017年5月14日，琵琶湖ガイドフィッシングスクール2017，琵琶湖遊漁船業協会，琵琶湖大橋米プラザ（滋賀県大津市），講師。

2017年5月20日，水田放流体験学習会，滋賀県水産課，常楽寺水田（滋賀県近江八幡市），講師。

2017年7月14日，琵琶湖の在来魚を回復させるために，全国漁業信用基金協会滋賀支所，琵琶湖博物館，講師。

2017年8月17日，琵琶湖の在来魚を回復させるために，大阪私学教育研究会理科（生物）分科会，琵琶湖博物館，講師。

2017年10月17日，さかなの病気とその対策，滋賀県食品衛生協会，琵琶湖博物館，講師。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理，担当。

魚類の病気や水質維持，担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

新空間展示，主担当。

アトリウム利用，担当。

第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」，副担当。

モーニングレクチャー，講義，4回。

展示交流員と話そう，内容指導。

【企画調整活動】

オフリッド水生生物研究所研究者，フィールドトリップ，2018年1月29日，案内，滋賀県水産試験場および醒井養鱒場。

研究のテーマは、森林環境学習「やまのこ」事業における学習プログラムについての検討を行った。滋賀県森林政策課と滋賀県教育委員会が共同で行っている当事業は、県内の全小学4年生を対象とした森林環境学習事業である。事業開始から10年を経過し、現状の把握などもほとんどできていない状況を踏まえ、県内8箇所にあるやまのこ事業受入施設での現地調査及び事業内容に関する検討を行った。

当事業の特徴として、森林環境学習の統一プログラムは設定されておらず、県で示している事業目的と学習のねらいを考慮したうえで、各施設が独自にプログラムを開発し、実施することとなっている。これは、プログラムの内容は環境条件、施設条件、人的条件、受け入れ人数などの要素によって大きく左右されるため統一プログラムを設定しても実施できない施設が発生するためである。しかし、各施設がどのようなプログラムを行っているのか具体的な調査は行われておらず、今回、聞き取り調査、資料調査、現地調査を行った。

具体的には、各施設の活動日に訪問し、資料調査、および職員への聞き取り調査を行うとともに、現地調査として活動内容を分単位で記録した後、その内容を活動形態別に分類して分析を行った。分類内容としては、学習活動、体験活動、生活活動、安全学習、その他とし、各施設における内容の時間的配分の違いを比較した。

これらの結果については、林業普及センターで実施したやまのこ専任指導員研修会において口頭発表を行った。

交流事業としては、質問コーナーおよびフロアトークの運営をおこなった。また、野洲市大篠原の里山周辺で体験教室を四季を通じて4回企画運営した。また、高島市朽木での田んぼやいきものなどを対象とした観察会の運営にも関わった。

担当している、はしかけ里山の会では、里山体験教室の開催しない月に独自活動を実施しており、この活動に支援をしてきた。

印刷物

【一般向けの著作】

山本綾美 (2017) 森林環境学習「やまのこ」事業. 普及センターだより, 1, 滋賀県森林政策課: 1.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山本綾美 (2017年11月17日) 上朝宮県営林委託事業における労働生産性の検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

山本綾美 (2018年2月20日) 森林環境学習「やまのこ」事業における学習プログラムの検討. 滋賀県森林政策課, 林業普及センター(滋賀県野洲市), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 3件.

はしかけ運営「里山の会」, 担当, 7件.

はしかけ登録講座, 運営.

2017年4月16日，里山の春を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，（はしかけ里山の会共同）.
2017年6月10日，里山探検 田んぼの生き物見つけ隊，観察会，高島市朽木，運営準備，（カワセミ自然の会共催）.
2017年7月16日，里山の夏を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，（はしかけ里山の会共同）.
2017年10月15日，里山の秋を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，（はしかけ里山の会共同）.
2018年1月21日，里山の冬を楽しむ，里山体験教室，野洲市大篠原，企画運営，（はしかけ里山の会共同）.
2018年3月18日，植物の香り成分抽出水蒸気蒸留法，はしかけ「緑の薬箱」活動，琵琶湖博物館，講師.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう，内容指導.

【広報営業活動】

滋賀中央森林組合，営業協力.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル ディスカバリールーム「におってみよう、さわってみよう」，展示物制作.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度，滋賀県琵琶湖環境部森林政策課（林業普及センター），兼務.

【館外の活動】

2017年4月～2018年3月，甲賀愛林クラブ役員，女性部部长.

2017年4月～2018年3月，甲賀木の駅運営委員会，役員・事務局.

2017年4月～2018年3月，くでじゅう甲賀，役員.

研究に関しては、イバラモの繁殖生態に関する研究課題に取り組み、1990年代および最近の2,3年の研究結果を、日本植物分類学会の第17回大会で報告した。また、環境省のモニタリングサイト1000陸水域調査の琵琶湖サイト水生植物調査が今年度より始まったが、そのアドバイザーとして、2017年6月の調査地下見、9月の3日間にわたる現地調査および報告書作成に協力した。独立行政法人水資源機構によるいくつかの事業について、琵琶湖沿岸域環境調査の沈水植物調査の調査前の検討および調査後に得られたデータの検討に協力、『琵琶湖沈水植物図説(第3版)』の改訂作業にも監修者の1人として関わり、琵琶湖周辺の水生植物の移植に関しても助言を行った。環境省の第5次レッドリストの滋賀県調査には調査員として協力し、その先にある『滋賀県植物誌』(1968)の改訂について関係者と検討を行った。

博物館の事業では、資料活用係の業務として燻蒸担当となり、年度途中の文化財害虫の対応を行ったほか、燻蒸業務の委託や自前での実施を担当した。植物資料の管理関係では、主担当を離れたので、特筆すべき活動はしていない。

印刷物

【一般向けの著作】

芦谷美奈子(2017)水面をおおう緑のじゅうたん、ヒシ。私たちの自然, 613, 公益財団法人日本鳥類保護連盟:14-15.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

芦谷美奈子(2017年5月19日)イバラモなど雌雄異株(雌雄が別々の株)で非生物媒介(花粉が風や水によって運ばれる)の植物の繁殖特性. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

芦谷美奈子・角野康郎(2018年3月8日)雌雄異株の沈水植物イバラモ *Najas marina* L. の繁殖生態 I. 雌雄の分布とフェノロジー. 日本植物分類学会第17回大会, 金沢歌劇座(石川県金沢市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「イバラモの繁殖生態学的研究」,(2014年度~2017年度).

科学研究費助成事業(基盤C)「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」(研究代表者:平賀伸夫), 研究分担者(2013年度~2017年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

はしかけ運営「植物観察の会」, 担当.

はしかけ運営「タンポポ調査はしかけ」, 担当.

2017年5月13日, タンポポ調査に出かけよう!, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年6月17日, 里山探検 田んぼの生き物見つけ隊, 観察会, 高島市朽木・滋賀県, 担当者(カワセミ自然の

会共催).

2017年7月8日, 水草を観察しよう!, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2017年5月27日, 琵琶湖の水草 種類・特徴・環境, 亀岡市地球環境子ども村, 亀岡生き物大学特別講座「親子で行こう!琵琶湖博物館」, 琵琶湖博物館, 講師.

2018年2月15日, オオバナミズキンバイの現状, オオバナミズキンバイ除去ボランティア事前学習, ライオンズクラブ国際協会, 琵琶湖博物館, 講師.

メディアへの協力

2017年5月14日, 滋賀報知新聞, イチョウウキゴケの研究について, (2017年5月10日取材対応).

2017年5月19日, 京都新聞滋賀版, イチョウウキゴケの研究について, (2017年4月26日取材対応).

2017年5月31日, 読売新聞(播磨姫路版), 外堀川再生 よどむ対策 兵庫県姫路市の外堀川の水草について, (2017年5月26日取材対応).

2017年6月27日, TBS テレビ, 夕方ニュース, 赤野井湾のハスの今後について, (2017年6月27日取材対応).

2017年7月1日, 読売ライブ, 読売ライブ7月号「水生植物を身近に」, 水草の面白さについて, (2017年4月25日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

二酸化炭素燻蒸(燻蒸庫), 担当, 3件.

エキヒューム燻蒸(テント式), 担当.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000年4月~, 木浜地区保全整備地域協議会, 委員.

2015年6月~, 琵琶湖湖南地域ヨシ群落自然再生協議会, アドバイザー.

2016年1月~, (独)水資源機構・琵琶湖総管沿岸域調査, アドバイザー.

2016年11月~, 環境省モニタリングサイト1000陸水域調査 琵琶湖サイト水生植物調査, アドバイザー.

琵琶湖とその集水域に生息するプランクトンやベントス、付着生物をはじめとした微小生物の生態、分類、分布に関する研究を行っている。目に見えないほど小さなこれらの生物は琵琶湖の生態系の根幹を成す生物相を形成しており、琵琶湖の生物多様性を語るうえで欠かせない存在である。

今年度は、申請専門研究として「交雑マミズクラゲにおけるクラゲ体の効率の良い発生法を探る」を行った。マミズクラゲのクラゲ体を安定して発生させる明確な方法はいまだ見つかっていない。また、現在飼育している交雑個体の性別はクラゲをみるまで不明である。そこで、この交雑個体からクラゲを得て、性決定をすることを目指す。

マミズクラゲは初夏に各地の水域に現れることのある淡水産のヒドロ虫クラゲである。日本の淡水クラゲとしては他に、絶滅したとされるイセマミズクラゲ、記載以来クラゲの確認がなされていないユメノクラゲがいるが、これらのクラゲが発見されたという報告はなく、現状発見、報告されている日本の淡水クラゲはマミズクラゲであり、本博物館で飼育している個体もすべてマミズクラゲとなっている。

マミズクラゲのクラゲ体は一般に温度ショックと十分な栄養を与えることにより、発生すると言われており、共同研究者の奈良県立医大の小林氏の実験でも証明されている。しかし、本博物館で飼育されている個体では、恒温器での飼育であるため、温度ショックがかからないにもかかわらず、冬季に多数のクラゲを発生させることが確認された。また、この際に発生した稚クラゲの餌に市販の栄養強化剤を添加することで、稚クラゲをカサの直径 1cm ほどまで育てることに成功した。今回は交雑個体でのクラゲ発生、および成長した個体での生殖腺の確認には至らなかったが、発生した稚クラゲをある程度安定して成長させることに成功した。また、この成長した個体を展示することにも成功した。

事業では、第 25 回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」の副担当として展示の運営に関わった。主に展示の作成、維持、更新、翻訳、受付の管理を行った。また、企画展示関連イベントとして、「微小生物のスーパーパワー ～マイナス 80 度からよみがえった微小生物を観察しよう～」を 2 回行い、微小生物の耐久性と、それを利用した分散について広く発信した。マイクロアクアリウムでは、夏のマミズクラゲ展示に加え、飼育個体を使い本来自然に発生しない 3 月にもマミズクラゲの展示を行った。

印刷物

【学術論文】

Suzuki, T. G. (2017) Development and culturing and exhibition methods for *Craspedacusta sowerbyi*. *Bulletin of Plankton Society of Japan*, 64(2): 138-141.

【一般向けの著作】

鈴木隆仁 (2017) 湖岸より 301 小さな生き物を大きく見せる. *中日新聞*, 中日新聞, 9月23日.

鈴木隆仁 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 15 小さな生き物を飼育する特別な水槽 わがまま仕様 工夫凝らす. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 12月12日.

鈴木隆仁 (2018) 湖岸より 311 知ってる? イタチムシ. *中日新聞*, 中日新聞社, 2月10日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木隆仁 (2017年11月2日) 琵琶湖周辺のイタチムシたち. 日本動物学会近畿支部会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

鈴木隆仁 (2017年11月17日) マイクロアクアリウムにおける新たな生物飼育法. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵

琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

鈴木隆仁・松田征也・楠岡 泰 (2017年12月11日) 琵琶湖博物館における小さな生き物たちの常設展示. 平成29年度東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会, 東京大学大気海洋研究所(千葉県柏市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「交雑マミズクラゲにおけるクラゲ体の効率の良い発生法を探る」, (2017年度).

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物をもちいた交流プログラムの開発」(研究代表者: 松田征也), 副代表者 (2016年度~2018年度).

科学研究費助成事業(基盤C)「淡水棲マミズクラゲの性決定の謎を追う」(研究代表者: 小林千余子), 研究分担者 (2016年度~2019年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

はしかけ運営「田んぼの生きもの調査グループ」, 担当.

2017年6月17日, 里山探検 田んぼの生き物見つけ隊, 観察会, 朽木生杉・滋賀県高島市, 講師, (カワセミ自然の会共催).

2017年8月1日, プランクトン班, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年8月13日, 微小生物のスーパーパワー ~マイナス80度からよみがえった微小生物を観察しよう~, 企画展示関連夏休みイベント, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年8月19日, 微小生物のスーパーパワー ~マイナス80度からよみがえった微小生物を観察しよう~, 企画展示関連夏休みイベント, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年9月24日, 顕微鏡で観察しよう プランクトンでビンゴ, 博物館で楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師.

2018年2月25日, イタチムシの世界をのぞいてみよう, 新琵琶湖学セミナー, 琵琶湖博物館, 講演.

他の博物館・機関等主催行事

2017年5月18日, プランクトン実習, シニア大学, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年6月1日, プランクトン実習, 滋賀県総合教育センター, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年6月24日, プランクトン実習, 田上こどもクラブ, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年7月19日, プランクトン実習, 彦根東高校SSH, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年11月12日, プランクトン実習, 大阪府立豊中高校SSH, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年11月19日, プランクトン採集と顕微鏡観察, 自然大学, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2017年11月25日, プランクトンの観察, ダイニクアストロパーク多賀, 琵琶湖博物館, 実習担当.

2018年2月14日, プランクトン実習, 滋賀県立河瀬中学校, 琵琶湖博物館, 実習担当.

メディアへの協力

2017年10月27日, 読売新聞, 滋賀県版, 企画展示に関して, (2017年10月15日取材対応).

2018年11月1日, 滋賀プラスワン こどもプラスワン, うおーたんの琵琶湖新時代! 琵琶湖の生態系を支えているプランクトンについて学ぼう!, 取材協力, (2017年9月10日取材対応).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

学芸員個人ページ, 更新.

新空間ページ, 更新.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

標本の貸し出し期間更新, 2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年度, 第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」, 副担当.

2017年度, 新空間展示, 副担当.

2017年, 水族展示マイクロアクアリウム, 展示更新.

モーニングレクチャー, 講義, 4回.

【広報営業活動】

資料提供「イタチ? 虫? 最小クラスの多細胞動物イタチムシの生体展示をはじめました」, 2017年8月13日, 1件.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル ミュージアムショップ, 新商品監修.

【研究部関連事業】

淡水生物の研究・教育・展示に関する共同業務協約の締結, 2017年4月21日, 洛東江生物資源館 (韓国慶尚北道尚州市).

日韓合同セミナー, 参加, 2017年4月21日, 洛東江生物資源館 (韓国慶尚北道尚州市).

洛東江生物資源館の施設の視察, 2017年4月21日, 洛東江生物資源館 (韓国慶尚北道尚州市).

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2017年4月20日~22日, 洛東江生物資源館, 日韓合同セミナー参加.

【館外の活動】

2017年4月~2018年3月, 大阪大学大学院理学研究科, 招聘研究員.

本年度は、2年前に終了した科学研究費助成事業のうち博物館の「副次的機能」を理論化しようとする分について、その成果を論文として集成し公表する作業を進めた。査読を受け修正する作業に当初の目論見よりも時間を要することになったが、11月に印刷公表が実現した。

一方、琵琶湖博物館のような自然史系博物館の性格が強い博物館における科学館的内容の取り扱いに関する問題については、残念ながら研究プロジェクトが採択に至っていない。この課題を進めるには、琵琶湖の物理現象、陸水海洋物理学一般についてのアウトリーチ、科学教育学のうち抽象的概念の伝え方に関わる部分、科学博物館の活動展開の方法論など、多様な分野に興味を持つ研究者と議論を深めることが欠かせないため、その手がかりとなる研究発表を引き続いて進めた。また、今年度からこの課題に密接な関係を有する研究分野を専門とする特別研究員の受入を担当することになったため、この特別研究員ともこの課題に関する議論を深めた。

研究以外の事業の面では、昨年度に担当していた資料整備事業の残務として、動画資料に関して過去のデジタル化の成果の一部が劣化して利用不能となっている状況の現状把握と可能な範囲での復元作業を進め、後任者に成果を引き継げる状況に到達することができた。今年度から担当することとなった交流事業に関しては、イベント運営やはしかけ制度の運営に関する全体の交通整理の役割を担った。それに際して、個人情報管理・博物館情報システム・印刷物管理の各々に関する状況変化に応じて電子情報システムの使い方を大きく変える必要が生じたため、その対応に多くのエフォートを費やした。

印刷物

【学術論文】

戸田 孝 (2017) 博物館の「副次的機能論」への序論. *博物館学雑誌*, 43 (1), 全日本博物館学会 : 1-17.

【一般向けの著作】

戸田 孝 (2017) 湖岸より 295 きょうあす全日本博物館学会. *中日新聞*, 中日新聞社, 7月1日.

戸田 孝 (2018) びわ博こだわり展示の裏話 19 見たまま理解してほしい蜃気楼 元の形と対比 映像活用. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 3月13日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

戸田 孝 (2017年7月1日) 博物館の「副次的機能論」へのアイディア. 全日本博物館学会第43回研究大会, 全日本博物館学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝 (2017年7月21日) 博物館の「副次的機能論」へのアイディア. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝 (2017年8月30日) 「住民が集う空間」での抽象的科学概念の展開. 日本科学教育学会第41回年会, 日本科学教育学会, サンポート高松 (香川県高松市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「地球物理学を手がかりとする博物館学の展開」, (2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

陸水物理研究会，運営委員，期間の定めなし。
日本陸水学会，広報幹事，2017年1月～2018年12月。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2018年1月5日，滋賀県立大学，「資料保存環境を支える設備」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，8件。

2017年度，はしかけ制度運営の総括，主担当。

2017年度，イベント事前申込への対応，主担当。

2017年度，イベント情報チラシの編集制作，主担当（5月まで）副担当（6月から）。

2017年度，質問コーナーの運営，副担当。

2017年11月4日，琵琶湖学習「環境・水質」，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館，班活動の指導。

他の博物館・機関等主催行事

2017年10月24日，Geostrophic gyre - a largest scale background of Lake Biwa environment，草津市国際交流協会，ポンテアック市中学生大使に対する講演，琵琶湖博物館，講義。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

個人管理ページ，運営（10月まで）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

デジタルデータに疑義がある既登録動画資料の検証および再整理，413件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年度，蜃気楼に関する展示の維持管理，主担当。

2017年度，研究スタジアムの維持管理，副担当（7月から）。

モーニングレクチャー，講義，4回。

【研究部関連事業】

研究発信の総括，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度，滋賀県博物館協議会，記念事業委員会，委員。

【館外の活動】

2017 年度，国立民族学博物館，国際研修博物館コース運営委員会，専門委員.

交流係長としての業務、地域連携事業の差配、大量の研究事務などをこなしながら、残る時間を主として研究と交流事業に注いだ。

年度当初には、説明変数の二乗項を含む GLMM (一般化線形混合モデル) を用いた最適点の推定法を試行していた。現時点ではまだ、共同研究者等から預かったデータを分析してみただけであるが、同様に試行した GAM (一般化加法モデル) と同様、今後の様々なデータ解析への応用が期待できる。

烏丸半島前の琵琶湖から、はしかけ・たんさいぼうの会の中井大介氏が 2002 年に発見した新種の珪藻を、*Gomphosphenia biwaensis* Ohtsuka et D. Nakai として新種記載した。発見当時、本種はどのサンプルにもわずかしが含まれておらず、十分な分類学的検討ができなかった。ところが 2012 年以降に琵琶湖湖南湖で繁茂するようになった北米原産の底生ラン藻 *Microseira wollei* の上でしばしば優占するようになったので、今回の新種記載が可能になった。類似種との区別のために、はしかけ・たんさいぼうの会会長 (当時) の有田重彦氏らが提唱した円弧構成モデルに基づく形態計測を行い、珪藻のサイズ変化の影響を除く新しい統計手法を用いて計量形態学的分析を行った。

「改訂版 田んぼの生き物全種リスト」をデータベースに移植し、2020 年までに増補更新をして公表する「田んぼの生き物全種リスト補完計画」に着手した。2018 年 2 月にデータベースの移植を完了し、現在、データの増補と公開準備を進めている。

今年も、琵琶湖地域で田んぼの生きものを研究している人たちを集めて、金尾滋史・鈴木隆仁らとともに「第 8 回 琵琶湖地域の水田生物研究会」を開催した。ポスター発表も含めて 36 題の発表、207 名の参加があり、ともに過去最高の盛会となった。

交流事業では計 11 件の地域連携に関わる講義・ワークショップを実施し、研修や視察対応としての講義も数多く行った。また、講義の準備のために、琵琶湖の環境や博物館の理念について様々な側面から学習を進めることができた。

はしかけ会員を中心に、多くの人たちの研究相談に応じ、一部はともに研究を進めている。滋賀県立大学 (現名古屋大学・院) の服部圭治氏は、*Praestephanos* 化石種に関する私たちとの共同研究で、日本珪藻学会の最優秀発表賞を受賞した。法政大学の島野智之氏らと共に研究を進めてきた、鈣質土壌湿原のオオミズゴケ上に生育する有殻アメーバの論文が出版された。海上災害防止センターの千葉崇氏らとともに進めてきた湿原堆積物中の化石珪藻群集の論文も受理された。他にもはしかけ会員を中心に、多くの人たちとの共著論文の執筆が進んでいる。

印刷物

【学術論文】

- Shimano, S. D., Bobrov, A., Wanner, M., Lamentowicz, M., Mazei, Y. and Ohtsuka, T. (2017) Testate amoeba diversity of a poor fen on mineral soil in the hilly area of Central Honshu, Japan *Acta Protozoologica*, 56, Instytut Biologii Doświadczalnej im. M. Nenckiego; *Polskie Towarzystwo Biologii Komórki*: 211-216.
- Ohtsuka, T., Kitano, D. and Nakai, D. (2018) *Gomphosphenia biwaensis*, a new diatom from Lake Biwa, Japan: description and morphometric comparison with similar species using an arc constitutive model. *Diatom Research*, Published Online, Taylor & Francis: <https://doi.org/10.1080/0269249X.2018.1433237>.

【専門分野の著作】

- 大塚泰介 (2017) これから珪藻群集の環境指標性を研究する人のために, *環境技術*, 46, 環境技術学会: 186-191.
- 大塚泰介 (2017) R による珪藻群集の分析. *環境技術学会ウェブページ* <http://www.jriet.net/magazine/2017/diatomanalysis.html>

- 富 小由紀・大塚泰介・林 竜馬・里口保文・堂満華子 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手の古代ゾウ発掘調査地点における珪藻化石群集 (予報). 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書「180-190 万年前の古環境を探る」, 多賀町教育委員会: 45-50.
- 大塚泰介 (2018) 書評「琵琶湖岸からのメッセージ 保全・再生からの視点」. 地域自然史と保全, 39, 関西自然保護機構: 147-148.

【一般向けの著作】

- 大塚泰介 (2017) 湖岸より 297 交流が生む連係プレー. 中日新聞, 中日新聞社, 7月29日.
- 大塚泰介 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 9 長〜いハッタミミズ どうすれば全身見せられる?. 毎日新聞, 毎日新聞社, 8月22日.
- 大塚泰介 (2018) 私たちの水を考える. 水の守り人マップ 水源の森から海まで 150 km の水の旅, 海と日本プロジェクト in 滋賀県実行委員会: 19.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 大塚泰介・富 小由紀・中新井 隆 (2017年4月21日) 分布の最適点を求める一般化線形モデルの知られざる活用法ー. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 大塚泰介・北野大輔・中井大介 (2017年5月27日) 琵琶湖から見つかった *Gomphosphenia* 属の新種. 日本珪藻学会第38回大会, 日本珪藻学会, 大森海苔のふるさと館 (東京都大田区), [ポスター発表].
- 服部圭治・大塚泰介・堂満華子・里口保文 (2017年5月28日) 東海層群亀山層から産出した *Praestephanos suzuki* 類似種化石の形態観察. 日本珪藻学会第38回大会, 日本珪藻学会, 大森海苔のふるさと館 (東京都大田区), [口頭発表].
- 大塚泰介・北野大輔 (2017年10月15日) 形態からサイズの影響を除くための主成分分析ー *Gomphosphenia* を例として. 日本珪藻学会第37回研究集会, 日本珪藻学会, 福井県三方青年の家 (若狭町), [口頭発表].
- 大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁 (2017年12月17日) 第8回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [企画運営].
- 大塚泰介・北野大輔 (2017年12月17日) 「田んぼの生きもの全種リスト」補完計画の進行状況について. 第8回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 富 小由紀・大塚泰介 (2017年12月17日) 滋賀県の水田の珪藻目録. 第8回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].
- 大塚泰介 (2018年2月28日) 琵琶湖におけるラン藻ブルームの変遷. 中日アオコワークショップ, 河海大学, 河海大学 (中華人民共和国江蘇省南京市), [口頭発表].
- 廣石伸互・大塚泰介・朱 偉・中村紳一郎・寺門一郎・北嶋 郁 (2018年2月28日) 抗体によるアオコ形成種 *Microcystis* の単独細胞の検出. 中日アオコワークショップ, 河海大学, 河海大学 (中華人民共和国江蘇省南京市), [口頭発表].
- 大塚泰介・北野大輔 (2018年3月4日) 「田んぼの生きもの全種リスト」補完計画 始動編. 地域自然史と保全研究発表会 2018, 関西自然保護機構, 大阪市立自然史博物館 (大阪市東住吉区), [ポスター発表].
- 富 小由紀・堂満華子・大塚泰介 (2018年3月4日) 古琵琶湖層群蒲生層から産出した珪藻化石の分類学的検討. 地域自然史と保全研究発表会 2018, 関西自然保護機構, 大阪市立自然史博物館 (大阪市東住吉区), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「滋賀県におけるハッタミミズの分布パターンの解明」, (2017年度).

琵琶湖博物館共同研究『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築」(研究代表者：大塚泰介)，研究代表者(2017年度～2020年度)。

総合地球環境学研究所機関連携プロジェクトフルリサーチ「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会－生態システムの健全性」(研究代表者：奥田 昇)，研究協力者(2015年度～)。

科学研究費助成事業(基盤B)「鉍質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」(研究代表者：大塚泰介)，研究代表者(2015年度～2018年度)。

科学研究費助成事業(基盤C)「*Microcystis*の群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」(研究代表者：朱 偉)，研究分担者(2015年度～2018年度)。

科学研究費助成事業(基盤C)「付着藻類群集構造の色素分析による定量化とその変動要因の解明」(研究代表者：吉山浩平)，研究分担者(2017年度～2019年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会，Diatom，編集委員，2003年1月～。

日本珪藻学会，運営委員，2017年1月～。

関西自然保護機構，運営委員，2014年1月～。

日本珪藻学会，Diatom，担当編集委員，1件。

日本珪藻学会，Diatom，査読，2件。

日本水産学会，日本水産学会誌，査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年9月20日・21日，京都府立大学，「環境微生物学」。

2017年4月～2018年3月，芝崎美世子(大阪市立大学理学研究科博士課程)，研究指導・助言。

2017年4月～2018年3月，山本真里子(名古屋大学環境学研究科博士課程)，研究指導・助言。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

交流事業，総括。

地域連携事業調整，担当。

レストラン・ショップ会議，主担当。

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，11件。

はしかけ運営「たんさいぼうの会」，運営。

はしかけ運営「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」，運営。

2017年7月8日・9日，びわ博フェス，総括(松田征也と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月6日，外来種問題等の琵琶湖における諸問題，日本弁護士連合会，講義，琵琶湖博物館，講師。

2017年6月5日，田んぼの生きものについて，「魚のゆりかご水田」の生き物解説，観察会，栗見出在家町の水田(滋賀県東近江市)，講師。

2017年6月18日，魚のゆりかご水田観察会，栗見出在家魚のゆりかご水田協議会，観察会，栗見出在家町の水田(滋賀県東近江市)，講師。

2017年6月27日，琵琶湖畔水田における生物の多様性，明治大学農学部，講義，琵琶湖博物館，講師。

2017年7月1日，魚のゆりかご水田とは？，びわこ成蹊スポーツ大学，講義，琵琶湖博物館，講師。

2017年7月19日，プランクトン実習，県立彦根東高等学校 SSH 1年生，実習，琵琶湖博物館，講師(鈴木隆仁・奥野知之と共同)。

2017年8月10日、プランクトン観察・珪藻殻の観察，滋賀県高文連科学部会，実習，琵琶湖博物館，講師（荒川忠彦氏と共同）。

2017年10月5日，琵琶湖の近年の水質とプランクトンの変化，たかつき市民環境大学，講義，琵琶湖博物館，講師。

2017年10月6日，琵琶湖博物館の水田生物研究～魚のゆりがご水田を中心に，京都大学農学部，講義，琵琶湖博物館，講師。

2017年10月21日，「水の守り人マップ」への助言，海と日本プロジェクト in 滋賀県実行委員会，ワークショップ，琵琶湖博物館，助言指導（金尾滋史と共同）。

2017年11月19日，琵琶湖のプランクトン採集と検鏡観察，特定非営利活動法人 自然と緑，実習，琵琶湖博物館，担当（鈴木隆仁と共同）。

2018年2月10日，持続可能なびわ湖環境に向けての課題，京都外国語大学校友会滋賀支部，講義，琵琶湖博物館，講師。

2018年3月7日，琵琶湖のコアユ不漁の原因を考える，滋賀県レイカディア大学草津校，講義，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2017年6月7日，C展示室「田んぼへ」の解説，埼玉県議会。

2018年2月12日，C展示室「田んぼへ」の解説，カリフォルニア大学バークレー校一行。

2018年2月23日，琵琶湖の水質対策およびC展示の解説，奈良県川上村。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集・整理，監督・指示。
ナゴヤダルマガエルの採集，飼育。
ハッタミミズの採集，飼育。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

C展示室「田んぼへ」，主担当。
マイクロアクアリウム，副担当。
モーニングレクチャー，講義，4回。

【研究部関連事業】

琵琶湖博物館特別研究員（朱 偉、柏尾珠紀、廣石伸互），受け入れ担当。
琵琶湖地域の水田生物研究会，主催（金尾滋史・鈴木隆仁と共同）。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2001年4月～，島根大学汽水域研究センター，協力研究員。

本年度は、「学習内容に合わせた博物館の活用」というテーマで、研究をスタートさせた。学習と結びつけた来館に向けて取り組みを考える中、学校側と博物館側の思いの違いに差があることがわかった。そこで、いくつかの学校に声をかけ、いろいろな形での来館方法や取り組みについて考えることとした。

これまでの来館集計の分析から第一期のリニューアル後、新しくなった展示を見ようと多くの学校団体が訪れた。しかし、学校の学習と結びつけていない来館もあり、今後來館をする目的がなくなれば継続した来館にはならない可能性もある。特に、県内での小学校高学年での利用は少ない。そこで、フローティングスクールとの連携をうまく生かし、5年生をターゲットにしたいくつかの実践を積むことはできないか？来館への機会・目的づくりにはならないか？を視点に事例研究に取り組んだ。

体験プログラムに関しては、過去の利用実績を考えた上で、内容の精選を行った。特に、学校団体のみに提供する形を取り、学習に行かしていただくことをねらいとした。また、時期的な問題からどうしても昔くらし体験が行えないというニーズに応えるため、「昔くらし」の学習と展示室をつなぐ講義についても新たに開発・実践した。

教員向け研修では、先生方に博物館の有効な利用方法を自ら考えていただく内容や実際に体験プログラムを受講し、さらに博物館を知っていただく取り組みを行った。県内でも若い先生が多くなる状況がある。そこで、正しく知り、学習に活用したいと思える博物館のあり方を考えて提案していけるよう努めていきたい。

印刷物

【一般向けの著作】

奥野知之（2018）湖岸より 314 屋外展示を使った博物館の活用. *中日新聞*, 中日新聞社, 3月24日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

奥野知之（2018年3月16日）学習内容に合わせた博物館の活用. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「学習内容に合わせた博物館の活用」, (2017年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年11月～2018年3月, 滋賀の教師塾塾生, 団体向け体験プログラム実習・交流事業研修受け入れ, (小林偉真と共同).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」, 担当.

2017年4月～2018年3月、「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」等10講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業、琵琶湖博物館、企画運営、10件、(はしかけグループ「びわたん」「近江はたおり探検隊」「なにわホネホネ団」と共催・小林偉真と共同)。

2017年5月～2018年2月、琵琶湖学習2017、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、5件、(小林偉真と共同)。

2017年7月～2017年11月、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、企画運営・講師、4件、(滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催・小林偉真と共同)。

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月～2018年3月、学校団体向け体験学習、県内県外小中高特別支援学校大学、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、120件、(小林偉真と共同)。

2017年6月27日、琵琶湖学習、彦根市立佐和山小学校、彦根市立佐和山小学校(滋賀県)、講師。

2017年8月2日、琵琶湖のプランクトン観察(実習)、北河内地区小学校理科教育研究会、琵琶湖博物館、講師、(小林偉真と共同)。

2017年8月3日、9日、「展示見学で利用できる学習シートの作成」等、滋賀県総合教育センター、中堅教員等資質向上研修【選択研修】、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、2件、(小林偉真と共同)。

2017年8月～2017年9月、一般団体向け体験学習、各団体、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、3件、(小林偉真と共同)。

2017年8月4日、学校における博物館の有効活用、滋賀県教育委員会幼小中教育課、平成29年度しが環境教育研修会、琵琶湖博物館、講師、(小林偉真と共同)。

2017年8月8日、博物館利用と外来魚解剖(実習)、栗東市小学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2017年9月12日、日本の小学校におけるプランクトン実習、公益財団法人国際湖沼環境委員会、JICA「統合的流域管理による水資源の持続可能な利用と保全」研修、琵琶湖博物館、講師、(小林偉真と共同)。

2017年11月7日～16日、琵琶湖博物館を活用した学習の在り方(実習)、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、4件、(小林偉真と共同)。

2017年11月25日、フローティングスクールとの連携(テレビ会議)、滋賀県立琵琶湖フローティングスクール、琵琶湖博物館、講師。

2017年12月2日、環境学習拠点施設の役割について、公益財団法人国際湖沼環境委員会、平成28年度さくらサイエンスプラン交流事業、琵琶湖博物館、講師、(小林偉真と共同)。

2017年12月5日、フローティングスクールとの連携(テレビ会議)、滋賀県立琵琶湖フローティングスクール、琵琶湖博物館、講師。

2017年12月7日、フローティングスクールとの連携(テレビ会議)、滋賀県立琵琶湖フローティングスクール、琵琶湖博物館、講師。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート、担当、10件、(小林偉真と共同)。

フローティングスクール・テレビ会議打ち合わせ、担当、3件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年4月～2018年3月、学校等標本貸出事業、担当、21件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、4回。

【企画調整活動】

琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業, よし笛・シジミアクセサリーのワークショップ, 講師, 2017 年 6 月 24 日, 琵琶湖汽船今津港, (小林偉真と共同).

JICA 研修「博物館とコミュニティ開発コース」, 学校向け体験学習の実践 (実習), 講師, 2017 年 11 月 15 日, 琵琶湖博物館, (小林偉真と共同).

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第 2 期リニューアル ディスカバリールームに関すること, 副担当.

第 2 期リニューアル UNEP 改修に関すること, 副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2017 年 7 月～2018 年 2 月, 「湖の子」新体験学習作成プロジェクト会議, 委員.

専門研究のテーマである「琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究」では、昨年度に引き続き、琵琶湖固有種である2種のスジシマドジョウ類の繁殖生態、仔稚魚の成長について当館での人工繁殖との成長比較を行った。この成果については現在論文として執筆している。また、これまで詳細が明らかになっていなかった県内に生息するスナヤツメ北方種・南方種の分布について、今年度は県東部・南部の8水系において調査を行い、その概要を明らかにするとともに、2種の県内におけるおおまかな分布をつかむことができた。これらの2つの研究成果は、共同研究『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築』においても基礎資料として活用される予定である。

さらに、希少淡水魚であるハリヨやカワバタモロコ、オヤニラミの生息域外保全に関わる活動として、企業や地域と連携した系統保存の取り組みを行い、いずれも順調に繁殖が確認されるなど一定の成果を上げることができた。これらは単に繁殖生態や成長などに関する魚類学的な知見の集積のみならず、地域や企業と連携した希少淡水魚保全活動のあり方について、その手法論についても論文化する作業を進めている。また、水族の飼育下でバイカルヨコエビの一種 *Acanthogammarus victorii* が繁殖し、それらの飼育下における成長について観察を続けている。これらの一部についてはその成果を水族館技術者研究会で発表した。このほか、環境省レッドリスト2017補遺資料や県内市町のレッドデータブックに関して執筆を行った。

博物館学研究領域にかかわる研究としては、博物館に寄せられた質問をまとめて解析した情報を全日本博物館学会で発表した。このほか、地域の自然史情報集約の場としての博物館の機能をはかる場として、県内での自然観察会、博物館への同定依頼や質問、写真による生物記録をまとめ、生物の分布データなどの自然史情報がどのような価値をもつのか、またそれらの集約にはどのようなプラットフォームが必要なのか、その手法論について検討している。これらについては来年度に共同研究を立ち上げる予定であり、博物館のもつ自然史情報収集の機能論について追っていきたい。

広報営業課では広報の主担当として、資料提供や各種メディア対応を行った。資料提供は60件行ない、テレビ番組や新聞、雑誌への掲載情報は600件を上回った。また今年度より毎日新聞滋賀版において「びわ博 こだわり展示の裏話」の連載が始まり、その担当として取りまとめを行い、24件の掲載を行った。このほか、当館の広報に関わる各種行事の企画を行い、博物館ファンを増やすための取り組みを展開した。

印刷物

【専門分野の著作】

- 金尾滋史 (2017) ヨドコガタスジシマドジョウ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編, 環境省レッドリスト2017補遺資料, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室: 26.
- 金尾滋史 (2017) ビワコガタスジシマドジョウ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編, 環境省レッドリスト2017補遺資料, 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室: 27.
- 酒井陽一郎・琵琶湖博物館うおの会・中尾博行・中川 光・金尾滋史・松田征也・宮永健太郎 (2017) 生物多様性の保全と持続可能な利用の促進にむけた研究. 琵琶湖環境科学研究センター研究報告書, 13, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター: 61-75.
- 金尾滋史 (2017) 湖の魚たち. 日本湿地学会 監修, 図説 日本の湿地, 朝倉書店: 42-43.
- 金尾滋史 (2018) 図書紹介 方円の器. 日本動物園水族館教育研究会誌, 24, 日本動物園水族館教育研究会: 89-90.
- 金尾滋史・遠藤真樹・新保健志・中谷成一 (2018) 甲賀市レッドリスト2017 魚類の概要. みなくち子どもの森自然館 編, 甲賀市レッドリスト2017: 4.
- 大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史・河瀬直幹 (2018) 甲賀市レッドリスト2017 淡水貝類の概要. みなくち子どもの森自然館 編, 甲賀市レッドリスト2017: 3.

大谷ジャーメンウィリアム・金尾滋史・河瀬直幹 (2018) 甲賀市レッドリスト 2017 陸産貝類の概要. みなくち子ども森自然館 編, 甲賀市レッドリスト 2017, 甲賀市: 4.

【一般向けの著作】

- 金尾滋史 (2017) 湖魚を味わう. まほら, 91, 旅の文化研究所: 16-17.
- 金尾滋史 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 1 水族展示室にできた川魚屋の秘密. 毎日新聞, 毎日新聞社, 4月11日.
- 金尾滋史 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 5 水槽以外の見せ方に注目. 毎日新聞, 毎日新聞社, 6月6日.
- 金尾滋史 (2017) 湖国のドジョウばなし. 北九州・魚部 編, 特盛どじょう本, 北九州・魚部, 北九州市: 82-83.
- 金尾滋史 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 13 水槽の水を冷やす生命線. 毎日新聞, 毎日新聞社, 11月14日.
- 金尾滋史 (2018) 新琵琶湖学セミナーへのお誘い. びわはく, 琵琶湖博物館: 7.
- 金尾滋史 (2018) みんなが作った新聞を読み終えて. 水の守り人マップ 水源の森から海まで 150 km の水の旅, 海と日本プロジェクト in 滋賀県実行委員会: 19.
- 金尾滋史 (2018) 湖岸より 315 世界初!!パイカルヨコエビの幼体展示. 中日新聞, 中日新聞社, 3月31日.
- 金尾滋史 (2018) 7-12 魚. 内藤正明 監修, 琵琶湖ハンドブック三訂版. 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生保全課: 174-175.
- 金尾滋史 (2018) 7-13 魚と水田. 内藤正明 監修, 琵琶湖ハンドブック三訂版. 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生保全課: 176-177.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 金尾滋史 (2017年5月20日) 滋賀県東部の石灰洞内における真洞窟性・好洞窟性カマドウマ類の分布. 日本直翅類学会 2017年度総会, 日本直翅類学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史 (2017年7月1日) 博物館に寄せられる質問から見た地域住民・利用者のニーズとその役割. 全日本博物館学会第43回研究大会, 全日本博物館学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 金尾滋史・山田圭祐・桑原雅之 (2017年10月30日) バイカルヨコエビ2種の飼育下における繁殖と成長. 第62回水族館技術者研究会, 日本動物園水族館協会, 秋田キャッスルホテル (秋田市), [口頭発表].
- 金尾滋史・阿部 司 (2017年11月18日) テーマセッション: 企業が取り組む希少淡水魚の保全. 第65回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [企画・座長].
- 秦野 誠・田代優秋・高木基裕・金尾滋史・佐藤陽一 (2017年11月18日) 日亜化学工業 (株) の環境保全活動—企業が取り組むオヤニラミ回復事業—. 第65回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 酒井陽一郎・琵琶湖博物館うおの会・中尾博行・中川 光・金尾滋史・松田征也・宮永健太郎 (2017年11月19日) 滋賀県における淡水魚類の多様性評価と保全にむけて. 第65回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2017年11月19日) 地域の魚類相や各魚種の分布図を公表する意義と危機～保全活動と乱獲の狭間で～. 第65回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 金尾滋史 (2017年11月26日) 遺伝子の多様性を考慮した地域における希少淡水魚保全の取り組み. 第58回日本動物園水族館教育研究会大阪大会, 日本動物園水族館教育研究会, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [口頭発表].
- 大塚泰介・金尾滋史・鈴木隆仁 (2017年12月17日) 第8回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [企画運営].
- 金尾滋史 (2017年12月17日) ミニシンポジウム 生きものに配慮した水田で学生が取り組む研究や活動. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [企画運営・座長].

金尾滋史・舟尾俊範・田和康太（2017年12月17日）水田における魚類の日周変化. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

前根豊克・内海孝雄・金尾滋史・片渕正志・永尾浩輔（2017年12月17日）水田地域における生態系保全検討調査－希少な淡水魚保全のための生息条件について－. 第7回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

金尾滋史（2018年3月10日）滋賀県で定着が確認されたタウンギとその現状. 第66回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 近畿大学奈良キャンパス（奈良県）, [口頭発表].

金尾滋史（2018年3月14日）地域と行政と科学をつなぐ博物館・学芸員の役割. 第65回日本生態学会自由集会「行政の生態学2～保全の最前線の現場から～」, 日本生態学会, 札幌コンベンションセンター（札幌市）, [口頭発表].

金尾滋史・阿部 司（2018年3月17日）田んぼの生きもの全種リストの取り組み. 第65回日本生態学会, 日本生態学会, 札幌コンベンションセンター（札幌市）, [ポスター発表].

金尾滋史（2018年3月17日）田んぼの魚を追いかけて. 第65回日本生態学会「みんなのジュニア生態学講座－高校生と研究者の交流会」, 日本生態学会, 札幌コンベンションセンター（札幌市）, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究」, (2017年度).

琵琶湖博物館共同研究『『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築』（研究代表者：大塚泰介）, 研究副代表者（2017年度～2020年度）

総合地球環境学研究所機関連携プロジェクトフルリサーチ「生物多様性が駆動する栄養循環と流域圏社会－生態システムの健全性」（研究代表者：奥田 昇）, 研究協力者（2015年度～）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本貝類学会, 情報誌「ちりぼたん」, 編集委員.

農業農村工学会, 農村生態工学研究部会, 代表幹事.

日本動物園水族館教育研究会, 運営委員.

日本動物園水族館教育研究会, 日本動物園水族館教育研究会誌, 編集長.

魚類自然史研究会, 幹事.

日本貝類学会, ちりぼたん, 査読, 1件.

日本動物園水族館教育研究会, 日本動物園水族館教育研究会誌, 査読, 5件.

三重県立博物館研究紀要, 査読, 1件.

農業農村工学会, 水土の知, 査読, 1件.

日本動物園水族館教育研究会, 第57回日本動物園水族館教育研究会大阪大会, ポスター賞審査員.

日本生態学会, 第65回日本生態学会大会, ポスター賞（保全分野）審査員.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2018年1月11日, びわこ学院大学, 「滋賀の環境」.

2018年1月5日, 滋賀県立大学, 「博物館資料保存論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 4件.

はしかけ運営「温故写新」, 担当.

2017年6月11日, みんなで湖魚料理を作ろう！<コアユ・シジミ編>, 博物館で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講義・

実習, (片岡佳孝と共同).

2017年11月4日, みんなで湖魚料理を作ろう! <フナ・ビワマス編>, 博物館で楽しもう, 琵琶湖博物館, 講義・実習, (片岡佳孝と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月23日, 琵琶湖の魚とその魅力～多様性から保全から味の話まで～, びわ湖博士講演会, 北九州市立自然史・歴史博物館 (福岡県), 講師.

2017年6月17日, 須原さかなのゆりかご水田観察会, せせらぎの郷須原, 須原魚のゆりかご水田 (滋賀県野洲市), 講師.

2017年6月25日, e-radio クリーンキャンペーン, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年7月16日, かつべ水フェスタ 水辺の生き物観察会, 勝部自治会, エルセンター (滋賀県守山市), 講師.

2017年7月25日, 琵琶湖の固有種とその現状, 大津びわこ比叡ライオンズクラブ, 大津びわこ比叡ライオンズクラブ7月例会, 琵琶湖ホテル (滋賀県大津市) 講師.

2017年8月19日, 下物ビオトープ観察会, 琵琶湖保全再生課, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年8月25日, 湖と人間～湖と人の共存関係を考える～, 五個荘中学校区教育研究会, 東近江市立五個荘小学校 (滋賀県), 講師.

2017年9月3日, 外来魚の生態と利用について, 那珂川町商工会青年部, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年9月28日, 琵琶湖の魚について, 甲賀市立綾野小学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2017年10月21日, 「みずの守り人マップ」への助言, 海と日本プロジェクトin滋賀県実行委員会, ワークショップ, 琵琶湖博物館, 助言指導 (大塚泰介と共同) .

2017年10月26日, 第61回滋賀県学生科学省県展 中学生の部, 近江八幡市立桐原小学校 (滋賀県), 審査員.

2018年1月21日, 琵琶湖の生態系および博物館の展示について, 滋賀短期大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2018年2月4日, 第11回淡海の川づくりフォーラム, 淡海の川づくりフォーラム実行委員会, 滋賀県危機管理センター (大津市), グループ選考員.

メディアへの協力

2017年5月13日, 京都新聞, びっくり土間にシロマダラ, 取材・コメント, (2017年5月12日取材),

2017年11月30日, 京都新聞, 流れに逆らい群れでスイスイ 旬のオイカワ展示, 取材・コメント, (2017年11月29日取材),

2018年2月9日, びわ湖放送, しが創生ゼミナール, コメント, (2018年1月23日収録).

2018年3月21日, 産経新聞, 謎多きバイカルヨコエビ幼体展示, 取材・コメント, (2018年3月20日取材).

2018年3月21日, 京都新聞, ヨコエビ人工飼育成功・展示, 取材・コメント, (2018年3月20日取材).

2018年3月29日, 滋賀報知新聞, バイカルアザラシ「トント」死亡, 取材・コメント, (2018年3月28日取材).

その他新聞・テレビ・雑誌への取材対応, 50件.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

電話・窓口・メールによる質問対応, 300件.

窓口・メールによる生物の同定依頼, 30件 (60点) .

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

貝類標本, 副担当.

水族資料収集, 担当.

水族資料維持管理, 担当.

動物資料貸出・特別観覧対応, 2件.

魚類資料提供受入.

魚類資料収集, 50 件 (淡水魚).
昆虫資料収集, 10 件 (水生昆虫等).
貝類資料収集, 20 件 (陸産貝類, 淡水貝類等).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示維持管理, 担当.

水族企画展示「大どじょう展～滋賀のドジョウ・日本のドジョウ～」, 2017 年 7 月 15 日～9 月 3 日, 主担当.
モーニングレクチャー, 講義, 4 回.

展示交流員と話そう, 内容指導, 2 件.

他博物館・機関の活動

北九州市立自然史・歴史博物館, 企画展「大どじょう展」, 写真提供・展示協力.

【広報営業活動】

広報、資料提供, 担当.

資料提供, 60 件.

雑誌への掲載, 50 件.

倶楽部 LBM 会員イベント「エリ漁体験」, 2017 年 6 月 4 日・6 月 18 日, 守山市地先・琵琶湖博物館, 講師.

ドジョウのモバイル作り, 2017 年 8 月 11 日, 琵琶湖博物館, 講師.

学芸員による企画展示特別解説, 2017 年 8 月 12 日・8 月 13 日・8 月 19 日, 琵琶湖博物館, 講師.

イナズマロックフェス出展ブース, 展示解説, 2017 年 9 月 16 日, からすま半島広場 (滋賀県草津市).

ハリヨ保全プロジェクト, 2017 年 6 月 7 日, 旭化成守山営業所 (滋賀県守山市), 活動協力.

徳島県オヤニラミ再生プロジェクト, 2017 年 9 月 6 日・7 日, 日亜化学工業株式会社 (徳島県), 活動協力.

企業の生物多様性保全活動などに関する相談対応, 7 件.

毎日新聞「びわ博こだわり展示の裏話」, 連載担当.

【研究部関連事業】

新琵琶湖学セミナー, 主担当.

琵琶湖地域の水田生物研究会, 主催 (大塚泰介・鈴木隆仁と共同).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2006 年 8 月～, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県生きもの総合調査委員会魚貝類部会, 委員.

2010 年 7 月～, 環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員.

2010 年 4 月～, 滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課, 滋賀県希少野生動植物調査監視指導員.

2011 年 11 月～, 滋賀県農政水産部農村振興課, 豊かな生き物を育む水田づくり懇話会, 委員.

2012 年 2 月～, NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク, 標本救済ネット, ケースワーカー.

本年度は、「学校と博物館それぞれの特色を活かした利用法」というテーマで、博物館利用時の利用目的や利用方法が明確にできるような要素（体験学習プログラムや展示サポートシートなど）について、特に中学校や高等学校の利用状況を調べながら研究を進めた。中学校や高等学校は小学校とは異なり、総合的な学習の時間を利用して環境学習の一環で利用することが多いことがわかっている。したがって、各学校で行っている環境教育において、博物館の展示見学や体験学習プログラムの有効活用を目的とし、各学校の博物館の利用目的が明確になるような連携のあり方を模索した。

4月～9月の上半期は、学校団体や他の機関等との利用受付や相談、実施業務に従事した。特に、学校団体については、体験学習プログラムを併せた利用について、教員と相談・打合せを行った。遠足・校外学習以外にも、SSHや生物科学部、中高一貫教育での新規高度利用打合せも多かった。また、滋賀県教育委員会や滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課などの他機関と連携した事業の打合せも行った。連携事業に関しては、館内の職員・学芸員との連携も密にしながら当日の運営を行った。10月～3月の下半期は、上半期同様の業務に加え、新琵琶湖博物館創造室で取り組む第2期リニューアルに向けての準備業務を本格化させた。第2期リニューアルの1つに挙げられている交流空間の充実を図るために、「琵琶湖博物館別館」の利用が計画されている。新琵琶湖博物館創造室では別館に関することを副担当としているため、他の博物館・施設等の視察や琵琶湖博物館の現状を踏まえて「別館利用について」利用規約や館内図等を作成した。

1年間を通して学校団体の受け入れ業務を行う中で、博物館の有効活用に向けた取り組みも実施することができた。教員向け研修会（初任者研修、環境教育研究協議会、中堅教員資質向上研修など）では、展示見学用サポートシートや高度利用法を提案し、博物館での学習を充実させるための手段を考えてもらった。また、中学校を中心に高度利用法について提案したプログラムを実施し、教員から良い評価を得ることができた。今後、特別支援学校を含めた学校団体の博物館有効活用について、幅広く提案していきたい。

印刷物

【一般向けの著作】

小林偉真（2017）湖岸より 289 博物館の高度な利用法. *中日新聞*, 中日新聞社, 4月15日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

小林偉真（2018年2月16日）学校と博物館それぞれの特色を活かした利用法. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「学校と博物館それぞれの特色を活かした利用法」, (2017年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年11月～2018年3月, 滋賀の教師塾塾生, 団体向け体験プログラム実習・交流事業研修受け入れ. (奥野知之と共同).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ運営「びわたん」、担当。

2017年4月～2018年3月、「ドキ土器！おしゃれもようを楽しもう！」等10講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業、琵琶湖博物館、企画運営、10件、（はしかけグループ「びわたん」「近江はたおり探検隊」「なにわホネホネ団」と共催・奥野知之と共同）。

2017年5月～2018年2月、琵琶湖学習2017、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、5件、（奥野知之と共同）。

2017年7月～2017年11月、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、企画運営・講師、4件、（滋賀県中学校教育研究会理科部会と共催・奥野知之と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月～2018年3月、学校団体向け体験学習、県内県外小中高等特別支援学校大学、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、120件、（奥野知之と共同）。

2017年6月1日、琵琶湖博物館の利用とプランクトン観察（実習）、滋賀県中学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2017年7月13日、水環境学習「琵琶湖について」、高島市立湖西中学校、高島市立湖西中学校（滋賀県）、講師。

2017年8月2日、琵琶湖のプランクトン観察（実習）、北河内地区小学校理科教育研究会、琵琶湖博物館、講師、（奥野知之と共同）。

2017年8月3日・9日、「展示見学で利用できる学習シートの作成」等、滋賀県総合教育センター、中堅教員等資質向上研修【選択研修】、琵琶湖博物館、コーディネーター・講師、2件、（奥野知之と共同）。

2017年8月～2017年9月、一般団体向け体験学習、各団体、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、3件、（奥野知之と共同）。

2017年8月4日、学校における博物館の有効活用、滋賀県教育委員会幼小中教育課、平成29年度しが環境教育研修会、琵琶湖博物館、講師、（奥野知之と共同）。

2017年9月12日、日本の小学校におけるプランクトン実習、公益財団法人国際湖沼環境委員会、JICA「統合的流域管理による水資源の持続可能な利用と保全」研修、琵琶湖博物館、講師。

2017年11月7日～16日、琵琶湖博物館を活用した学習の在り方（実習）、滋賀県総合教育センター、初任者研修、琵琶湖博物館、講師、4件、（奥野知之と共同）。

2017年12月2日、環境学習拠点施設の役割について、公益財団法人国際湖沼環境委員会、平成29年度さくらサイエンスプラン交流事業、琵琶湖博物館、講師、（奥野知之と共同）。

視察対応

2017年11月23日、体験学習プログラムと学校連携について、沖縄県立博物館美術館。

2018年2月23日、体験学習プログラムと地域連携について、沖縄美ら島財団。

2018年3月2日、学校・園団体の受け入れ対応とその資料について、大阪市立自然史博物館。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

博物館高度利用に関わる事前打ち合わせ・コーディネート、担当、10件、（奥野知之と共同）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年4月～2018年3月、学校等標本貸出事業、担当、21件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.

【企画調整活動】

琵琶湖周航の歌 100 周年記念事業, よし笛・シジミアクセサリーのワークショップ, 講師, 2017 年 6 月 24 日, 琵琶湖汽船今津港, (奥野知之と共同).

JICA 研修「博物館とコミュニティ開発コース」, 学校向け体験学習の実践 (実習), 講師, 2017 年 11 月 15 日, 琵琶湖博物館, (奥野知之と共同).

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第 2 期リニューアル おとなのディスカバリーに関すること, 副担当.

第 2 期リニューアル UNEP 改修に関すること, 副担当.

今年度は、4月から産前休暇に入る6月中旬までの勤務となったが、その中でできる限りの業務をこなし、生体資料を管理する水族管理担当の一人として、また、獣医師として、不在時の対策と引継ぎを行った。それにより、生体資料に関しては、円滑に飼育を継続することができた。

博物館事業としては、IPMに関する事業の主担当として従事するとともに、昨年リニューアルした展示室内で害虫の発生が相次ぎ、新たな調査と対策のための対応を行った。

水族展示業務として、昨年度から新たに展示が始まったバイカルアザラシや古代湖にさらに興味・関心を持っていただけるよう館内イベントとして、アザラシの給餌や個体紹介を織り交ぜた解説イベントを実施。1年をかけて当館施設に慣れたアザラシ達と共に、琵琶湖博物館ならではの情報をお客様にお伝えした。館内の混雑と混乱を解消するための設備レイアウトも新たに行い、多くのお客様に楽しんでいただけるイベントとなった。

研究としては、専門研究ではバイカルアザラシが摂取している栄養の基礎研究に着手し、野生のバイカルアザラシが摂取しているとされる魚の栄養素の調査を行った。また、本年は琵琶湖博物館共同研究が採択され、国内でも報告例のないアザラシの皮膚炎研究を行い、現在も継続調査を行っている。

研究としても、生体資料としても、貴重なアザラシが一頭3月に死亡してしまったが、可能な限り詳細に調査を行い、今後の飼育や展示に活かしていきたいと思う。また、国内のバイカルアザラシ飼育園館と情報交換を行いながら、残された2頭の繁殖を進め、バイカルアザラシの研究・飼育に関する先陣となれるよう今後も努力していく。

印刷物

【一般向けの著作】

松岡由子(2017)びわ博 こだわり展示の裏話 2 バイカルアザラシ輸送大作戦!! 保冷車15度 木箱でいざ出発。
毎日新聞, 毎日新聞社, 4月25日。

松岡由子(2017)湖岸より 293 妖精のような魚「ゴロミヤンカ」。*中日新聞*, 中日新聞社, 6月10日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

松岡由子(2017年5月25日)バイカルアザラシにおける赤血球沈降速度の測定。日本水棲生物医学研究会2017年度春研究会, 日本水棲生物医学研究会, 登別グランドホテル(北海道登別市), [口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「飼育下バイカルアザラシの摂取カロリーに関する研究」,(2017年度)。

琵琶湖博物館共同研究「水棲哺乳類の疾患における病理学的研究ーバイカルアザラシの皮膚炎ー」(研究代表者:松岡由子), 研究代表者(2017~2019年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野生動物医学学会, 学術・教育委員会委員, 2016~2018年度。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，3件.

2017年4月29日，バイカルアザラシのことを知ってみよう！，博物館で楽しもう！，琵琶湖博物館，給餌・トーク.

視察対応

2017年4月26日，展示案内，滋賀県獣医師会.

メディアへの協力

2017年5月24日，FM滋賀，style 平和堂マイ・デイリー・ライフ：滋賀県で活躍する人紹介，琵琶湖博物館 バイカルアザラシ担当学芸員，(2017年5月17日取材対応).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

防虫防黴対策・生物環境調査，主担当，3件.

C展示室内害虫発生時調査・対応.

収蔵庫温湿度管理，副担当.

バイカルアザラシの安定的飼育，飼育指導と動物状態管理，一日3回の各給餌立ち会い.

バイカルアザラシの健康診断，作業管理および血液・細菌検査，計4回.

展示水鳥の健康管理，飼育指導および血液・細菌検査と治療，3回.

その他水族飼育・管理.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，4回.

研究部では、平成 29 年度申請専門研究「屋外展示を使った幼児の野外体験の効果」を開始した。屋外展示と展示室で幼児向けのプログラムを行い、屋外での自然の実体験と展示を組み合わせ博物館における学びの効果を検証することを目的としている。プログラムは特別研究員の池田勝氏が「ちっちゃな子どもと自然あそび（ちこあそ）」のはしかけ活動として行っており、その活動中で子どもたちの発言を記録した。本研究の一部は神戸大人間発達科学部 4 回生の上枝千明氏、大野朋子准教授と共同で行っており卒業研究として発表を行った。この内容は中間報告の内容を日本造園学会関西支部大会にて連名でポスター発表し関西支部のポスター賞を受賞した。来年度はデータを精査し、発言の関連性について分析を進める予定である。

また、2017 年 7 月琵琶湖博物館で開催された全日本博物館学会の担当として事務局との調整を行った。学会業務は初めてであったが、「行動観察に引き込む手法と効果－カヤネズミ生体展示を事例に－」について発表も行った。その他の研究では、昨年度までの研究成果の一部「カヤネズミによる営巣植物の選択性」について日本哺乳類学会 2017 年度大会にてポスター発表をし、その内容を取りまとめた論文を現在投稿中である。また、タヌキの剥製を用いたスケッチ学習における着目点の傾向について、第 65 回日本生態学会大会にてポスター発表を行った。この研究は、第 2 期リニューアルにおける展示評価の中で実施した一部である。

事業部では展示係ディスカバリールームを担当した。今年度は、第 2 期リニューアルに向けて 12 月 1 日から閉室となり、リニューアル工事を行っている。リニューアルに向けた展示物の更新に「人形げきじょう」の新たなパペットを制作した。クロージングイベントとして、ディスカバリールームの思い出アルバムを実施し、来館者から 20 年間の思い出の展示へのメッセージを集めて展示した。閉室中もリニューアルに向けたプログラムとして、参加者がリニューアル後に展示する宝物を収集する森の宝物探しや、リニューアル後の室名表示になる人文字の撮影会などを実施した。また、ザ!ディスカバはしかけでは、さらに主体的な活動が活発になり、イベントごとに担当を決めて実施され、サポートを行った。はしかけグループ「ちこあそ」は 1 年が経ち、参加者の層も増えている。

総務部新琵琶湖博物館創造室では、引き続き第 2 期リニューアルのディスカバリールームを担当した。具体的な展示内容を確定し、設計、工事を行った。展示項目は、来館者のお気に入り展示アンケート調査や来館者への聞き取り調査による利用者の意見を踏まえたものを組み込まれており、それらを考慮した上で展示作りを行った。人気の展示については既存のまま残すため修繕を行った。新たな展示物については、各分野の担当に協力をあおぎ、創造室の担当者として協力して展示作りを行った。また、リニューアル後の運営方法について担当者および嘱託職員と議論を行い、運営面での改善に努めた。

資料整理業務ではほ乳類標本、骨格標本を担当した。引き続き、第 2 期リニューアルに合わせて収集した骨格標本および毛皮、剥製標本を製作した。新たな展示室で利用できるよう、さわる標本を制作している。今年度までは哺乳類の資料整理の人員がなく一人で作業するためなかなか進まないことが多かったが、来年度以降、人員が確保できれば、さらに進めることができるだろう。また、陸域生体の飼育業務では、第 1 期リニューアル後から開始したカヤネズミの飼育を引き続き担当した。飼育を開始した 2016 年 6 月から 1 年が経ち、飼育個体の四季に対する変化や繁殖行動などがある程度観察できた。この 1 年の経験を元に、後半は繁殖計画および展示維持管理の方法について検証した。今年度から水族の学芸員のサポートが入ったので早い対応ができた。年度後半はリニューアル業務が多く対応が遅れることもあったが、飼育個体数は繁殖計画の目標である 40 頭に近づきおおむね順調であった。来年度以降は、個体数維持をするための繁殖、飼育計画を立てていく。

印刷物

【専門分野の著作】

澤邊久美子 (2017) 社会的責任・環境コミュニケーション卒業生の活躍「身近な草むらの世界を伝えたい」. 名古屋

【一般向けの著作】

澤邊久美子 (2017) びわ博 こだわり展示の裏話 4 カヤネズミの飼育係奮闘記 特性ケースが巣の楽園に. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 5月23日.

澤邊久美子 (2018) びわ博 こだわり展示の裏話 17 滋賀の哺乳類大集合 譲り受けた剥製 修復活用. *毎日新聞*, 毎日新聞社, 2月6日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

澤邊久美子 (2017年7月2日) 行動観察に引き込む手法と効果—カヤネズミ生体展示を事例に—. 全日本博物館学会第43回研究大会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

澤邊久美子 (2017年9月10日) カヤネズミによる営巣植物の選択性. 日本哺乳類学会2017年度大会, 富山大学(富山市), [ポスター発表].

澤邊久美子・池田 勝・上枝千秋・大野朋子 (2017年9月15日) 幼児の博物館体験と野外体験の効果. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

澤邊久美子 (2017年9月23日) 幼児の博物館体験と野外体験の効果および幼児向けプログラムの位置づけ. 2017年度研究審査会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

上枝千明・澤邊久美子・池田 勝・大野朋子 (2017年10月5日) 人工展示物と野外体験活動が幼児教育に与える影響. 日本造園学会関西支部大会, 兵庫県立淡路園芸学校(淡路市), [ポスター発表].

澤邊久美子 (2018年3月17日) タヌキの剥製を用いたスケッチ学習における着目点の傾向について. 第65回日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター(札幌市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「幼児の博物館体験と野外体験の効果」, (2017年度).

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」(研究代表者: 橋本道範), 研究分担者 (2014年度~2018年度).

滋賀県立大学共同研究「カヤネズミの食性を決定する要因および糞中DNA分析手法に関する研究」(研究代表者: 高倉耕一), 研究協力者 (2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

2017年1月~2018年12月, 日本環境動物昆虫学会 環境アセスメント動物調査手法研究部会, 運営委員.

2017年11月~2018年6月, 全日本博物館学会, 選挙管理委員.

【受賞など】

平成29年日本造園学会関西支部賞, 2017年10月15日, 「人工展示物と野外体験活動が幼児に与える影響」(上枝千明・澤邊久美子・池田 勝・大野朋子共同受賞).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 琵琶湖博物館, 11件.

はしかけ運営「ザ! ディスカバはしかけ」, 担当, 8件

はしかけ運営「ちこあそ」, 担当, 12 件.

2017 年 4 月 21 日～4 月 30 日, びわこいのぼりを作ろう, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2017 年 8 月 1 日, ほ乳類班, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.

2017 年 8 月 23 日, ディスカバリールームについて, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2017 年 10 月 14 日, ほねにふれてみよう, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2017 年 11 月 1 日～30 日, 【ディスカバリニューアル】ディスカバの思い出アルバムを作ろう!, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2017 年 11 月 18 日, 【ディスカバリニューアル】びわ博×近美たいけんびじゅつかん 魚ペーパーウェイトをつくろう!, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 実施.

2017 年 11 月 25 日, はたきを作ろう!, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

2017 年 12 月～2018 年 1 月, 【ディスカバリニューアル】人文字で「デ・ィ・ス・カ・バ」を書こう!, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助, 7 件.

2018 年 1 月 14 日, びわはくアルバムをつくろう!, 博物館で楽しもう!, 琵琶湖博物館, 運営.

2018 年 2 月 12 日, 【ディスカバリニューアル】森の宝物探し, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 実施.

2018 年 3 月 3 日, ディスカバひな祭り紙芝居, ディスカバリールームイベント, 琵琶湖博物館, 運営補助.

他の博物館・機関等主催行事

2017 年 5 月 27 日・6 月 17 日・8 月 26 日・2 月 10 日, 田んぼの生物調査～田んぼの生きもの図鑑をつくろう! 春夏秋冬～, TANAKAMI こども環境クラブ, 大津市水田 (大津市), 講師, 4 件.

2017 年 8 月 24 日, 子育て・親育ち講座 8 月, 守山市教育委員会, 琵琶湖博物館, 講師.

2017 年 12 月 2 日, 琵琶湖にすむ生き物について, びおっこの会, 琵琶湖博物館, 講師.

2017 年 12 月 9 日, カヤネズミ観察会, 堺自然ふれあいの森, 堺自然ふれあいの森 (大阪府), 講師.

2018 年 2 月 4 日, 中高生向けプロフェッショナルセミナー, 滋賀の縁創造実践センター, 近江八幡市文化会館 (滋賀県), 講師.

視察対応

2017 年 9 月 26 日, 学芸員・博物館の役わりについて, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科.

2017 年 11 月 23 日, 教育普及事業に関する調査, 沖縄県立博物館・美術館.

2017 年 11 月 30 日, 琵琶湖博物館の展示工夫と地域連携による諸活動の推進について, 丹波市立青柿いきものふれあいの里.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

クエリー質問対応, ほ乳類、両生類、爬虫類、外来種などに関する質問への回答, 6 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

ほ乳類骨格標本貸出, 5 点.

ほ乳類毛皮剥製の製作, 2 点.

ほ乳類標本の収集(登録), 9 点.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017 年 12 月 1 日～12 月 24 日, ヨシ灯り展 in 琵琶湖博物館, 西の湖ヨシ灯り展実行委員会共催, 実施.
ディスカバリールーム, 主担当.

ディスカバリールームミーティング，琵琶湖博物館，12回。
モーニングレクチャー，講義，4回。
交流員と話そう，内容指導。

【企画調整活動】

新任職員等研修，ディスカバリールームについて，講師，2017年4月13日，琵琶湖博物館。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル ディスカバリールーム，主担当。

第2期リニューアル レストラン・ショップ・アトリウム，副担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年4月～2018年3月，ショップ・レストラン会議，メンバー。

【館外の活動】

2017年10月10日，甲賀市レッドリスト2017年策定委員，現地調査。

2017年6月7日・12月12日，ヤンマーミュージアム屋上ビオトープ維持管理会議，2件。

2017年9月6日～8日・2018年2月1日～2日，文化庁ミュージアムエドゥケーター研修，受講。

今年度から植物分類学の担当学芸技師として、博物館業務を行ってきた。博物館学領域の研究としては、博物館に眠ったデータの発掘と解析をテーマに掲げ、フィールドレポーターと連携することで博物館ヘビーユーザーの研究能力増進に努めた。現在、過去のフィールドレポーター調査結果から解析データを抽出中である。専門研究では、伊吹山に生育するマメ科 *Vicia* 属の植生分布を記録することで、多様な植生が異所的なパッチなのか、同所的に混生しているのか (生育適地の違い vs. ニッチ分化 or facilitation) を明らかにすることを課題とした。現在のところ多少のニッチの違いは見られるものの、混生する集団も多く見られた。また、混生する集団では、キバナノレンリソウの花を食べるハムシの仲間数が少なかった。計測途中で除草作業が行われてしまったため、来年度は再度計測を試みる予定である。本研究を通じて、多様な植生を維持する機構を考察する上での基礎情報を提供することが、博物館と研究を繋ぐことになると考えている。研究部関連事業として、新琵琶湖学セミナーを副担当として、聴覚障害者対応の仕組みを整えた。

事業部交流係ではフィールドレポーターを担当した。今年は調査結果のレポートに学術的な意義を付加し、プレスリリースを行った。その結果、5社の新聞社から取材を受け、博物館活動の発信に貢献することができた。また、フィールドレポーターと他団体との交流を積極的に行い、琵琶湖博物館の交流機能の増進に努めた。

来年度のリニューアルに向け、おとなの ディスカバリーの植物セクション担当として、展示棚のデザインと展示物の構想を練った。季来館者が何度来館しても新しい発見ができるように、季節ごとに展示を入れ替えられるようにする予定である。また、はしかけ・フィールドレポーターのメンバーの活動を展示に取り込めるように準備を進めている。

印刷物

【一般向けの著作】

- 大槻達郎 (2017) 身のまわりにある不思議をシェアしませんか?。フィールドレポーター掲示板, 87, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.
- 大槻達郎 (2017) びわ博フェス、アキアカネ調査、企画展と盛りだくさんな夏。フィールドレポーター掲示板, 88, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.
- 大槻達郎 (2017) 湖岸より 304 琵琶湖岸の海浜植物。中日新聞, 中日新聞社, 11月11日。
- 大槻達郎 (2017) 海無し県の滋賀に生育する海浜植物 ~その来歴と保全~。ヨシで琵琶湖を守るネットワーク通信, 29, コクヨ: 1.
- 大槻達郎 (2017) 交流会、新しい調査の準備、カイツブリの調査と充実した秋冬。フィールドレポーター掲示板, 89, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.
- 大槻達郎 (2018) 継続は力なり! フィールドレポーター調査が多くの方々に注目されています!。フィールドレポーター掲示板, 90, 琵琶湖博物館フィールドレポーター: 1.
- 大槻達郎 (2018) フィールドへ、飛び出そう!。びわはく, 創刊号, 琵琶湖博物館: 6.
- 松村順子・下松孝秀・大槻達郎・大塚泰介 編 (2018) びわはく。創刊号, 琵琶湖博物館: 12p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 大槻達郎 (2017年12月15日) 琵琶湖湖岸に生育する海浜植物の来歴の推定。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表]。

大槻達郎（2018年1月27日）琵琶湖湖岸に生育する海浜植物ハマエンドウの生態と保全－湖岸に適した環境応答をする健気な植物－。滋賀植物同好会，ピアザ淡海（滋賀県大津市），〔講演〕。

大槻達郎（2018年2月4日）琵琶湖湖岸に生育する海浜植物の進化の歴史とその保全。滋賀県植物研究会，琵琶湖博物館，〔講演〕。

大槻達郎・瀬戸口浩彰（2018年3月8日）琵琶湖湖岸に生育する海浜植物ハマエンドウの発芽特性。植物分類学会第17回大会，金沢歌劇座（石川県金沢市），〔ポスター発表〕。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「伊吹山に生育するソラマメ属植物の多様性維持機構の解明」，（2017年度）。

科学研究費助成事業（奨励研究）「琵琶湖湖岸に生育する絶滅危惧植物の発芽特性の解明－自然史と保全の観点から－」（研究者番号取得のため辞退）現在も研究は進行中。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，6件。

フィールドレポーター，主担当。

フィールドレポーター掲示板，4件。

フィールドレポーター便り，2件。

はしかけ運営「緑のくすり箱」，担当，

はしかけ運営「森人」・「植物観察の会」，副担当。

はしかけ登録講座，運営，3件。

2017年7月8日～9日，びわ博フェス，副担当。

2017年8月1日，植物をマクロとミクロの視点で見よう！，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2017年9月9日，葉っぱの形に注目しよう！，わくわく探検隊！，琵琶湖博物館，補助。

2017年11月4日，立命館守山中学校ミュージアムスクール中間研究報告会，立命館守山中学校，琵琶湖博物館，指導助言。

2017年11月11日，秋の色探しをしよう！，わくわく探検隊！，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2017年6月25日，フィールドレポーター・はしかけの活動について，豊橋市自然史博物館主催，豊橋市自然史博物館ボランティア研修，琵琶湖博物館，講師。

2018年2月2日，フィールドレポーター・はしかけの活動について，公益財団法人京都市環境保全推進協会，2017年度日系研修「環境リーダー養成研修（都市型環境教育）」コース，琵琶湖博物館，講師。

2018年2月17日，アキアカネの生育数・行動圏についての市民参加型調査，公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会，自然と人間との共生フェスタ in 滋賀，琵琶湖博物館，フィールドレポーターの発表のコーディネイト。

メディアへの協力

2017年9月3日，NHK，小さな旅・山の歌夏花立ち燃ゆる～伊吹山～，伊吹山の植物の助言。

2018年1月13日，中日新聞，たくましいカイツブリ，取材対応，（2017年12月20日）。

2018年1月16日，産経新聞，カイツブリヨシのないところでも，取材対応，（2018年1月10日）。

2018年1月20日，毎日新聞，鴉海離れ？子育てに波高く，取材対応，（2017年12月20日）。

2018年1月23日，読売新聞，カイツブリ意外な営巣地，取材対応，（2018年1月6日）。

2018年1月23日，京都新聞，カイツブリ意外な営巣地，取材対応，（2018年1月10日）。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

植物標本整備，収蔵庫維持管理，担当。
メディアへの写真提供，5件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

いきものコレクション「植物分野」，主担当。
モーニングレクチャー，講義，4回。

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル ディスカバリールーム「におってみよう・さわってみよう」，副担当。
第2期リニューアル おとなのディスカバリー「植物分野」，主担当。

【研究部関連事業】

2017 年度，新琵琶湖学セミナー「琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」，運営・実施，副担当，3回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度，びわはく，編集委員。

【館外の活動】

2017 年 6 月 24 日，近江八幡市佐波江町新海浜に生育するハマゴウの保全。

2017 年 6 月 10 日～7 月 10 日，滋賀県に生育する絶滅危惧種（海浜植物）の種子の保存。

2017 年 8 月 3・28 日、9 月 14・24 日、10 月 17 日、11 月 3 日，伊吹山シカ食害調査，調査協力，米原市

2017 年 8 月 26 日，第 4 回西日本植物多様性保全拠点園交流会，日本植物園協会主催，活動紹介，京都市。

2017 年 9 月 24 日，滋賀県植物同好会主催琵琶湖岸の海浜植物の保全調査活動。

2017 年 9 月 26 日，環境省平成 29 年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業（陸水域調査）への参加，滋賀県長浜市。

2018 年 2 月 10 日，西の湖ヨシ刈りへの参加，ヨシでびわ湖を守るネットワーク・安土町商工会・東近江水環境自治協議会主催，活動近江八幡市（西の湖）。

印刷物

【一般向けの著作】

岸 妙子 (2018) トピック 琵琶湖疏水, *琵琶湖ハンドブック 三訂版*, 滋賀県: 230.

博物館事業に関する業績

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫資料展情報の web 発信, 準備, 5 件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

定期収蔵庫清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 10 回.

定期清掃 (収蔵庫前廊下), 4 回.

定期清掃 (B 展示室), 44 回.

特別清掃 (トラックヤード・交流員室窓).

大掃除 (B 展示室・歴史研究室・古文書整理室).

防虫防霉調査, トラップ設置回収, 3 回.

Ph 測定 (7 箇所), 2 回.

脱酸素処理.

収蔵庫担当者会議報告 (生物環境調査結果), 2 回.

乳剤散布, 5 回.

他博物館・機関の活動

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討—」
(研究代表者: 青柳周一), 研究補助 (2016 年度~2021 年度).

2017 年 9 月 9 日~10 日, 熊本大学教育学部・滋賀県東近江市今堀町現地調査 (調査指導者: 春田直紀), 参加.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017 年 4 月 25 日~6 月 4 日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう! 甲賀忍者・売薬」第 71 回, 調査・準備・展示.

2017 年 6 月 6 日~7 月 9 日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう! 琵琶湖疏水」第 72 回, 企画・調査・準備・展示.

2017 年 7 月 11 日~9 月 3 日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう! 古文書を読んでみよう—古文書調査の現場から 木村忠兵衛家文書の紹介—」第 73 回, 企画・調査・準備・展示.

2017 年 9 月 12 日~11 月 12 日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう! 江戸の本」第 74 回, 企画・調査・準備・企画.

2017 年 11 月 14 日~2018 年 1 月 21 日, 収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう! 唐橋」第 75 回, 企画・調査・準備・展示.

2018年1月28日～3月18日，収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！ ー変身したものあ～つまれ！ 近江の信
仰ー」第76回，企画・調査・準備・展示。
B展示室常設展示陳列替え，2件。

印刷物

【学術論文】

Suzuki, M., Hirai, N. and Ishii, M. (2017) Early community assembly of aquatic insects in experimental ponds established across the forest margin of a *Satoyama* coppice. *Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology*, 28 (3), 日本環境動物昆虫学会: 133-142.

鈴木真裕・平井規央・石井 実 (2018) 大阪府の都市部に造成されたビオトープ池の大型無脊椎動物群集に及ぼす池干し効果. *日本環境動物昆虫学会誌*, 29 (1) : 1-12.

【一般向けの著作】

鈴木真裕 (2018) とっておきの収蔵標本 収蔵庫に眠る貴重な微小生物たち. *びわはく*, 創刊号, 琵琶湖博物館: 10.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

鈴木真裕・山本 直・平井規央・石井 実 (2017年12月17日) 水田生態系におけるユスリカの潜在的な多様性. 第8回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2017年8月1日, プランクトン班, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師補助.

2017年9月24日, 顕微鏡で観察しよう プランクトンでビンゴ, 博物館で楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師補助.

2017年12月17日, 第8回 琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館, 運営補助.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

生物系データベースの登録番号区分, 改定案の提示 (導入済み).

無脊椎動物データベース, 標本データ項目・博物館HP公開項目の調整.

微小生物データベース, 標本データ項目・博物館HP公開項目の調整.

無脊椎動物エクセル仮データベース, データアップロードに向けた内容調整.

微小生物エクセル仮データベース, データアップロードに向けた内容調整.

無脊椎動物データベース, 標本データのアップロード, 約10,000点.

微小生物データベース, 標本データのアップロード, 約10,000点.

データベースへの一括アップロード, 注意点・対処法の提示.

無脊椎動物標本, 整理・管理, 約300点.

無脊椎動物標本, 特別観覧対応, 2件.

標本害虫シバンムシ対策，文献調査・忌避剤導入の提案.

標本害虫，同定協力，3件.

生物環境調査，調査協力，2回.

温湿度管理，データ取り込み，27回.

定期清掃，収蔵庫廊下，3回.

燻蒸（C展示室哺乳類標本・鳥類標本），作業協力.

C展示室昆虫液浸標本，管理（エタノール補充）.

リニューアル工事に伴う図書移動，作業協力.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示室「マイクロアクアリウム」，飼育管理補助・野外採取補助.

水族展示室「マイクロアクアリウム」，展示に向けたウサギワムシ *Lepadella* sp. の飼育管理系の確立.

水族展示室「マイクロアクアリウム」，飼育管理補助に関するマニュアルの改定.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2018年3月，大阪府立大学大学院生命環境科学研究科，博士（緑地環境科学）取得.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「温故写新」、オブザーバー。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

Photo CDの媒体変換，ディスク 888 枚。

Photo CDのフィルム対応リスト，作成。

16mm フィルム，劣化調査。

画像データベース，資料データの修正，10 件。

映像資料，特別観覧対応，20 件（255 点）。

映像資料，館内利用対応，20 件（118 点）。

寄贈資料，受け入れ対応，3 件。

フィルム写真のデータ化，10 件（約 100 枚）。

動画収集・仮登録，42 点。

資料撮影，補助。

映像収蔵庫・写場，維持管理。

定期清掃（映像収蔵庫），24 回。

定期清掃（写場），12 回。

定期清掃（映像資料整理室），12 回。

定期清掃（収蔵庫廊下），6 回。

特別清掃（民俗収蔵庫 1・2）。

特別清掃（トラックヤード・交流室窓）。

生物環境調査，トラップ設置・回収，3 回。

標本害虫の同定，2 回。

空中浮遊菌調査。

Ph 測定（7 箇所）。

乳剤散布，2 回。

リニューアル工事に伴う図書移動，作業協力，2 回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2018 年 3 月 20 日～5 月 27 日，明治 150 年記念関連事業 トピック展示 「近江水産図譜」の世界—明治期の琵琶湖漁撈，準備・展示。

2018 年 3 月 20 日，明治 150 年記念関連事業 トピック展示 「近江水産図譜」の世界—明治期の琵琶湖漁撈，解説書製作・デザイン。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年10月10日，第11回資料保存シンポジウム，情報保存研究会・公益社団法人日本図書館協会，一橋大学一橋講堂中会議場(東京都千代田区)，研修・報告書作成。

2017年11月1日，平成29年度画像保存セミナー，一般社団法人日本写真学会，東京都写真美術館(東京都目黒区)，研修・報告書作成。

【館外の活動】

2017年5月20日，集まれ！愛岐の里山たいけん隊～春の里山にいこう！～，「なごや環境大学」実行委員会・愛岐処分場，運営補助。

2017年11月18日，集まれ！愛岐の里山たいけん隊～秋の里山にいこう！～，「なごや環境大学」実行委員会・愛岐処分場，運営補助。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2017年4月16日、お祭り見学会～ヨシ松明ができるまで、見学会、円山神社（滋賀県近江八幡市）、運営。
2017年8月24日、民俗収蔵庫の見学、博物館実習、琵琶湖博物館、案内。

視察対応

2017年5月14日、民俗収蔵庫の見学、大東市立歴史民俗資料館。
2017年6月18日、民俗収蔵庫の見学、京都文教大学。
2017年6月25日、民俗収蔵庫の見学、京都造形芸術大学。
2017年6月26日、漁撈用具現地確認調査、文化庁。
2017年6月27日、漁撈用具現地確認調査、文化庁。
2017年9月25日、漁撈用具現地確認調査、文化庁。
2017年9月26日、漁撈用具現地確認調査、文化庁。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈資料、受入対応、3件。
環境収蔵庫資料、貸出対応、2件
民俗収蔵庫資料、特別観覧対応。
無形民俗文化財調査・聞き取り、調査・記録、6件。
有形民俗文化財調査・聞き取り、調査・記録、7件。
定期清掃（収蔵庫廊下）、6回。
定期清掃（B展示室）、18回。
民俗収蔵庫クリーニング業務対応。
B展示室大掃除。
産業廃棄物処理作業。
生物環境調査、トラップ設置回収（民俗収蔵庫1・民俗収蔵庫2・環境収蔵庫）、3回。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年7月15日～11月19日、第25回企画展示「小さな淡水生物の素敵な旅」、原稿作成補助、準備。
2017年9月27日、「区有文書」の整理体験！、展示交流員フィールド研修、南津田公民館（滋賀県近江八幡市）、運営。
2018年3月20日～5月27日、トピック展示 明治150年記念関連事業、『近江水産図譜』の世界 ー明治期の琵琶湖漁撈、準備。

【広報営業活動】

倶楽部 LBM 会員限定イベント「漁師さんで行くエリ漁ツアー」、2017年6月4日、守山市地近・琵琶湖博物館、運営補助。
倶楽部 LBM 会員限定イベント「漁師さんで行くエリ漁ツアー」、2017年6月18日、守山市地近・琵琶湖博物館、運

営補助.

アトリウムコンサート 私たちが奏でる琵琶湖の響き, 2017年11月23日, 琵琶湖博物館, 司会・運営補助.

【新琵琶湖博物館創造室活動】

第2期リニューアル おとなのディスカバリー, 漁具制作映像の撮影, 2018年1月23日・3月20日, 立ち会い.

名誉学芸員
特別研究員

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉 (2017) 宍道湖のヤマトシジミに想う. 第7回全国シジミシンポジウムin松江講演要旨集, 日本シジミ研究所: 1-4.
- 川那部浩哉 (2018) 京一中・洛北高 (一九四五～四八) のころ. 京一中記念誌編集委員会 編, むかし京都の一中生, 京一中洛北高校同窓会: 396-409.
- 川那部浩哉 (2018) 2017年読書アンケート. みすず, 60 (1), みすず書房: 66.
- 川那部浩哉 (2018) 名越さんと私. 名越誠先生を偲ぶ会実行委員会 編, 名越誠先生を偲んで, 名越誠先生を偲ぶ会実行委員会, 6-7.
- 川那部浩哉 (2018) ヒトと災害の関係を見直す. 京都新聞, 京都新聞社, 2月3日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会への参加】

- 川那部浩哉 (2017年5月27日～28日) 安曇野視察会, 柿田川生態系研究会, 蓼川遊水池・リビング安曇野 (長野県安曇野市).
- 川那部浩哉 (2017年6月17日) 湖沼研究と地球環境: 河合崇敬博士退職記念シンポジウム, バイカル日本委員会, 京都府立大学稲盛会館 (京都市).
- 川那部浩哉 (2017年9月15日～18日) 日本魚類学会評議員会・年会, 日本魚類学会, 北海道大学函館キャンパス (函館市).
- 川那部浩哉 (2017年11月1日～2日) 河川生態学術研究会諏訪湖・天竜川上流現地調査会, 河川生態学術研究会, 諏訪湖とその放出口・小渋ダムとその土砂BPトンネル (長野県諏訪市・岡谷市・松川町) など.
- 川那部浩哉 (2017年11月4日) 柿田川生態系研究会・公開シンポジウム, 柿田川生態系研究会, 三島商工会議所 (静岡県三島市).
- 川那部浩哉 (2017年11月20日) 河川生態学術研究会研究発表会, 河川生態学術研究会, 浜離宮朝日ホール (東京都).
- 川那部浩哉 (2018年1月14日) 河川生態学術研究会運営委員会, 河川生態学術研究会, リバーフロント研究所 (東京都).
- 川那部浩哉 (2018年3月7日) 河川生態学術研究会委員会, 河川生態学術研究会, コンベンションホール AP 浜松町 (東京都).
- 川那部浩哉 (2018年3月15日～18日) 日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 生き物文化誌学会, 評議員.
- International Journal of Ecology and Environmental Biology, 編集顧問.
- Environmental Biology of Fishes, 編集顧問.
- 応用生態工学会, 名誉会員.
- DIVERSITAS (生物多様性科学国際共同計画) 科学委員会, 顧問.
- 日本魚類学会, 評議員.

日本生態学会, 名誉会員.
Hydrobiologia, 編集顧問.
Brazilian Journal of Biology, 編集顧問.
リバーフロント研究所河川・海岸環境機能等検討委員会, 委員.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2017年4月20日, 地球環境関西フォーラム, 地球環境関西フォーラム企画委員会, リーガロイヤルNCB(大阪市北区), 提言.
- 2017年4月25日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会総会, 職員会館かもがわ(京都市中京区), 提言.
- 2017年4月28日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会淀川毛馬堰・淀川大堰アユ遡上状態調査会, 国土交通省近畿地方整備局毛馬事務所(大阪市都島区), コメント.
- 2017年5月15日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 渋谷区文化総合センター大和田(東京都), 提言.
- 2017年5月16日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社(京都市中京区), 提言.
- 2017年6月16日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社(京都市中京区), 提言.
- 2017年9月6日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都港区), 提言.
- 2017年9月13日, 二風谷アイヌ文化博物館・萱野茂二風谷アイヌ資料館, 二風谷アイヌ文化博物館・萱野茂二風谷アイヌ資料館見学会, 二風谷アイヌ文化博物館・萱野茂二風谷アイヌ資料館(北海道平取町).
- 2017年9月25日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 渋谷フォーラム=エイト(東京都渋谷区), 提言.
- 2017年9月29日, 京都自然史博物館の会, 京都自然史博物館懇談会, 京都大学防災研究所(宇治市), 提言.
- 2017年10月14日~15日, 京の川の恵みを活かす会, 京の川の恵みを活かす会研究会, 京都大学防災研究所宇治川オープン=ラボラトリー(京都市伏見区), 提言.
- 2017年11月11日, 京の川の恵みを活かす会, 木津川護岸の会, 木津川玉水橋付近(京都府京田辺市), 提言.
- 2017年11月18日~19日, 全国シジミシンポジウム, くにびきメッセ(島根県松江市), 講演・提言.
- 2017年11月25日, 自然保護助成基金, 助成成果発表会・理事会, アーバンネット神田カンフェランス(東京都千代田区), 提言・コメント.
- 2017年12月2日, 京の川の恵みを活かす会, 木津川護岸の会, 木津川玉水橋付近(京都府京田辺市), 提言.
- 2017年12月10日, 自然と緑, 自然大学: 水域生態系—水と生きる, 近畿中国森林管理局(大阪市北区), 講演.
- 2018年1月25日, 日本自然保護協会, 日本自然保護協会参与会, 日本自然保護協会(東京都中央区), 提言.
- 2018年2月7日, 世界自然保護基金ジャパン, 世界自然保護基金ジャパン理事会, 世界自然保護基金ジャパン(東京都港区), 提言.
- 2018年3月9日, 京都新聞社会福祉事業団, 京都新聞社会福祉事業団理事会, 京都新聞社(京都市中京区), 提言.
- 2018年3月12日, 自然保護助成基金, 自然保護助成基金理事会, 渋谷区文化総合センター大和田(東京都), 提言.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2017年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.
2017年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【海外渡航】

2017年4月1日～12日、北・中部イタリアの自然と文化に関する調査研究。

【館外の活動】

朝日21関西スクエア，会員。
生き物文化誌学会，評議員。
石垣島白保に空港を作らせない会，会員。
応用生態工学会，名誉会員。
環境問題研究会，会員。
九条科学者の会，会員。
京都新聞社会福祉事業団，理事。
京都創成百人委員会，委員。
京都文化芸術会議，委員。
京の川の恵みを活かす会，顧問。
魚類自然史研究会，会員。
黒潮実感センター，会員。
国際生物学賞委員会，委員。
子どもと川とまちのフォーラム，顧問。
自然と緑「自然大学」，教授。
自然保護助成基金，理事。
世界自然保護基金ジャパン，理事。
地球環境関西フォーラム企画委員会，委員。
地球環境関西フォーラム生物多様性部会，委員。
地球環境関西フォーラム100人委員会，委員。
長良川河口堰に反対する会，会員。
長良川市民学習会，会員。
日本魚類学会，評議員。
日本自然保護協会，参与。
日本生態学会，名誉会員。
日本陸水学会，会員。
水俣病センター相思社，会員。
水俣フォーラム，会員。
八重山白保の海を守る会，会員。
リバーフロント研究所河川・海岸環境機能等検討委員会，委員。

印刷物

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2017) 木製品. 下之郷遺跡関連発掘調査報告書Ⅲ 第23次調査報告書, 滋賀県守山市教育委員会: 47-49.

【一般向けの著作】

山川千代美・神谷悦子・布谷知夫 (2017) 滋賀県犬上郡多賀町四手産の大型植物化石に基づく古植生. 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト事務局・高橋啓一 編, 多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書 180-190 万年前の古環境を探る, 多賀町教育委員会: 27-37.

布谷知夫 (2017) 自然観察のテーマ 116 鶴殿のヨシふたたび, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会機関誌じねんじよ, 118, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-3.

布谷知夫 (2017) 春の鶴殿ヨシ原観察会. NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会機関誌じねんじよ, 119, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 5.

布谷知夫 (2017) 文化財保護 未来への責務 ((聞き取り). しんぶん赤旗, 6月23日.

布谷知夫 (2017) 三重県総合博物館: MieMu における企業とのパートナー事業. 博物館研究, 52 (12): 10-13.

布谷知夫 (2017) 地球規模の貢献に注目 SOKA の世界を見つめて. 聖教新聞, 9月22日.

布谷知夫 (2017) 鶴殿ヨシ原の保全. 自然保護, 561, NACS-J 日本自然保護協会: 16.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

布谷知夫 (2017年12月9日) 研究会の経過. 日本ミュージアム・マネジメント学会ミッション・マネジメント研究会 平成29年度第2回研究会, 國學院大學 (東京都), [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会役員・雑誌編集委員, 2017年4月~2018年5月.

全日本博物館学会, 会長, 2017年6月~2018年3月.

博物館学雑誌, 査読, 2件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2017年6月11日, 瀬田公園の植物観察, 琵琶湖博物館植物観察物はしかけ活動, 瀬田公園・滋賀県大津市, 講師.

2017年11月5日, 守山市地球市民の森の植物観察, 琵琶湖博物館植物観察はしかけ活動, 守山市地球市民の森・滋賀県, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

- 2017年6月24日, 博物館と共に学ぶボランティア, 九州国立博物館を愛する会, 九州国立博物館(福岡県太宰府市).
- 2017年7月1日, 開会のあいさつ, 全日本博物館学会第42回総会, 琵琶湖博物館.
- 2017年8月11日, 植物観察会, 企画展「森ーいのちのかたち」関連事業, ベルナール・ビュフェ美術館, クレマチスの丘(静岡県長泉町).
- 2017年9月6日, 博物館とエドゥケーター, 第7回文化庁エドゥケーター養成講座, 東京都美術館(東京都台東区).
- 2017年9月6日, エドゥケーター養成講座で期待すること, 第7回文化庁エドゥケーター養成講座, 東京都美術館(東京都台東区).
- 2017年10月8日, 自然観察の視点～森を通じて自然の仕組みを見に行こう～, 第529回自然観察指導員講習会・滋賀県, 日本自然保護協会, 滋賀県希望ヶ丘文化公園青年の城(竜王町).
- 2017年10月8日, 自然の観察～自然観察会と指導員の役割～, 第529回自然観察指導員講習会・滋賀県, 日本自然保護協会, 滋賀県希望ヶ丘文化公園青年の城(竜王町).
- 2017年10月9日, 自然観察の素材, こんなテーマで自然を観察しよう～, 第529回自然観察指導員講習会・滋賀県, 日本自然保護協会, 滋賀県希望ヶ丘文化公園青年の城(竜王町).
- 2017年10月18日, 博物館の地域社会との関係, JICA課題別研修「博物館とコミュニティ開発」コース, 国際協力事業団関西国際センター, 国立民族学博物館(大阪府吹田市).
- 2017年11月3日, 大型植物化石(木材)観察, 滋賀県立米原高校地学部, 琵琶湖博物館.
- 2017年11月11日, 博物館ボランティアと生涯学習の役割, 京都市教育委員会・京都博物館連絡協議会, 京都学校歴史博物館(京都市).
- 2017年12月6日, 香川県立ミュージアムの運営方針への意見, 第3回意見交換会, 香川県立ミュージアム(高松市).
- 2017年12月13日, 博物館の社会的役割, 文化庁ミュージアム・マネージメント研修, 東京国立博物館附属黒田記念館(東京都台東区).
- 2018年1月18日, 博物館の教育事業に対する意見, 堺市立博物館, 文化庁(東京都千代田区).
- 2018年2月2日, 展示室プログラムつくりのまとめ, 文化庁ミュージアム・エドゥケーター研修, 文化庁, 葛飾区郷土と天文の博物館(東京都).
- 2018年2月4日, 自然観察会と台所の自然観察, ネイチャーサイエンス・カフェ vol.2, 大阪自然環境保全協会, 千里北公園(大阪府吹田市).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

- 2017年4月1日～2018年3月31日, 琵琶湖博物館名誉学芸員.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, 琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

- 2017年3月31日～2018年3月31日, 放送大学「博物館概論」, 担当講師.
- 2017年4月1日～2018年9月30日, 国立三重大学非常勤講師, 博物館資料論担当.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, 文化庁研修企画運営委員会, 座長.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会, 会長.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, タカラホールディング助成評価委員会, 委員.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, 国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会, 委員.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, 守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会, 委員.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, 日本ヨシ笛協会, 顧問.
- 2017年4月1日～2018年3月31日, 関西自然保護機構, 監事.

2017年4月1日～2018年11月31日，鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会，委員。
2017年4月1日～2018年11月31日，鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会植物ワーキンググループ，委員。
2017年12月1日～2018年3月31日，鶺鴒ヨシ原の筆筈用ヨシに関するモニタリングワーキンググループ，委員。
2017年4月1日～2018年3月31日，NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会，顧問。
2017年4月1日～2018年3月31日，自然観察指導員三重県連絡会，顧問。
2017年4月1日～2018年3月31日，特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク，監事。
2017年9月1日～2018年12月31日，文部省委員。
2017年4月1日～2018年3月31日，香川県立ミュージアム展示アドバイザー。

印刷物

【学術論文】

Nakajima, T. (2018) *Comparative Studies on Pharyngeal Teeth of Cyprinids*. Tokai University Press, Tokyo: 166p.

瀧弘明・加藤 遼・渡辺智之・中島経夫 (2018) コイ (*Cyprinus carpio*) における脊椎骨・咽頭骨のサイズと体長との関係およびそれらにみられる冬輪について. *Naturalistae*, 22 : 55-60.

中島経夫・瀧 弘明 (2018) 南方遺跡出土のコイ科魚類咽頭骨 (歯) 遺存体についての続報—脊椎骨・咽頭骨の冬輪と採捕季節. *岡山市埋蔵文化財センター紀要*, 10 : 58-63.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中島経夫 (2018年3月15日) コイ科魚類咽頭歯化石からみた琵琶湖の魚類相の起源. 第65回日本生態学会シンポジウム「化石記録とDNA情報からせまる琵琶湖の生物進化」, 札幌コンベンションセンター (札幌市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 B) 「古代農耕社会の魚: 東アジアにおける養魚の成立」 (研究代表者: 中島経夫), 研究代表者 (2014~2017年度).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2017年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

名誉学芸員

特別研究員

印刷物

【学術論文】

Hori, M., Nakajima, M., Hata, H., Yasugi, M., Takahashi, S., Nakae, M., Yamaoka, K., Kohda, M., Kitamura, J. I., Maehata, M., Tanaka, H., Okada, N. and Takeuchi, Y. (2017) Laterality is universal among fishes but increasingly cryptic among derived groups. *Zool. Sci.* 34(4): 267-274. doi: 10.2108/zs160196.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2018年3月3日, 琵琶湖の環境と魚、そして人, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, びわ湖セミナー～魚介類のにぎわい復活に向けて～, コラボしが21 (滋賀県大津市), [基調講演].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会自然保護委員会, 希少淡水魚問題検討部会長, 2014年6月～2018年3月.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度, 琵琶湖博物館名誉学芸員.

2017年度, 琵琶湖博物館特別研究員.

【館外の活動】

2016年6月～2018年5月, 滋賀県環境審議会, 自然環境部会, 部会長.

2017年2月～2018年3月, 京都市文化財保護課, 外来種中国産オオサンショウウオ対策検討会, 委員.

2016年6月～2020年3月, 京都府建設交通部河川課, 畑川ダム環境保全検討委員会, 委員.

2016年9月～2018年8月, 大阪府, 環境影響評価審査会, 委員.

2010年～, ハリヨ問題検討会, 委員.

2016年11月～2017年11月, (独)水資源機構, 近畿地方ダム等管理フォローアップ委員会, 委員.

2017年5月～2018年4月, (独)水資源機構 (関西・吉野川支社), 平成29年度河川水辺の国勢調査 (ダム湖編), アドバイザー.

2017年7月～2018年3月, (独)水資源機構, 日吉ダム冷濁水対策検討会, 委員.

2015年7月～2018年6月, 環境省自然環境局, 希少野生動植物種保存推進員.

2017年10月～2018年3月, 環境省平成28年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会, 汽水淡水魚類分科会検討委員.

2017年9月～2018年3月, 環境省, 琵琶湖における底層溶存酸素量類型指定検討会, 委員.

2011年4月～, 神戸学院大学人文学部, 教授.

名誉学芸員

特別研究員

印刷物

【学術論文】

用田政晴（2017）博物館連携に向けた洞庭湖・琵琶湖調査と方向性. *淡海文化財論叢*, 9, 淡海文化財論叢刊行会 : 280-285.

【一般向けの著作】

用田政晴（2018）湖上交通史. *琵琶湖ハンドブック（三訂版）*, 滋賀県 : 54-55.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

文化庁文化遺産総合活用推進事業（文化芸術振興費補助金）「学校収蔵民具の再発見事業」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2017年度）.

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」（研究代表者：用田政晴），研究代表者（2017年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構，代表.

日本民具学会，評議員.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

同志社大学政策学部，嘱託講師.

立命館大学文学部，授業担当講師.

京都造形芸術大学芸術学部，非常勤講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2017年度，琵琶湖博物館名誉学芸員.

2017年度，琵琶湖博物館特別研究員.

【海外渡航】

2018年1月27日～2月4日，イタリア フィレンツェ・ローマ・ナポリ市，大学・博物館資料・遺跡調査.

【館外の活動】

滋賀県立安土城考古博物館，多言語化検討ワーキング会議，委員長.

名勝青岸寺庭園調査，指導委員会，委員.

稲部遺跡群調査検討委員会，委員長.

文化庁文化遺産総合活用推進事業，学校収蔵民具の再発見事業実行委員会，委員長.

名誉学芸員
特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

International Commission on Zoological Nomenclature (2017) OPINION 2395 (Case 3644) - *Belostoma ellipticum* Latreille, 1817 (Insecta, Heteroptera, Belostomatidae): a neotype designated. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 74, International Commission on Zoological Nomenclature : 50-52 [特にグライガー委員の意見 : 51].

中野隆文・Mark J. Grygier (2018) あなたの電子出版物は適格? -2012年9月の規約改正を今一度振り返る-. タクサー日本動物分類学会誌一, 44, 日本動物分類学会 : 64-68.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Grygier, M. J. and Kusuoka, Y. (2017年8月22日) The role of Japan's Lake Biwa Museum in environmental education. 2017 International Symposium of Aquarium Science and Conservation of Aquatic Ecology and Biodiversity, Chao-Jing Ocean Center, National Museum of Marine Science and Technology (Keelung, Taiwan), [口頭発表].

Tachikawa, H., Grygier, M. J. and Cairns, S.D. (2017年8月22日) Live specimens of the parasite *Petrarca madreporae* (Crustacea: Ascothoracida) from the deep-water coral *Madrepora oculata* in Japan, with remarks on the development of its spectacular galls. 2017 International Symposium of Aquarium Science and Conservation of Aquatic Ecology and Biodiversity, Chao-Jing Ocean Center, National Museum of Marine Science and Technology (Keelung, Taiwan), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『「田んぼの生きもの全種リスト」の増補更新と公開システムの構築』(研究代表者: 大塚泰介), 共同研究者 (2017年度~2020年度).

(デンマーク)VILLUM FONDEN, VILLUM Experiment 「The adult Y-animal - a 100+ year old enigma in marine biology」(研究代表者: Jørgen Olesen), 共同研究者 (2017年度~2019年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, *Zoosystematica Rossica*, Editorial Board.

国立科学博物館, *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 編集委員.

The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 8件.

Springer, *Systematic Parasitology*, Associate Editor, 査読, 2件.

動物命名法国際審議会, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 査読, 5件.

Public Library of Science, *PLOS ONE*, 査読, 1件.

Southern California Academy of Sciences, *Bulletin of the Southern California Academy of Sciences*, 査読, 1件.

Senckenberg Gesellschaft für Naturforschung, *Marine Biodiversity*, 査読, 1件.

Elsevier, *Deep-Sea Research Part I: Oceanographic Research Papers*, 査読, 1件.

【受賞など】

2017年6月3日，日本動物分類学会，名誉会員に任命された。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

2017年7月15日～17日，はしかけ「田んぼの生き物調査グループ」，標本同定。

館内人事、館外活動等に関すること

【館内の活動】

2017年度，琵琶湖博物館名誉学芸員。

2017年度，琵琶湖博物館特別研究員。

【館外の活動】

2017年4月20日～2017年6月2日，国立臺灣海洋大學海洋中心，客員研究員。

2017年6月3日～2017年9月30日，国立臺灣海洋大學海洋中心，研究員。

2017年10月1日～，国立臺灣海洋大學海洋中心，専案助理研究員。

2018年1月8日～2018年1月27日，(デンマーク)コペンハーゲン大学 デンマーク自然史博物館(動物学博物館)，
Y幼生に関するプロジェクト研究。

2017年11月15日更新，(米国)スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員。

(米国)ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部(無脊椎動物学研究科)，協力研究員。
動物命名法国際審議会，委員。

印刷物

【学術論文】

天野一葉 (2017) ヒガシヒゲガビチョウ *Garrulax cinereiceps* の四国への侵入と分布拡大. *山階鳥学誌*, 49: 1-7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

天野一葉 (2017年9月16日) 外来種ソウシチョウの分布拡大と集団の遺伝的構造. 日本鳥学会 2017年度大会, 日本鳥学会, 筑波大学 (茨城県つくば市), [ポスター発表].

天野一葉 (2018年1月19日) 外来鳥類ソウシチョウの分布拡大と集団の遺伝的構造. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2018年1月2日, 新春!びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 副担当.

2018年1月3日, 新春!びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 副担当.

2018年1月6日, 新春!びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 副担当.

2018年1月7日, 新春!びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 副担当.

2018年1月8日, 新春!びわ博カルタ大会, 琵琶湖博物館, 副担当.

印刷物

【一般向けの著作】

池田勝 (2017) ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」. はしかけニューズレター, 琵琶湖博物館, 6 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2017 年 4 月 19 日～2018 年 3 月 21 日, ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」, はしかけ活動, 琵琶湖博物館, 企画広報運営, 11 件.

2017 年 7 月 8 日, はしかけ活動 ちっちゃなこどものしぜんあそび「ちこあそ」, びわ博フェス, 琵琶湖博物館, 企画運営.

他の博物館・機関等主催行事

2017 年 8 月 24 日, 身近な自然の見つけ方 びわはくビンゴ, 守山市生涯学習課, 子育て・親育ち講座, 琵琶湖博物館, 運営.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日, レンジャーマネージャー, パシフィックコンサルタンツ株式会社, ウォーターステーション琵琶(大津市), 河川環境活動の支援・運営, 144 件.

2017 年 4 月 16 日～2018 年 3 月 11 日, にちようの森, せた♪森のようちえん, 子どもの自然体験活動, 運営, 13 件.

2017 年 4 月 20 日～2018 年 3 月 23 日, 環境学習講師, 大津市立下阪本小学校, 社会人活用, 自然体験・環境学習 1 年生～6 年生, 70 件.

2017 年 4 月 21 日, 講演「琵琶湖学習オリエンテーション」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2017 年 4 月 28 日, ワークショップ「今年度の方向性について」, 県立守山高校, スーパーグローバルハイスクール「あまが池プラザホテル再生プロジェクト」, 県立守山高校(滋賀県守山市), ファシリテーター.

2017 年 5 月 10 日, 講演「琵琶湖学習」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2017 年 5 月 17 日, 講演「十禅寺川調査計画」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2017 年 5 月 23 日, 実習「伯母川探検」, 草津市立志津南小学校, 総合学習, 草津市立志津南小学校(滋賀県), 講師.

2017 年 5 月 23 日, 実習「十禅寺川調査」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2017 年 5 月 31 日, 講演「十禅寺川調査のまとめ」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校(滋賀県), 講師.

2017 年 6 月 7 日, 実習「水生生物に触れる」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校(滋賀県), 講

師.

- 2017年6月9日, 実習「魚類の解剖実習」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校 (滋賀県), 講師.
- 2017年6月14日, 講演「解剖のまとめ」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校 (滋賀県), 講師.
- 2017年6月18日, 冒険キッズ in 雪野山, 環境レイカーズ, 小学生の自然体験型環境学習, 雪野山歴史公園 (滋賀県東近江市), 運営, 14件.
- 2017年6月27日, ワークショップ「ホテルの飛翔調査のまとめ」, 県立守山高校, スーパーグローバルハイスクール「あまが池プラザホテル再生プロジェクト」, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.
- 2017年7月5日, 講演実習「滋賀の食」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校 (滋賀県), 講師.
- 2017年7月7日, 講演「体験のまとめ」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校 (滋賀県), 講師.
- 2017年7月22日～8月1日, 西表島エコツアー, かごしま子どもと自然研究所, 西表島 (沖縄県), 運営.
- 2017年7月30日～12月25日, 滋賀県子ども県議会運営事業, 環境レイカーズ滋賀県子ども・青少年局, 子どもの権利活動, 企画広報運営, 7件.
- 2017年8月8日～8月11日, 椋川ビレッジキャンプ, 環境レイカーズ, 地域体験学習, 企画運営広報.
- 2017年8月21日～8月23日, 椋川ビレッジキャンプ, 環境レイカーズ, 地域体験学習, 企画運営広報.
- 2017年9月12日, 交流「ミシガン州環境団体との交流発表」, 県立守山高校, スーパーグローバルハイスクール「あまが池プラザホテル再生プロジェクト」, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.
- 2017年9月28日, 講演「琵琶湖ってどんな湖」, 大津市立真野北小学校, 総合学習, 真野北小学校 (滋賀県), 講師.
- 2017年10月10日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 大津市立比良保育園 (滋賀県), 講師, 2件.
- 2017年10月25日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 野洲市立さくらばさま保育園 (滋賀県), 講師, 2件.
- 2017年10月26日, 幼児自然体験型環境学習, 環境レイカーズ滋賀県琵琶湖保全再生課, 幼児自然体験型環境学習運営事業, 栗東市立大宝幼稚園分園 (滋賀県), 講師, 2件.
- 2017年10月17日, 幼児期環境学習の推進事業, 環境レイカーズ滋賀県環境政策課, 幼児期環境学習の推進事業, 四国大学附属子ども園 (徳島県徳島市), 講師.
- 2017年11月24日, 「ESD つながり学習発表会」, 草津市立玉川中学校, ESD つながり学習, 玉川中学校 (滋賀県), 講師.
- 2018年1月11日, 幼児期環境学習の推進事業, 環境レイカーズ滋賀県環境政策課, 幼児期環境学習の推進事業, 柱本保育園未来学舎 (大阪府高槻市), 講師.
- 2018年1月31日, 幼児期環境学習の推進事業, 環境レイカーズ滋賀県環境政策課, 幼児期環境学習の推進事業, 清水台幼稚園 (京都府京都市), 講師.
- 2018年2月11日, 椋川ビレッジキャンプ, 環境レイカーズ, 地域体験学習, 企画運営広報小学生9名.
- 2018年2月16日, ワークショップ「今年度活動のふりかえり」, 県立守山高校, スーパーグローバルハイスクール「あまが池プラザホテル再生プロジェクト」, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.
- 2018年2月21日, 幼児期環境学習の推進事業, 環境レイカーズ滋賀県環境政策課, 幼児期環境学習の推進事業, 堺市立宮山台こども園 (大阪府堺市), 講師.
- 2018年2月26日, 幼児期環境学習の推進事業, 環境レイカーズ滋賀県環境政策課, 幼児期環境学習の推進事業, なごみ保育園認定こども園 (京都府木津川市), 講師.
- 2018年3月8日, 実習「吉川川バース工施工」, 県立守山高校, スーパーグローバルハイスクール「あまが池プラザホテル再生プロジェクト」, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.
- 2018年3月15日, 実習「吉川川ホテルの放流」, 県立守山高校, スーパーグローバルハイスクール「あまが池プラザホテル再生プロジェクト」, 県立守山高校 (滋賀県守山市), ファシリテーター.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

岩木真穂（2017年11月18日）琵琶湖の長期的な水位変動解析．陸水物理研究会，奈良教育大学（奈良市），[ポスター発表]．

岩木真穂（2017年12月9日）琵琶湖の水位変動について一静振ならびに河川流出による水位応答．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

環境省環境研究総合推進費「琵琶湖における有機物収支の把握に関する研究」（研究代表者：早川和秀），研究補助（2017年度）．

【受賞など】

陸水物理研究会優秀発表賞，2017年11月18日，「琵琶湖の長期的な水位変動解析」．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2017年6月3日，節人先生と「いのちの響き」を長岡京室内アンサンブル演奏会，生命誌研究館（大阪府高槻市），表現セクタースタッフ．

2017年9月12日，子ども博物館，京都大学総合博物館，京都大学総合博物館（京都市），スタッフ．

2017年12月16日，生命誌オープンラボ，生命誌研究館（大阪府高槻市），表現セクタースタッフ．

2018年3月18日，展示解説&ハンズオン ゲノムから「生きている」を考えよう，生命誌研究館（大阪府高槻市），表現セクタースタッフ．

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業「種苗生産における女性熟練労働に関する社会学的研究」（研究代表者：柏尾珠紀），研究代表者（2017年度～2019年度）.

滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト「琵琶湖愛知川流域の地域間交流による持続可能な農村づくり」（研究代表者：柏尾珠紀），研究代表者（2017年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

メディアへの協力

2018年3月28日，中日新聞，湖国の食シリーズ 菜花，取材協力.

2018年3月30日，KBS 京都ラジオ，近江美味しもの 春の食材菜花について，出演.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2014年7月～，守山ほたるパーク&ウォーク実行委員会，委員.

2015年6月～，京都府日本型直接支払制度支援委員会，委員.

2015年10月～，滋賀県緑化推進会，委員.

2016年6月～，認定NPO法人びわこ豊穰の郷，理事.

印刷物

【学術論文】

川瀬成吾・石橋 亮・内藤 馨・山本義彦・鶴田哲也・田中和大・木村亮太・小西雅樹・上原一彦 (2017) 淀川における外来魚類の生息状況. *保全生態学研究*, 22 : 199-212.

【専門分野の著作】

川瀬成吾 (2017) ズナガニゴイ、ゼゼラ、ヨドゼゼラ. 奈良県レッドデータブック改定委員会 編, *奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版*, 奈良県.

川瀬成吾 (2017) カマツカ亜科の一部・ナマズ属など 13 種. 中坊徹次 編監, *日本魚類館*, 小学館.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

川瀬成吾・岡田龍也・北川忠生 (2017 年 9 月 16 日) アジメドジョウ タイプ標本の再発見とトボタイプの形態的・遺伝的特徴. 第 50 回日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 北海道大学 (函館市), [ポスター発表].

小田優花・川瀬成吾・上原一彦 (2017 年 9 月 16 日) イタセンパラの発育段階. 第 50 回日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 北海道大学 (函館市), [ポスター発表].

加藤善一郎・中田浩平・神志那弘明・川瀬成吾・富永浩史 (2017 年 11 月 18 日) 生物の形を読むー新規マクロ 3D 形態定量解析法開発ー. 第 65 回魚類自然史研究会, 龍谷大学 (滋賀県大津市), [口頭発表].

小西雅樹・高松真也・山田卓也・坂本淳登・川瀬成吾・細谷和海 (2018 年 3 月 10 日) 近畿地方におけるコクチバスの分布現況. 第 66 回魚類自然史研究会, 近畿大学 (奈良市), [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

魚類自然史研究会, 第 65 回魚類自然史研究会龍谷大学瀬田大会, 2017 年 11 月 18~19 日, 幹事・事務局.

魚類自然史研究会, 第 66 回魚類自然史研究会近畿大学農学部大会, 2018 年 3 月 10~11 日, 幹事・事務局.

Zootaxa, 査読, 1 件.

日本魚類学会, Ichthyological Research, 査読, 1 件.

印刷物

【一般向けの著作】

北村美香 (2017) 公害資料館連携フォーラムに思うこと. *クベラ*, 144, あおぞら財団: 4.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

原田雅子・北村美香 (2017年7月2日) 展示物の写真とことばの組み合わせによるプログラムにおける博物館展示評価への可能性を探る. 第43回全日本博物館学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

北村美香 (2017年11月17日) 展示物の写真とことばの組み合わせによるプログラムにおける博物館展示評価への可能性を探る. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業 (基盤 C) 「幼児と教員のミュージアム・リテラシーを育てる学習支援ツールの開発とその効果の検証」 (研究代表者: 釋 知恵子), 研究協力者 (2015年度~2017年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会, 事務局幹事.

博物館学雑誌, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年4月~9月, 三重大学生物資源学科, 「博物館情報、メディア論」非常勤講師.

2017年9月~3月, びわこ学院大学子ども学科, 「滋賀の環境」(5回), 特別講師.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2018年1月14日, びわはくアルバムを作ろう!, 博物館で楽しもう!, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月29日, ヨシ笛をつくろう, 滋賀県湖岸緑地公園, ゴールデンウィークイベント, 滋賀県湖岸緑地公園 (草津市、野洲市), 講師.

2017年4月30日, ヨシ笛をつくろう, 滋賀県湖岸緑地公園, ゴールデンウィークイベント, 滋賀県湖岸緑地公園 (彦根市), 講師.

2017年5月3日, チリモンキーホルダーを作ろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年5月4日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, ゴールデンウィークイベント, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年5月5日, ヨシ笛をつくろう, 草津川跡地公園, ゴールデンウィークイベント, 草津川跡地公園 (滋賀県草津市), 講師.

2017年6月18日~19日, 展示の新たな視点について, 沖縄県立博物館・美術館, 博物館関係者研修, 沖縄県立博物館・美術館 (那覇市), 講師.

2017年7月1日, 苔玉をつくろう, 川瀬公民館, いきいき教室, 川瀬公民館 (滋賀県彦根市), 講師.

2017年7月16日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 水辺の匠, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年7月17日, 缶バッジをつくろう, 博物館夏まつり実行委員会, 博物館夏まつり, ビバシティ彦根 (滋賀県彦根市), 講師.

2017年7月22日, 昆虫観察会, 滋賀県湖岸緑地公園, 夏休み子どもイベント, 滋賀県湖岸緑地公園 (野洲市), 講師.

2017年7月23日, 昆虫観察会, 滋賀県湖岸緑地公園, 夏休み子どもイベント, 滋賀県湖岸緑地公園 (彦根市), 講師.

2017年7月27日~28日, 昔の水遊びを調べよう, TANAKAMI 子どもクラブ, 夏のお泊り活動, 西明寺 (滋賀県大津市), 講師.

2017年7月29日チリモンキーホルダーをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年7月30日, プランクトン観察会, 滋賀県湖岸緑地公園, 夏休み子どもイベント, 滋賀県湖岸緑地公園 (彦根市), 講師.

2017年8月6日, 子どもワークショップ, 鯨と海の科学館, リニューアルオープンイベント, 鯨と海の科学館 (岩手県山田町), 講師.

2017年8月19日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年8月26日, ヨシ笛をつくろう, 草津市立草津川跡地公園, 夏休み子どもイベント, 草津市立草津川跡地公園 (滋賀県), 講師.

2017年9月16日, お魚カードをつくろう, アクアマリンふくしま, アクアマリンこどもまつり, アクアマリンふくしま (福島県いわき市), 講師.

2017年9月30日, ヨシ笛をつくろう, 滋賀県湖岸緑地公園, 秋の公園イベント, 滋賀県湖岸緑地公園 (草津市), 講師.

2017年10月1日, ヨシ笛をつくろう, 滋賀県湖岸緑地公園, 秋の公園イベント, 滋賀県湖岸緑地公園 (彦根市), 講師.

2017年10月14日, 赤江の宝物拝見!, 小戸之橋ストリートフェスティバル, 赤江地域まちづくり推進委員会 (宮崎市), 講師.

2017年11月3日, うしにまつわる工作コーナー, 奥州市牛の博物館, あそんでまなぼう! うしはく探検隊, 奥州市牛の博物館 (岩手県), 講師.

2017年11月23日, ヨシ笛をつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年12月3日, エコ缶バッジをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 水辺の匠, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2017年12月23日, 川のいきものカレンダーをつくろう, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶, 子ども水辺教室, 水のめぐみ館ウォーターステーション琵琶 (滋賀県大津市), 講師.

2018年1月20日, 子どもワークショップ, 南三陸ネイチャーセンター友の会, 南三陸町ラムサール条約シンポジウム, 南三陸ベイサイドアリーナ (宮城県南三陸町), 講師.

2018年1月21日, ちりめんモンスターをさがせ! 5, 大船渡市立博物館, 平成29年度大船渡市立博物館教育普及事業, 大船渡市立博物館 (岩手県), 講師.

2018年3月3日, アルバムディクショナリーワークショップ, 新潟県立歴史博物館, 職員研修, 新潟県立歴史博物館 (長岡市), 講師.

メディアへの協力

2017年4月7日、京都新聞、川の記憶まちづくりに。
2017年6月20日、朝日新聞、懐かしい昭和の琵琶湖。
2018年3月1日、朝日新聞、懐かしの瀬田川写真40点。
2018年3月4日、読売新聞、瀬田川流域暮らしの記憶。
2018年3月17日、京都新聞、瀬田川の思い出一冊に。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2017年7月1日～30日、集う・使う・創る新空間 生活写真「河川のある暮らし ー河川と暮らした地域の記憶ー」,
主催。
2018年1月14日、びわはくアルバムをつくろう、交流員研修、琵琶湖博物館、講師。

他博物館・機関の活動

播州清水寺（兵庫県加東市）、2017年11月1日～11月30日、展示監修。
京都国立博物館、2017年9月6日～8日、展示論講座「そこにあるモノから考える展示づくり」、講師。
水のめぐみ館アクア琵琶、2017年11月～12月、生活写真「懐かしの瀬田川写真展 ー河川と暮らした地域の記憶ー」,
主催。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2017年4月～、公害資料館ネットワーク、ネットワーク世話人。
2017年4月～、三重県総合博物館、協議会委員。
2017年4月～、三重県総合博物館、協議会評価部会委員。
2017年4月～、博物館夏祭り実行委員会、実行委員。
2017年4月～、博物館子どもワークショップ調査隊、実行委員。
2017年4月～、平成29年度子どもゆめ基金審査委員会、科学体験活動専門委員会委員。
2017年6月1日～2018年3月31日、第10回つなぐ人フォーラム実行委員会、実行委員。
2017年11月10日～11日、いきもにあ、運営スタッフチーフ。
2017年12月10日、淡海こどもエコクラブ活動交流会、選考委員。

印刷物

【学術論文】

Hoshina, R., Suzaki, T. and Kusuoka, Y. (2018) *Brandtia ciliaticola* gen. et sp. nov. (Chlorellaceae, Trebouxiophyceae) a common symbiotic green coccoid of various ciliate species. *Phycological Research*, 66: 76-81.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Hoshina, R., Kobayashi, M., Suzaki, T. and Kusuoka, Y. (2017年8月3日) Study on *Pelagovasicola*-like ciliate with sequestered diatom chloroplasts. 15th International Congress of Protistology, Hotel Pyramida, Prague, Czech Republic, [ポスター発表].

Grygier, M. J. and Kusuoka, Y. (2017年8月22日) The role of Japan's Lake Biwa Museum in environmental education, 2017 International Symposium of Aquarium Science and Conservation of Aquatic Ecology and Biodiversity. National Museum of Marine Science and Technology (NMMST), Keelung, Taiwan, [口頭発表].

鈴木隆仁・松田征也・楠岡 泰 (2017年12月11日) 琵琶湖博物館における小さな生き物たちの常設展示. 水族館の展示と研究 その相互作用を探る, 東京大学大気海洋研究所, 東京大学大気海洋研究所講堂 (千葉県柏市), [口頭発表].

Kusuoka, Y. (2018年1月31日) Making a new illustrated guide to the plankton. Co-operation between teachers and specialists. 1st KVIS Invitational Science Fair 2018, Kamnoetvidya Science Academy (KVIS), Wang Chang, Rayong, Thailand, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「微小な生物を用いた交流プログラムの開発」(研究代表者: 松田征也), 研究分担者 (2016年度~2018年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本原生生物学会, 監査委員.

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2017年6月17日, 里山探検 田んぼの生き物見つけ隊, 観察会, 朽木生杉・滋賀県高島市, 講師, (カワセミ自然の会共催・芦谷美奈子・鈴木隆仁と共同).

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2018年1月~2月, Mahidol Wittayanusorn School (タイ), Biology Department Advisor.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ミュージアム・マネージメント学会, 理事, 2015年6月～.

日本ミュージアム・マネージメント学会, ミッション・マネージメント研究部会 部会長, 2015年8月～.

日本ミュージアム・マネージメント学会, 近畿支部幹事, 2009年4月～.

全日本博物館学会, 役員, 2014年6月～.

ICOM-ICME (International Committee for Museums and Collections of Ethnography), Board member, ICME Conference Committee member, ICME Special Projects Committee member, 2016年7月～.

日本ミュージアム・マネージメント学会 第22回研究大会総会 司会および研究大会総合司会, 東京家政学院大学, 2017年6月3～4日.

日本ミュージアム・マネージメント学会 ミッション・マネージメント研究部会, 平成29年度第2回研究会「デジタル時代の著作権」, 総合司会および開催挨拶, 國學院大學学術メディアセンター棟, 2017年12月9日.

日本ミュージアム・マネージメント学会 第22回研究大会実行委員会, 実行委員, 2017年2月4日～6月30日.

日本ミュージアム・マネージメント学会 第23回研究大会実行委員会, 実行委員, 2017年12月20日～.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2012年4月～, 奈良女子大学, 「博物館教育論」.

2012年9月～, 関西学院大学, 「博物館教育論」.

2013年4月～, 奈良女子大学, 「博物館情報・メディア論」.

2015年9月～, 千葉科学大学, 「博物館教育論」.

2016年9月～, 神戸女子大学, 「博物館概論」・「博物館経営論」.

2017年4月～, 福山大学, 「博物館経営論」.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

他博物館・機関の活動

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館, 展示評価、来館者調査企画実施.

名古屋市教育委員会, 2017年3月～現在, 「歴史の里」ガイダンス施設展示にかかる指導.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2017年10月17日～19日, アメリカ (ワシントンD.C.), ICOM-ICME 2017 Conference 出席.

【館外の活動】

2003年9月～, 日本ミュージアム・マネージメント学会, 会員.

2003年9月～, 全日本博物館学会, 会員.

2005年4月～, 関西博物館研究会, 会員.

2010年10月～，日本展示学会，会員.

2012年3月～，文化遺産国際協力コンソーシアム，会員.

2014年4月～，ICOM (International Council of Museums, 国際博物館会議)，会員.

2016年12月～，東近江市博物館等運営委員会 委員.

2016年12月～2017年11月，独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会，専門委員.

2017年10月10日，国立民族学博物館 JICA 研修「博物館とコミュニティ開発」Introduction of Museum Evaluation Methods」，講師.

印刷物

【学術論文】

- Lv, Y. Y., Zhu, W., Qian, X. D. and Zhang, N. (2017) Study on “buoyancy-viscous force” of slurry-like soils. *Marine Georesources & Geotechnology*, 36. Taylor & Francis: 211-217.
- Wang, C. Y., Zhu, W., Gong, M., Su, Y. and Fan, Y. J. (2017) Influence of H₂O₂ and Ni catalysts on hydrogen production and PAHs inhibition from the supercritical water gasification of dewatered sewage sludge. *The Journal of Supercritical Fluids*, 130, Elsevier: 183-188.
- Gong, M., Nanda, S., Hunter, H. N., Zhu, W., Dalai, A. K. and Kozinski, J. A. (2017) Lewis acid catalyzed gasification of humic acid in supercritical water. *Catalysis Today*, 291. Elsevier: 13-23.
- Shu, S., Zhu, W., Wang, S. W., Ng, C., Chen, Y. M. and Chiu, A. (2018) Leachate breakthrough mechanism and key pollutant indicator of municipal solid waste landfill barrier systems: centrifuge and numerical modeling approach. *Science of the Total Environment*, 612, Taylor & Francis: 1123-1131.
- Gong, M., Wang, Y. L., Fan, Y. J., Zhu, W., Zhang, H. W. and Su, Y. (2018) Polycyclic aromatic hydrocarbon formation during the gasification of sewage sludge in sub- and supercritical water: effect of reaction parameters and reaction pathways. *Waste Management*, 72, Elsevier: 287-295.
- Wang, S. W., Zhu, W., Fei, K., Xu, C. Y. and Zhang, N. (2018) Study on non-darcian flow sand-clay mixtures. *Applied Clay Science*, 151, Elsevier: 102-108.
- 陈喜坤·朱伟·王睿 (2017) 注入初期盾构壁后注浆体的三轴试验研究. *长江科学院院报*, 34(4), 长江科学院: 140-143.
- 钱勇进·朱伟·闵凡路·杜瑞·王超 (2017) 砂卵石地层中泥膜支护土压盾构施工试验. *中国公路学报*, 30(8), 中国科学技术协会: 210-215.
- 加瑞·朱伟·闵凡路 (2017) 泥浆颗粒级配和地层孔径对泥水盾构泥膜形成的影响. *中国公路学报*, 30(8), 中国科学技术协会: 100-108.
- 吴思麟·朱伟·闵凡路·张春雷·魏代伟 (2017) 泥浆真空抽滤泥水分离中堵塞机理及规律性研究. *岩土工程学报*, 39(8), 中国科学技术协会: 1530-1537.
- 朱伟·谈永琴·王若辰·冯甘雨·陈怀民·刘毅璠 (2018) 太湖典型区 2010-2017 年间水质变化趋势及异常分析. *湖泊科学*, 30(2), 中国科学院: 296-305.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- 科学研究費助成事業(基盤 C)「*Microcystis* の群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」(研究代表者:朱 偉), 研究代表者 (2015~2017 年度).

印刷物

【学術論文】

瀬口眞司（2018）関西縄文社会の地域的特色とその背景. *国立歴史民俗博物館研究報告*, 208, 国立歴史民俗博物館：191-214.

【専門分野の著作】

瀬口眞司（2018）前期土偶の根本的性質と展開過程. *紀要*, 31, 公益財団法人滋賀県文化財保護協会：1-14.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究」
（研究代表者：橋本道範），共同研究者（2014年度～2018年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年度前期，奈良大学，博物館学「博物館経営論」.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

辻川智代（2017年7月21日）湖南の筓の製作技術－「ウエ熊」乗田宗法氏による復元製作から－，琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

高島市文化遺産活用実行委員会，朽木の知恵と技発見・復活プロジェクト参加.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「近江はたおり探検隊」，運営・ホームページ担当.

印刷物

【専門分野の著作】

寺本憲之（2018）*鳥獣害問題解決マニュアル 森・里の保全と地域づくり*. 古今書院, 東京都: 106 p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

寺本憲之（2017年5月14日）宇宙ステーションをつくるオドリハマキモドキ（ハマキモドキガ科）の幼生期. 日本鱗翅学会近畿支部 155 回例会. 日本鱗翅学会近畿支部, I-site なんば（大阪府立大学）（大阪市）, [口頭発表].

寺本憲之（2017年12月16日）*Epipsestis* 属 2 種の幼生期の比較—ニッコウトガリバ・ムラサキトガリバ（カギバガ科トガリバガ亜科）—. 関西昆虫学研究会 2017 年度大会. 日本昆虫学会近畿支部, I-site なんば（大阪府立大学）（大阪市）, [口頭発表].

寺本憲之・吉安 裕（2017年12月16日）ウスアカマダラメイガ *Acrobasis encaustella*（メイガ科）の滋賀県における発生生態と幼生期. 日本鱗翅学会近畿支部第 156 回例会. 日本鱗翅学会近畿支部, I-site なんば（大阪府立大学）（大阪市）, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本野蚕学会, 委員（評議員）, 2003 年～現在.

日本鱗翅学会, 近畿支部幹事, 2004 年～現在（本部評議員期間を除く）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017 年 6 月 5 日, 滋賀県立大学環境科学部, 公開ヒアリング「自然再生とまちづくり 衰退した養蚕業から学ぶ 滋賀県の農業を守っていくために」.

2017 年 11 月 9 日, 滋賀県立大学環境科学部, 「水資源管理学：滋賀県農業と温暖化対策」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2017 年 5 月 21 日, 虫をつかまえて絵を描こう！と昆虫観察会, 東近江森の博覧会, 東近江森の博覧会実行委員会・東近江市, 奥永源寺溪流の里（滋賀県東近江市）, 講演・指導.

2017 年 6 月 3 日, クロストーク東近江の魅力（昆虫）, 環境シンポジウム, 東近江市 SEATOSUMMIT 実行委員会, 五個荘コミュニティセンター（滋賀県東近江市）, 対談.

2017 年 6 月 10 日, 第 1 回東近江市市民参加型生物多様性調査. 平成 29 年度東近江市生物多様性調査. 特定非営利活動法人まちづくりネット東近江, 伊庭町・蒲生町（滋賀県東近江市）, 指導.

2017 年 6 月 21 日～22 日, 鳥獣被害防止対策における地域の課題抽出と普及指導方法, 農林水産省普及指導員研修 鳥獣被害防止対策支援研修（行政ニーズ対応研修）, 農林水産省, 農林水産研修所つくば館（茨城県つくば市）, 講演.

- 2017年7月12日、私たちの周りにいるいろんな虫のおはなしと昆虫観察会、木之本まちづくりセンター昆虫講座、長浜市、木之本まちづくりセンター（滋賀県長浜市）、講演・指導。
- 2017年8月6日、中国で5,000年前から改良された昆虫でつながる湖北の蚕糸・生糸づくりの歴史、木之本まちづくりセンター養蚕講座。長浜市、木之本まちづくりセンター（滋賀県長浜市）、講演。
- 2017年9月21日、養蚕（桑栽培・飼育）技術、大音特殊生糸組合、大音集落（滋賀県長浜市）、指導。
- 2017年10月2日、獣害対策を地域全体で行うための指導者の役割、平成29年度ブロック提案型研修（東海ブロック）中山間地域振興の支援におけるコーディネート機能向上、農林水産省東海農政局、農林水産省東海農政局（名古屋市）、講演。
- 2017年10月12日、養蚕（桑栽培：真綿原料生産）技術、近江町真綿振興協会、米原市近江町集落、指導。
- 2017年10月29日、野生動物（シカ・イノシシ・サル）から農作物を守る、平成29年度高島市野生動物被害対策講座「野生動物から農作物を守る」～これならできる被害対策～、高島市・高島市教育委員会・滋賀県、高島市立今津図書館（滋賀県）、講演。
- 2017年10月31日、鈴鹿山脈の動物－哺乳類・昆虫類－、鈴鹿10座エコツーリズムガイド養成講座、東近江市・東近江市エコツーリズム推進協議会、奥永源寺溪流の里（滋賀県東近江市）、講演。
- 2017年11月11日、サルから田畑を守る、平成29年度高島市野生動物被害対策講座「野生動物から農作物を守る」～これならできる被害対策～、高島市・高島市教育委員会・滋賀県、高島市立今津図書館（滋賀県）、講演。
- 2017年11月23日、第2回東近江市市民参加型生物多様性調査。平成29年度東近江市生物多様性調査。特定非営利活動法人まちづくりネット東近江、伊庭町・蒲生町（滋賀県東近江市）、指導。
- 2017年11月26日、田畑をイノシシから守る（防ぐ）、平成29年度高島市野生動物被害対策講座「野生動物から農作物を守る」～これならできる被害対策～、高島市・高島市教育委員会・滋賀県、高島市立今津図書館（滋賀県）、講演。
- 2017年12月12日、日野B群の個体数調整について、平成29年度第1回滋賀県ニホンザル第二種管理計画検討委員会、滋賀県庁（大津市）、指導。
- 2018年3月5日、滋賀県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画の改定にかかる方針についてなど、平成29年度第2回滋賀県ニホンザル第二種管理計画検討委員会、滋賀県庁（大津市）、指導。
- 2018年3月7日、地域ぐるみと地域づくりによる鳥獣害対策、仙台市西部地域中山間地域活性シンポジウム、宮城県仙台地方振興事務所、茂庭温泉茂庭荘（仙台市）、講演。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 滋賀県立大学、客員研究員。
- 日本昆虫学会、会員。
- 日本鱗翅学会、会員（近畿支部幹事）。
- 日本蛾類学会、会員。
- 日本野蚕学会、会員（委員（評議員））。
- 日本蚕糸学会、会員。
- 誘蛾会、会員。
- びわ湖の森の生き物研究会、会員（幹事長）。
- 農林水産省、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。
- 環境省、鳥獣保護管理プランナー。
- 農林水産省、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（シーズ創出ステージ・発達総合ステージ・実用技術開発ステージ）、審査専門評価委員。
- 農林水産省 平成29年度鳥獣被害対策優良活動表彰審査委員会、審査委員長。
- 農林水産省 平成29年度委託プロジェクト研究「農業における昆虫等の積極的利活用」、審査委員。
- 滋賀県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）検討委員会、委員。

滋賀県総合生きもの調査専門委員会，専門委員.

印刷物

【専門分野の著作】

- 中西康介 (2017) 草津市におけるトガリアメンボの記録. *Came 虫*, 191, 滋賀むしの会 : 5.
- 中西康介・牛島積広・宮武頼夫・八尋克郎・村上大介 (2018) 犬上川河口におけるカワムラナベブタムシ調査の報告. *Came 虫*, 192, 滋賀むしの会 : 8-9.
- 森井清仁・中西康介 (2018) 滋賀県日野町におけるエゾコガムシの新記録. *Came 虫*, 192, 滋賀むしの会 : 13.
- 中西康介 (2018) 風船虫のなぞーミズムシ科の生態と人との関わり. 大庭伸也 編, *環境 Eco 選書「水生半翅類の生物学」*, 北隆館, 東京 : 72-83.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中西康介 (2017 年 8 月 18 日) 水田で繁殖する水生生物群集の保全生態学的研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 森井清仁・中西康介・中野光議・高倉耕一 (2017 年 9 月 16 日) 同所的に繁殖するスジシマドジョウ種群 2 種の対照的な繁殖成功. 2017 年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 北海道大学函館キャンパス (北海道函館市), [ポスター発表].
- Morii, K., Nakano, M., Nakanishi, K. and Takakura, K. I. (2017 年 10 月 14~15 日) Extinction driven by reproductive interference between native species in field—a case study of two spined loaches—Fukuoka, Japan. The 33rd Annual Meeting of the Society of Population Ecology, Kyushu University (Fukuoka, Japan), [ポスター発表].
- 中西康介・大久保卓也 (2017 年 11 月 19 日) 水田における中干しが水生動物群集の動態にあたる影響. 日本環境動物昆虫学会第 29 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 滋賀県立大学 (彦根市), [口頭発表].
- 古川真莉子・沢田裕一・高倉耕一・中西康介・西田隆義 (2017 年 11 月 19 日) 侵略的外来種ヒロヘリアオイラガはなぜ減ってしまったのか—外来種衰退メカニズムの実証①. 日本環境動物昆虫学会第 29 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 滋賀県立大学 (彦根市), [口頭発表].
- 古川真莉子・沢田裕一・高倉耕一・中西康介・西田隆義 (2017 年 11 月 19 日) 侵略的外来種ヒロヘリアオイラガはなぜ減ってしまったのか—外来種衰退メカニズムの実証②. 日本環境動物昆虫学会第 29 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 滋賀県立大学 (彦根市), [口頭発表].
- 森井清仁・中野光議・中西康介・高倉耕一 (2017 年 11 月 18~19 日) スジシマドジョウ 2 種の保全地における危機と順応的管理. 日本環境動物昆虫学会第 29 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 滋賀県立大学 (彦根市), [ポスター発表].
- 寺澤祐貴・中西康介・本間 淳・古川真莉子・西田隆義 (2017 年 11 月 18~19 日) トノサマガエル属 2 種の分布重複域における棲み分けの実態と繁殖干渉の影響. 日本環境動物昆虫学会第 29 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 滋賀県立大学 (彦根市), [ポスター発表].
- 吉田 瑛・古川真莉子・中西康介・高倉耕一・本間 淳・西田隆義 (2017 年 11 月 18~19 日) トノサマガエル属 2 種の荒神山周辺の水田における遺伝子浸透の有無について. 日本環境動物昆虫学会第 29 回年次大会, 日本環境動物昆虫学会, 滋賀県立大学 (彦根市), [ポスター発表].
- Nakanishi, K., Honma, A., Furukawa, M., Takakura, K. I., Fujii, N., Morii, K., Terasawa, Y., and Nishida, T. (2017 年 12 月 15 日) Exclusive distribution of the two congeneric pond frogs, *Pelophylax nigromaculatus*

and *P. porosus brevipedus*, in rice field area around Lake Biwa. The 3rd UST-USP Joint Symposium, The University of Shiga Prefecture (Hikone, Japan), [ポスター発表].

Furukawa, M., Nakanishi, K., Takakura, K. I., Honma, A. and Nishida, T. (2017年12月15日) Why does slug moth make different types of cocoons of variable markings?. The 3rd UST-USP Joint Symposium, The University of Shiga Prefecture (Hikone, Japan), [ポスター発表].

中西康介・大久保卓也 (2017年12月17日) 水田で繁殖する水生昆虫やカエルは中干しを乗り越えることができるのか?. 第8回 琵琶湖流域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

久岡知輝・森井清仁・中西康介・北野大輔・西田隆義 (2017年12月17日) 水田地帯に潜む外来ドジョウ～中干後も水田に留まるカラドジョウ～. 第8回 琵琶湖流域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

中西康介・上田哲行・横溝裕行・林 岳彦 (2018年3月16日) 北陸地方における近年の育苗箱施用浸透性殺虫剤の出荷量とアキアカネ個体数との関係. 日本生態学会第65回全国大会, 日本生態学会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), [ポスター発表].

森井清仁・中西康介・中野光議・高倉耕一 (2018年3月15日) スジシマドジョウ2種の種間関係—資源競争? 見かけの競争? 繁殖干渉?—. 日本生態学会第65回全国大会, 日本生態学会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『『田んぼの生きもの全種リスト』の増補更新と公開システムの構築』(研究代表者: 大塚泰介), 共同研究者 (2017年度).

【学会の役職・運営、論文の査読など】

日本環境動物昆虫学会, 第29回年次大会実行委員, 2017年5月～11月.

日本環境動物昆虫学会, 環動昆, 査読, 2件.

日本応用動物昆虫学会, Applied Entomology and Zoology, 査読, 1件.

日本鳥学会, 日本鳥学会誌, 査読, 1件

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年4月～7月, 滋賀県立大学, 環境フィールドワーク2 非常勤実習助手.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2017年4月16日, 環境保全研修会, 桐生まるごと環境保全隊, 桐生自治会館 (滋賀県大津市), 講師.

2017年5月23日, 伯母川の生きもの観察, 草津市立志津南小学校, 3年総合学習, 草津市立志津南小学校 (滋賀県), 講師.

2017年6月3日, 棚田の生き物観察会・星空観察会, 平尾 里山・棚田守り人の会, 平尾自治会館 (滋賀県大津市), 講師.

2017年6月17日, 魚のゆりかご水田生きもの観察会, 竹町のしぜんを守る会, 竹町公民館 (滋賀県近江八幡市), 講師.

2017年7月22日, 思い川散策 (水生生物観察会), 岩根東生涯学習委員会, 岩根東農業集落センター (滋賀県湖南市), 講師.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2017年5月～，甲賀市レッドリスト2017 策定委員（昆虫類）.
- 2015年4月～，滋賀県生き物総合調査委員会昆虫類部会，委員.
- 2013年4月～，滋賀県立大学環境科学部，客員研究員.

印刷物

【学術論文】

中野聰志・橋本 勘・木村克己・周琵琶湖花崗岩団体研究グループ（2018）琵琶湖南湖湖岸・雄琴花こう岩深層ボーリング試料の記載岩石学. *地球科学*, 72 : 11-20.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

地球科学誌, 編集エディター.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2017年5月30日, 龍谷大学レックコミュニティカレッジ2017, 「近江の鉱物と自然」第4回「長石よもやま話」.
2017年6月6日, 龍谷大学レックコミュニティカレッジ2017, 「近江の鉱物と自然」第5回「琵琶湖の藍鉄鉱」.
2017年4月1日～2018年2月20日, 滋賀大学教育学部卒業研究「葛根田花崗岩中のアルカリ長石」についての助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ「大津の岩石調査隊」, 野外観察・講義等, 指導補助（顧問）.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中野正俊（2017年11月25日）児童の理科学力と学習意欲向上に寄与する博物館・学校・地域連携. 日本理科教育学会近畿支部大会, 滋賀大学教育学部(大津市), [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費助成事業（基盤 C）「児童の理科学力と学習意欲向上に寄与する博物館・学校・地域連携モデルの開発と汎用化」（研究代表者：中野正俊），研究代表者（2015年度～2017年度）.

【受賞など】

平成 29 年度滋賀県教育会教育研究優秀賞，2018 年 3 月 9 日，「人材育成・・・「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して・・・」の著作に対して.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

廣石伸互（2017年12月9日）身近な抗体と便利な抗体. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

廣石伸互（2018年2月28日）抗体によるアオコ形成種 *Microcystis* の単独細胞の検出. 中日藍藻水花 workshop, 河海大学（中国南京市）, [口頭発表].

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本水環境学会, 中部支部会, 参与.

マリンバイオロジー学会, 評議員.

沿岸環境関連学会連絡協議会, 運営委員.

日本水産学会, 水産環境保全委員会, 委員.

福井県衛生環境研究センター, 調査研究等評価委員会, 議長.

小浜市環境審議会, 議長.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2017年4月6日～7月27日, 白鳳短期大学, 微生物学, 非常勤講師.

2017年4月17日～7月18日, 公立若狭高等看護学院, 病態論 II, 非常勤講師.

2017年9月25日～2018年2月5日, 青丹学園言語聴覚学科, 病理学, 非常勤講師.

2017年10月5日～2018年2月22日, 青丹学園看護学科, 病理学, 非常勤講師.

印刷物

【専門分野の著作】

- 藤岡康弘 (2017) 魚類と湖岸環境の保全. 西野麻知子・秋山道雄・中島拓男 編, *琵琶湖岸からのメッセージ*, サンライズ出版: 151-173.
- 藤岡康弘 (2018) サクラマス種群・ビワマス・サクラマス・サツキマス. 中坊徹次 編・監修, *日本魚類館*, 小学館: 139-141.

研究活動に関する業績

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

Journal of Fish Biology, 査読, 1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2017年5月28日, 琵琶湖の価値と生物多様性, 大津市, 第6回市民文化講座, 滋賀文化懇話会, 講演.
- 2017年6月3日, Sea to summit シンポジウム, Sea to summit 実行委員会, 東近江市, パネラー.
- 2017年6月10日, 東近江市市民参加生きもの調査 (春), 東近江市, 東近江市, 講師.
- 2017年6月12日, 琵琶湖の環境と魚, 日野町立必佐小学校, 日野町立必佐小学校 (滋賀県), 講演.
- 2017年10月26日, 琵琶湖の生物多様性と人のかかわり, 全国環境関連試験研究機関連絡会, 琵琶湖博物館, 講演.
- 2017年10月29日, 琵琶湖の漁業におけるアユの現状, 瀬田川リバブレ隊, 大津市, 講演.
- 2017年10月31日, 東近江市の自然と魚類, 東近江エコツーリズム協会, 東近江市, 講演.
- 2017年11月11日, ビワマス産卵観察会, 東近江エコツーリズム協会, 東近江市, 講師.
- 2017年11月23日, 東近江市市民参加生きもの調査 (秋), 東近江市, 東近江市, 講師.
- 2017年12月9日, ビワマスフォーラム, ビワマス復活再生プロジェクト, 野洲市, パネラー.

印刷物

【専門分野の著作】

矢田直樹 (2017) 盆行事における精霊祭祀の変遷について—塚状祭場を中心に—. 植木行宣・樋口 昭 編, 民俗文化の伝播と変容, 岩田書院: 451~468.

【一般向けの著作】

矢田直樹 (2017) 歴史街道をたどる 浅小井. 京都新聞, 京都新聞社, 7月9日.

矢田直樹 (2017) 歴史街道をたどる 上麻生. 京都新聞, 京都新聞社, 12月17日.

矢田直樹 (2018) 歴史街道をたどる 中山. 京都新聞, 京都新聞社, 1月7日.

矢田直樹 (2018) 親子で楽しむ文化財 ～民俗文化財～. 教育しが, 67, 滋賀県教育委員会: 3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

矢田直樹 (2017年11月18日) ものがたり観光行動学会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2017年6月8日, 無形民俗文化財の保護団体—長浜曳山祭を事例として—, 文化庁, 平成29年度 民俗文化財担当国会議, 航空会館 (東京都港区), 事例報告.

2017年6月17日, 日本の祭りを世界に発信—ユネスコ無形文化遺産—, 一般財団法人守山野洲市民交流プラザライズヴィル都賀山, つがやま市民教養文化講座, ライズヴィル都賀山 (滋賀県守山市), 講師.

2017年8月17日, 近江の曳山祭り, 滋賀県教育委員会・滋賀県立琵琶湖文化館, 滋賀の文化財講座「打出のコツチ」, コラボしが21 (滋賀県大津市), 講師.

2017年9月3日, 近江中山の芋競べ祭りの見どころ, 日野町文化懇談会, 会員研修会, 金剛定寺 (滋賀県日野町), 講師.

2017年9月13日, 文化財と保存修理～伝統工芸技術～, 彦名仏壇事業協同組合, 研修会, 彦根商工会館 (滋賀県彦根市), 講師.

2017年10月28日, 現地交流探訪会, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク, 滋賀県教育委員会, 土山町黒川現地交流探訪会, 甲賀市土山町黒川 (滋賀県), コーディネーター・司会.

2017年11月19日, 現地交流探訪会, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク・滋賀県教育委員会, 大宝現地交流探訪会, 栗東市大宝 (滋賀県), コーディネーター・司会.

2017年11月24日, 水口曳山祭のよりよい保存継承に向けて, 水口曳山保存振興会, 勉強会, 水口神社 (滋賀県甲賀市), 講師.

2017年12月2日, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク研修会, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク・滋賀県教育委員会, 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク研修会, 高島市立新旭公民館 (滋賀県), コーディネーター・司会.

2018年2月23日，近江の曳山祭り，米原市教育委員会，米原市歴史講座，伊吹山文化史料館（滋賀県米原市），講師。

2018年3月25日，日野町のまつりと伝統文化，日野文化協会，第1回文化フォーラム，わたむきホール虹（滋賀県日野町），コーディネーター。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2017年～2018年，小浜放生祭総合調査（小浜市教育委員会），調査員。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

山本充孝（2017年11月18日）琵琶湖産アユ種苗における冷水病の実用的な防除技術. 第23回近畿大学水産増殖談話会研究会, ホテルむさし（和歌山県白浜町）, [口頭発表]

山本充孝（2017年11月19日）琵琶湖の漁港で産卵するオオクチバスの釣りによる駆除. 第29回環動昆年次大会・市民公開セミナー「湖国滋賀で展開される有害生物管理のいま」, 日本環境動物昆虫学会, 滋賀県立大学（彦根市）, [口頭発表]

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2017年8月20日, 水辺の楽校（夏編）, びわこ豊穰の里, 目田川（滋賀県守山市）, 講師.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類資料（アユ）, 収集.

総合研究・共同研究による印刷物

- 東 幸代 (2017) 幕末～明治前期における琵琶湖葎問屋の葎地. *淡海文化財論叢*, 9 : 253-257.
- 橋本道範 (2017) 網野善彦と「自然そのものの「論理」」. *歴史評論*, 805 : 56-68.
- 橋本道範 (2018) 『近江水産図譜』の世界—明治期の琵琶湖漁撈—. 琵琶湖博物館 : 6p.
- 春田直紀 (2017) 浦刀祢家文書の世界. *アジア遊学*, 209 : 276-294.
- 春田直紀 編 (2017) *中世地下文書の世界—史学論のフロンティア—*, 勉誠出版 : 310p.
- 春田直紀 (2018) さかのぼり地域史のすすめ—熊本と阿蘇を事例に—. *社会と人間*, 276-294.
- 林 竜馬 (2017) 変動する森から見つめる“人新世”. *現代思想*, 45 (22), 青土社 : 88-98.
- 林 竜馬 (2017) びわ博こだわり展示の裏話 6 本当のスギ花粉 知っていますか? 少し曲がったツノ 愛らしく.
毎日新聞, 毎日新聞社, 6月20日.
- 林 竜馬 (2017) 湖岸より 302 湖と森を感じる博物館へ. *中日新聞*, 中日新聞社, 9月30日.
- 林 竜馬・佐々木尚子・瀬口眞司 (2017) 滋賀県の遺跡における考古学データの集成—琵琶湖地域における人と森の相互関係史解明に向けて—. *紀要*, 公益財団法人滋賀県文化財保護協会, 30 : 97-105.
- Hayashi, R., Takahara, H., Inouchi, Y., Kakemura, K. and Igarashi, Y. (2017) Vegetation and endemic tree response to orbital-scale climate changes in the Japanese archipelago during the last glacial-interglacial cycle based on pollen records from Lake Biwa, western Japan. *Review of Palaeobotany and Palynology*, Elsevier, 241: 85-97.
- 保立道久 (2017) 日本前近代の国家と天皇. 歴史科学協議会 編, *歴史学が挑んだ課題 継承と展開の50年*, 大月書店 : 18-41.
- 市川秀之 (2017) 準備としてのオコナイ. *淡海文化財論叢*, 9 : 286-291.
- Kadowaki, K., Nishijima, S., Kéfi, S., Kameda, K. O. and Sasaki, T. (2017) Merging community assembly into the regime-shift approach for informing ecological restoration. *Ecological Indicators*, 85: 991-998.
<https://doi.org/10.1016/j.ecolind.2017.11.035>
- 苅米一志 (2017) 明応年間における備前西大寺の復興造営. *古文書研究*, 84 : 1-15.
- 苅米一志 (2018) 「三輪上人行状」の形成と構造. *就実大学史学論集*, 31 : 1-15.
- 苅米一志 (2018) 禅律仏教の「意識」と実戦—死と病をめぐる—. 就実大学吉備地方文化研究所 編, *人文知のトパス*, 和泉書院 : 111-124.
- 河瀬直幹・牛島稔広・八尋克郎 編 (2018) *滋賀県のトンボ (2010年代) 琵琶湖博物館研究調査報告書*. 30 : 181p.
- 中井 均・東 幸代ほか (2017) *古地図で楽しむ近江*. 風媒社, 163p.
- 中井克樹 (2017) 琵琶湖の外來魚問題をふり返って: その背景と経緯. *海洋と生物*, (228) : 3-9.
- 中井克樹 (2017) 侵略的外來魚オオクチバスに対する対策—特に影響軽減のための新しい手法について. *生物の科学遺産*, 71 (1) : 34-40.
- Nakano, T., Nakamura, R., Ohtsuka, S., Suzuki, T. and Suzuki, D. (2017) Low genetic diversity in *Ozobranchus jantseanus* (Hirudinida: Ozobranchidae) in Japan: Possibility of introduction with their host turtles. *Parasitology International*, 66 (6):798-801.
- 小椋純一 (2018) 中世以降における神社林の変遷. *歴史評論*, 816 : 57-68.
- 小椋純一 (2018) 高度経済成長期を画期とした西中国山地の植生景観変化とその背景について—広島県北西部八幡高原と山口県秋吉台の場合—. *国立歴史民俗博物館研究報告*, 207 : 43-77.
- Ohba, S. and Maeda, A. (2017) Parental care behavior of the giant water bug *Kirkaldyia deyrolli* (Heteroptera: Belostomatidae) against ants. *Ecological Entomology*, 42: 402-140.
- 村上由美子・鈴木三男 (2017) 浙江省田螺山遺跡で出土した新石器時代の木製品の調査. *植生史研究*, 26(2):1-2.
- 村上由美子 (2017) 木器・木製品. *下之郷遺跡発掘調査報告書—総括編—*, 10 : 124-142.
- 村上由美子 編 (2017) *京都大学総合博物館収蔵資料目録第3号 考古図録* : 127p.

- Sánchez Goñi, M. F., Desprat, S., Daniau, A.-L., Bassinot, F. C., Polanco-Martínez, J. M., Harrison, S. P., Allen, J. R. M., Anderson, R. S., Behling, H., Bonnefille, R., Burjachs, F., Carrión, J. S., Cheddadi, R., Clark, J. S., Combourieu-Nebout, N., Mustaphi, Colin. J. Courtney, Debusk, G. H., Dupont, L. M., Finch, J. M., Fletcher, W. J., Giardini, M., González, C., Gosling, W. D., Grigg, L. D., Grimm, E. C., Hayashi, R., Helmens, K., Heusser, L. E., Hill, T., Hope, G., Huntley, B., Igarashi, Y., Irino, T., Jacobs, B., Jiménez-Moreno, G., Kawai, S., Kershaw, A. P., Kumon, F., Lawson, I. T., Ledru, M.-P., Lézine, A.-M., Liew, P. M., Magri, D., Marchant, R., Margari, V., Mayle, F. E., McKenzie, G. M., Moss, P., Müller, S., Müller, U. C., Naughton, F., Newnham, R. M., Oba, T., Pérez-Obiol, R., Pini, R., Ravazzi, C., Roucoux, K. H., Rucina, S. M., Scott, L., Takahara, H., Tzedakis, P. C., Urrego, D. H., van Geel, B., Valencia, B. G., Vandergoes, M. J., Vincens, A., Whitlock, C. L., Willard, D. A., and Yamamoto, M. (2017) The ACER pollen and charcoal database: a global resource to document vegetation and fire response to abrupt climate changes during the last glacial period. *Earth System Science Data*, 9: 679-695, Copernicus Publications.
- 澤邊久美子 (2017) 社会的責任・環境コミュニケーション卒業生の活躍「身近な草むらの世界を伝えたい」. *名古屋大学環境報告書*, 名古屋大学施設管理部: 32.
- 瀬口眞司 (2018) 関西縄文社会の地域的特色とその背景. *国立歴史民俗博物館研究報告*, 208: 191-213.
- Smith, R. J., Zhai, D., Savatnalinton, S., Kamiya, T. and Yu, N. (2018) A review of rice field ostracods (Crustacea) with a checklist of species. *Journal of Limnology*, 77, PAGEPress: 1-16.
- 戸田 孝 (2017) 博物館の「副次的機能論」への序論. *博物館学雑誌*, 43 (1), 全日本博物館学会: 1-17.
- 矢田直樹 (2017) 盆行事における政令祭祀の変遷について—塚状祭場を中心に—. 植木行宣・樋口 昭 編, *民俗文化の伝播と変容*, 岩田書院: 451-468.
- 楊 平 (2017) 名水「観光」にみる地域社会の活性化. *ものがたり観光行動学会誌*, 7, ものがたり観光学会: 14-25.
- 楊 平 (2018) 博物館における多言語対応 (特集 博物館における多言語対応). *博物館研究 = Museum studies*, 53 (1), 日本博物館協会: 11-14.

*編集者注: このリストでは、印刷物を研究課題ごとに分けることなく、すべてを著者名のアルファベット順に並べた。

2017 年度の研究活動をふりかえって

琵琶湖博物館は開館 21 年目となり、今年度は 2016 年度に策定した新琵琶湖博物館創造基本計画の研究活動方針に沿って、行動計画の研究事業を進めた。2018 年 7 月の第 2 期交流空間のリニューアルオープンを目指して、これまで 20 年間の当館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人たちと共に調査研究した成果および研究調査に基づいた資料の集積を活かし実施設計を行った。

研究活動方針のひとつである、琵琶湖淀川水系の文化や固有種を含む生物多様性とその形成過程など東アジア水系の特徴を明らかにする研究を進めるために、中国科学院水生生物研究所・博物館との情報交換やセミナーを開催した（2017 年 4 月滋賀）。また、韓国洛東江生物資源館との情報交換や合同セミナー、研究における相互交流に向けた検討会を実施した（2017 年 7 月滋賀）。それを受けて 9 月には国際シンポジウムに参加し、琵琶湖地域の研究成果を発表し、研究協力のスケジュール調整を行った。もうひとつの方針である、古代湖としての琵琶湖の価値を高めるため、湖の形成とその環境変化、固有種の成立、種分化や進化、湖辺での暮らしや歴史的な人と湖との関わりを捉える研究に取り組んでいる。マケドニア共和国のオフリド水生生物研究所との MOU の推進を図るため、同研究所所長および研究員を招聘し、第 1 回目の情報意見交換および今後の共同研究、事業について検討協議した（2018 年 1 月滋賀）。今後、「古代湖」や「東アジア水系」の特徴や価値を見出す比較研究を推進するには、国際協力協定を結んでいる海外の博物館、研究機関との資料交換や共同研究など協力関係を継続して密接にとっていく必要がある。

今年度の研究発信は、学術論文 18 件、専門分野の著述 44 件、一般向けの著述 96 件、学会発表は 139 件であった。研究成果の発信数は論文数において過去にない、低い水準に留まった。その一方で、学会や研究会での発表が増加したことから、今後論文としての公表が見込まれる。また、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えるために、中日新聞連載コラム「湖岸より」や毎日新聞「びわ博 こだわり展示の裏話」などへの執筆のほか、琵琶湖博物館ブックレットシリーズの刊行を継続している。今年度は第 4 号「琵琶湖の漁業 いま・むかし」、第 5 号「近江の平成雲根志」、第 6 号「タガメとゲンゴロウの仲間たち」を発売し、今後も継続してその充実を図っていききたい。新琵琶湖学セミナーでは「琵琶湖博物館ブックレットから見えてくる研究の新たな展望」と題し、ブックレットの刊行にちなんだ内容を深く理解してもらうための一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、第 1 号、第 3 号、第 4 号の執筆者および関連する研究の最前線について、学芸員や外部研究者が講義を行った。1 月、2 月、3 月の 3 回に渡って、6 本の発表を行い、合計 189 名の参加があった。今後も、研究成果をわかりやすく伝える研究発信をセミナー形式で行っていくことが望まれる。また、研究発信のひとつである第 25 回企画展示は、「小さな淡水生物の素敵な旅」と題し、7 月 15 日～11 月 19 日まで開催した。観覧者数は 49,128 人でたいへん好評であった。

研究予算としては、年々県費による研究費が減少する中で、これまで科学研究費などの外部資金の獲得に組織的に取り組んできた。今年度は、1 件の新規採択があり、継続を合わせて 6 件という結果であった。博物館活動の根幹となる研究の先細りに危機感を持つ。今後も科学研究費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていくこと、さらにそれ以外の外部助成に積極的に応募するなど研究費の確保を行っていく必要がある。今年度は研究専念日として週 1 日確保を目標に、各学芸員が曜日を設定し実施する試みを行った。結果として、実質は続くリニューアル対応などで研究専念が取得しにくい状況ではあったが、意識改革としては効果があったと思われる。今後は研究時間の確保等、研究環境の改善を進めることが重要課題となるであろう。

研究部長 山川千代美

琵琶湖博物館業績目録 第22号

2017年度

平成30年(2018年)6月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091
電話 077-568-4811(代)